

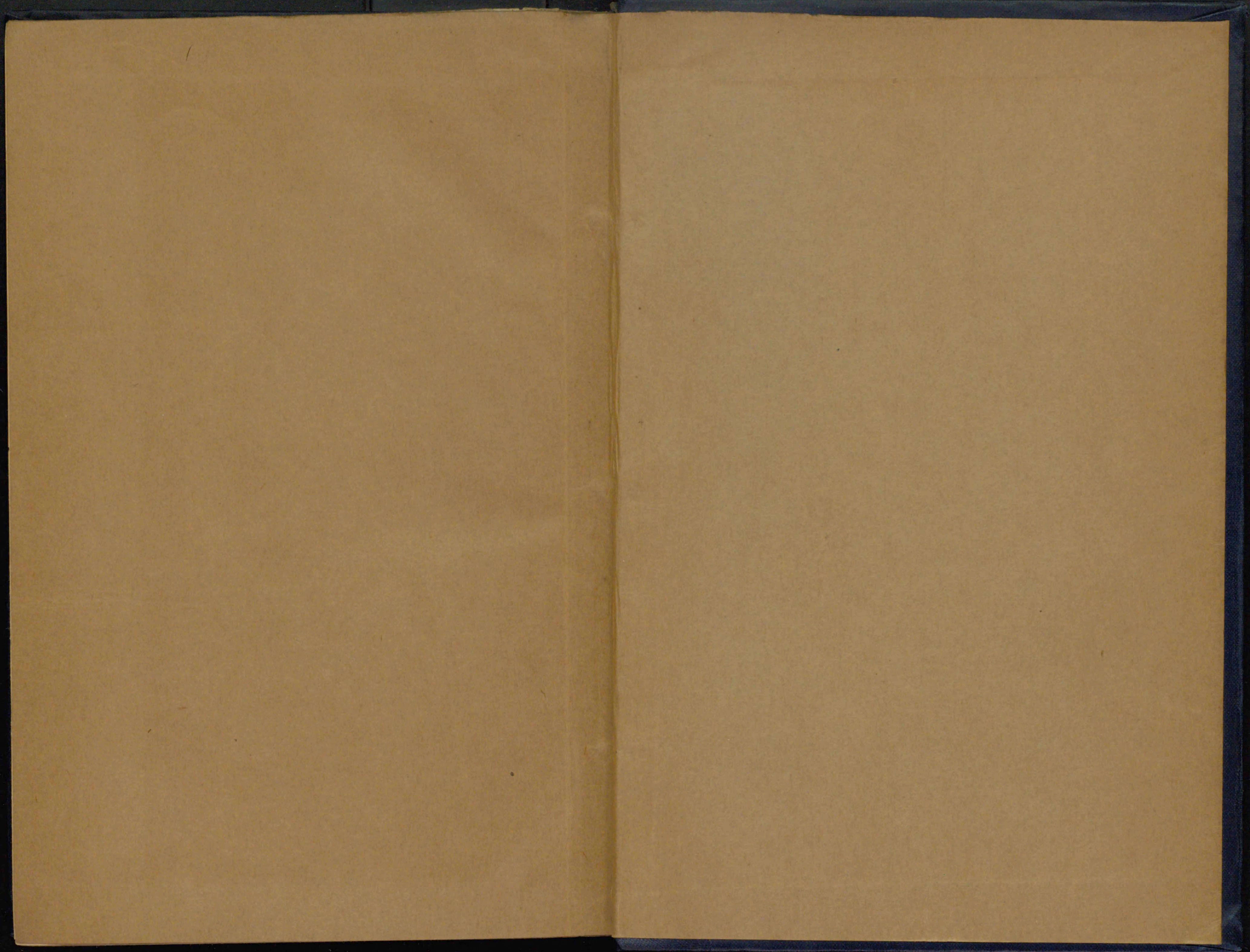
609-409



1200501534034

609

79



424



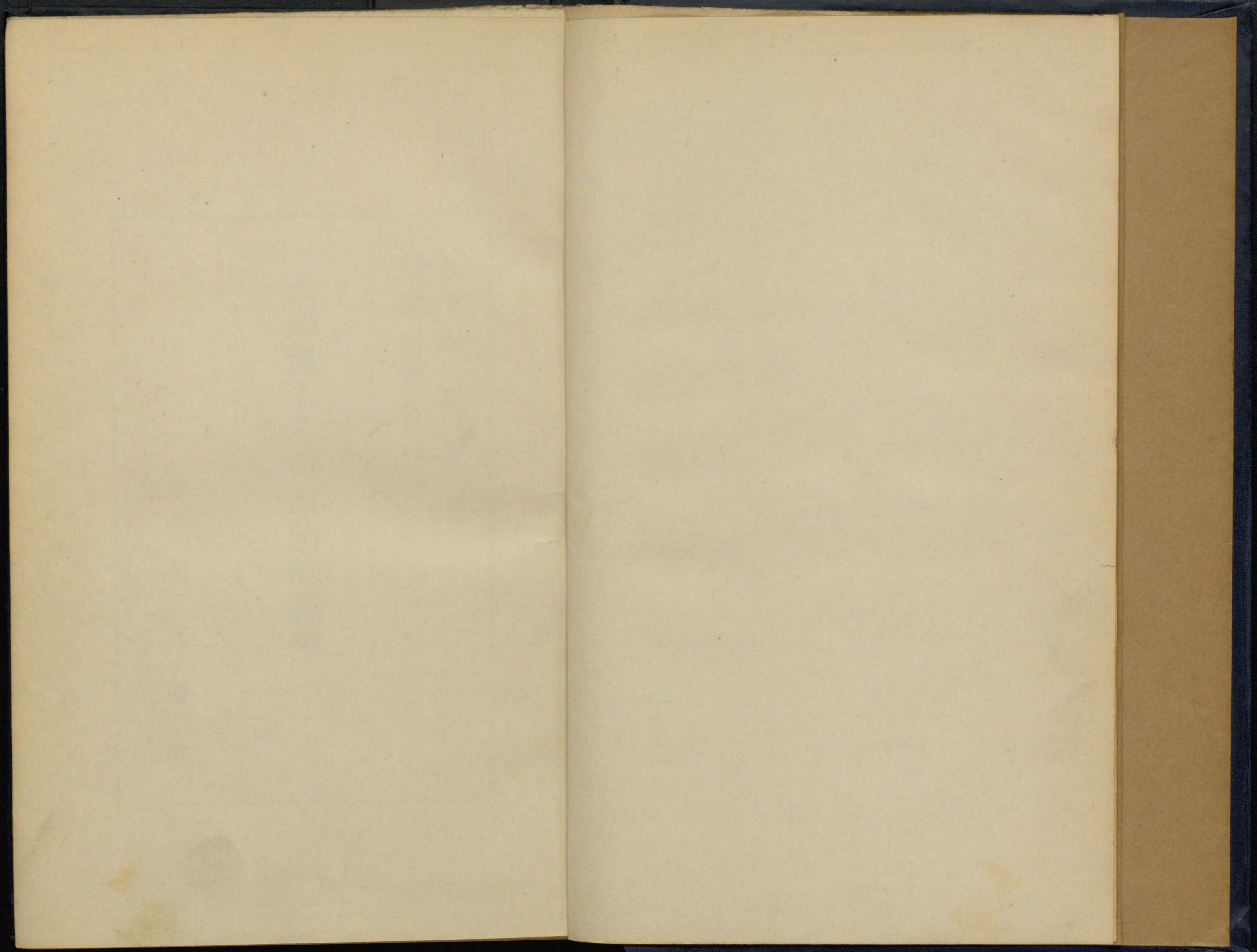
と 大 恐 慌

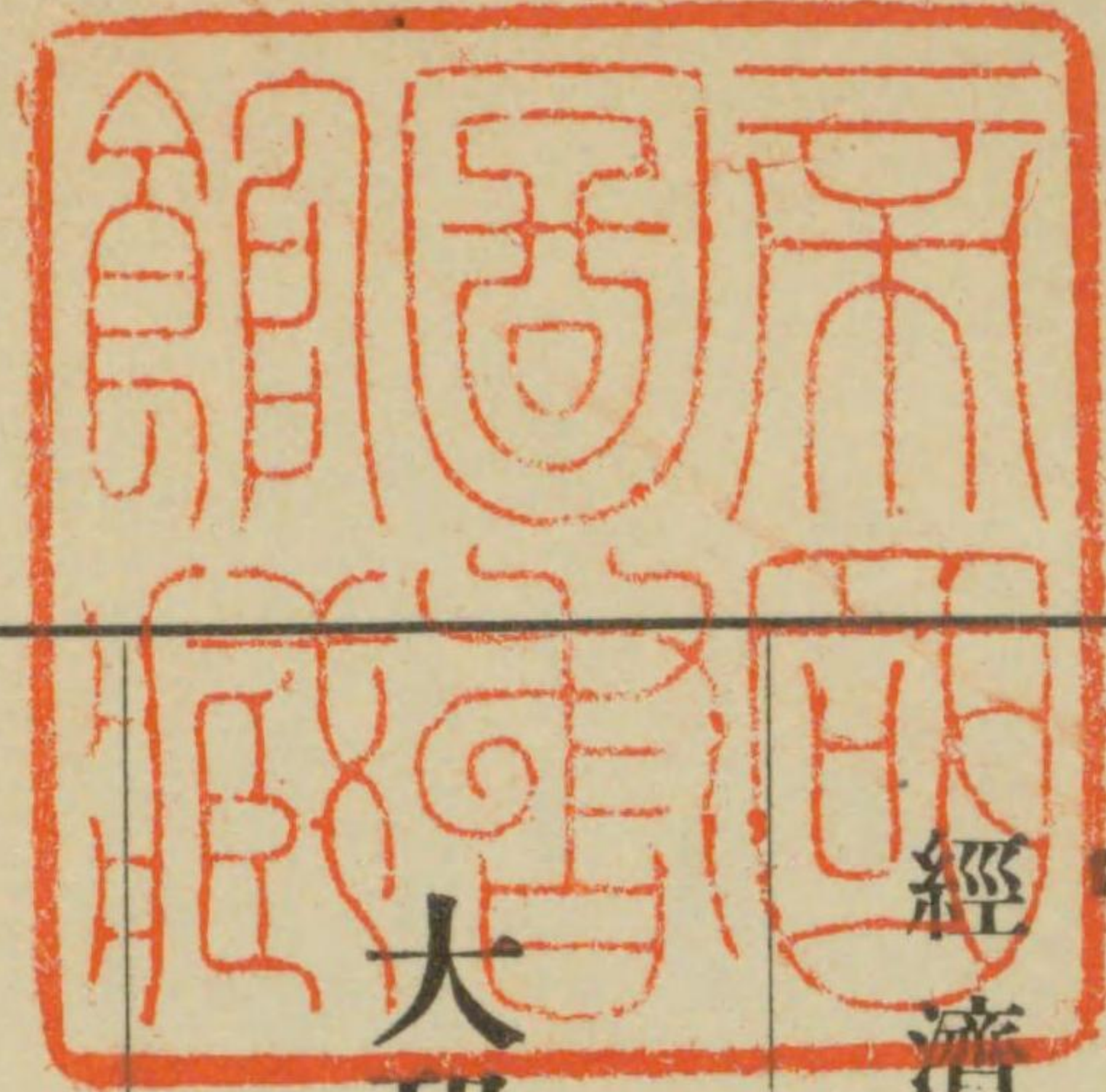
その政治的結果

著 ガルァヴ

譯 會 判 批 濟 經

版 閣 文 叢





ヴァルガ著
經濟批判會譯

大恐慌とその政治的結果

東京叢文閣版



609-409

手 引 き

- 一、本書は E. Varga, Die grosse Krise und ihre politischen Folgen—Wirtschaft und Politik 1928—1934, Verlagsgenossenschaft ausländischer Arbeitern in der UdSSR, Moskau-Leningrad, 1934 の全譯である。
- 二、本書中角括弧「」中の部分は、譯者が讀者の便宜のために挿入したものである。原文の意味を誤ることがなければ幸である。
- 三、本書は原著者がその序文で言つてゐるやうに、一九二九—三三年の世界經濟恐慌とその政治的結果とを要約的に分析記述したものであつて、原著者がこれまで『世界經濟年報』その他で取扱つて來た一切の諸問題を總括したものととして、注目さるべき著作である。

一九三五年五月

譯 者

手 引 き

一

著者序文

本書は………大會から「一九三四年」に至るまでの期間の諸成果を簡潔な形態で描き出さうと企てたものである。それは決して歴史ではなく、將來の見透しのための分析である。

この種の企てには特殊の困難がある。現在世界現象を規定してゐる諸要因、資本主義的生産様式の危機、二つの………闘争、帝國主義的諸對立、ブルジョアジーとプロレタリアートとの間………等は、同時にしかも相互にあらゆる面にからみ合はされて作用してゐる。言葉は時間的な序列に於ての叙述を許すに過ぎない！ だから、絶えず繰り返し論じて行くか、さもなければ、最初は不完全な分析をやり、後の章に至つて初めてこの分析を完全なものにするか、しなければならぬ。吾々はこの後の方法を選んだ。だから、本書は全體をまとめて読み、まとめて評價して貰ひ度い。個々の章は決してそれだけでは完成された全體をなしてゐない。

マルクス主義にあまり通じてゐない讀者には、第一章を理解することは或る程度困難であるかも知れない。(尤も吾々は解り易く——勿論俗流化することなく——書くやうに努めはした)。大經濟恐慌の特異性と現在の不景氣の特殊性とは、マルクスの恐慌及び循環理論の基礎の上のみ、はつきりと理解することができ！ この問題は………の發展の見透しにとつて最大の重要性を持つてゐるから、吾々は最初にこの理論的な章を持つて來る必要があると考へた。だが、この章の六つかしさは讀者が進んで次の部分を読むことを妨げない。本書は第一章を取り去つても一つの完成された全體をなしてゐる。

分析は國別にではなく、問題別にやられてゐる。そのために、國による發展の不均等は不充分にか現はれてゐない。だが、國別に叙述するには、餘り多くの紙面が必要であり、餘り多く繰り返しが必要であつた。

本書は決して完全なものだとは自稱しない。労働者階級の經濟闘争の諸問題や各國の………戦略上及び戰術上の諸問題は、取り上げられてゐない。あらゆる………の集会的な經驗が綜合される………で、この問題について意見を述べることは、吾々の誇りである。

一九三四年九月四日、モスコにて

オイゲン・ヴァルガ

大恐慌とその政治的結果 目次

手引き	一
著者序文	二
緒論	一
第一章 經濟恐慌の經濟的基礎	一四
一 資本主義の辯護者たちは恐慌の不可避性を否定する	一五
二 恐慌理論と資本主義の崩壊	一八
三 資本主義的生産の循環性的進行の原因としての蓄積	二六
第二章 一九二九—三三年の大恐慌	三六
一 一九二九—三三年恐慌の特質	三六
二 恐慌の深刻さ	四〇
三 恐慌の全包括的性質	五〇
目次	一

四	恐慌の持續期間の長さ	五九
五	恐慌中の物價下落	六〇
六	利潤の減少	六五
七	信用恐慌とその特殊性	六九
八	本位貨の減價	七二
九	金本位貨諸國について數言	七六
一〇	信用體制及び資本輸出の崩壞	八二
一一	外國貿易の萎縮	八五

第三章 世界農業恐慌……………八九

第四章 植民地に於ける恐慌……………一二

第五章 効果なき人爲的な恐慌克服の試み……………二三

第六章 現在の不景氣の特殊な性質……………三三

- 一 恐慌の底入れと不景氣への移行……………三九
- 二 不景氣についてのマルクスの見解……………四二
- 三 現在の不景氣についてのスターリンの見解……………四五
- 四 現在の不景氣の特殊な性質……………四六
- 五 見透し……………五〇

第七章 經濟恐慌の社會的諸結果……………五二

- 一 支配階級内部の鬭争の尖鋭化……………五三
- 二 都市小市民層の状態の悪化……………五三
- 三 非獨立小市民層にとつての恐慌の社會的結果……………五五
- 四 各種の農民層にとつての恐慌の社會的結果……………五五
- 五 プロレタリアートの窮乏化……………五七
- (a) 恐慌のなかでの大衆的失業と勞働能率の増進……………五七
- (b) 實質賃銀の切下げ……………五九
- (c) 社會的扶助の削減……………六〇
- (d) 勞働時間……………六一

(e) 勞働の強度性の増進	110H
(f) 強制勞働	110I
(g) 植民地に於ける勞働者の恐るべき状態	110J
第八章 ソヴェート同盟	117
第九章 第二の破れ目——ソヴェート中國	124
第十章 恐慌の外交的結果	132
一 二つの體制の間の鬭争の尖鋭化とソヴェート同盟の平和政策の成功	134
二 安定化の外交的基礎の清算	142
一 ヴェルサイユ體制の崩壊はその終局に近づきつゝある	143
二 太平洋に於ける優位争奪の鬭争	147
三 新しき世界鬭争を前にして	152
第十一章 ブルジョアジー獨裁の方法の變化	167
一 社會民主主義の危機	170
一 社會民主主義の政治的危機	171
二 社會民主主義のイデオロギー的危機	172
三 社會民主主義の組織的危機	175
二 ファシズムの増大	178
三 権力を握つてゐるファシズム	181
第十二章 統一戦線及び………ための鬭争	180
一 ソヴェート同盟の	185
二 社會民主主義の危機	188
三 植民地に於ける………運動の性質の變化	191
四 資本主義諸國に於ける農民	190
五 ……の主體的要因の進歩	190

附録 アメリカ工業に於ける餘剩價值率の計算	194
-----------------------	-----

捕 鯨 業 及 其 の 工 業 的 状 況 及 捕 鯨 船 率 の 信 算 三六四

五 の 主 體 的 要 因 の 説 明 三六〇

四 資 本 主 義 階 級 の 状 況 三六〇

三 捕 鯨 船 の 状 況 鯨 價 の 封 買 の 變 化 三五九

二 捕 鯨 船 主 主 義 の 説 明 三五八

一 捕 鯨 船 主 同 盟 三五六

第 十 二 章 捕 鯨 船 主 同 盟 の 關 係 三四〇

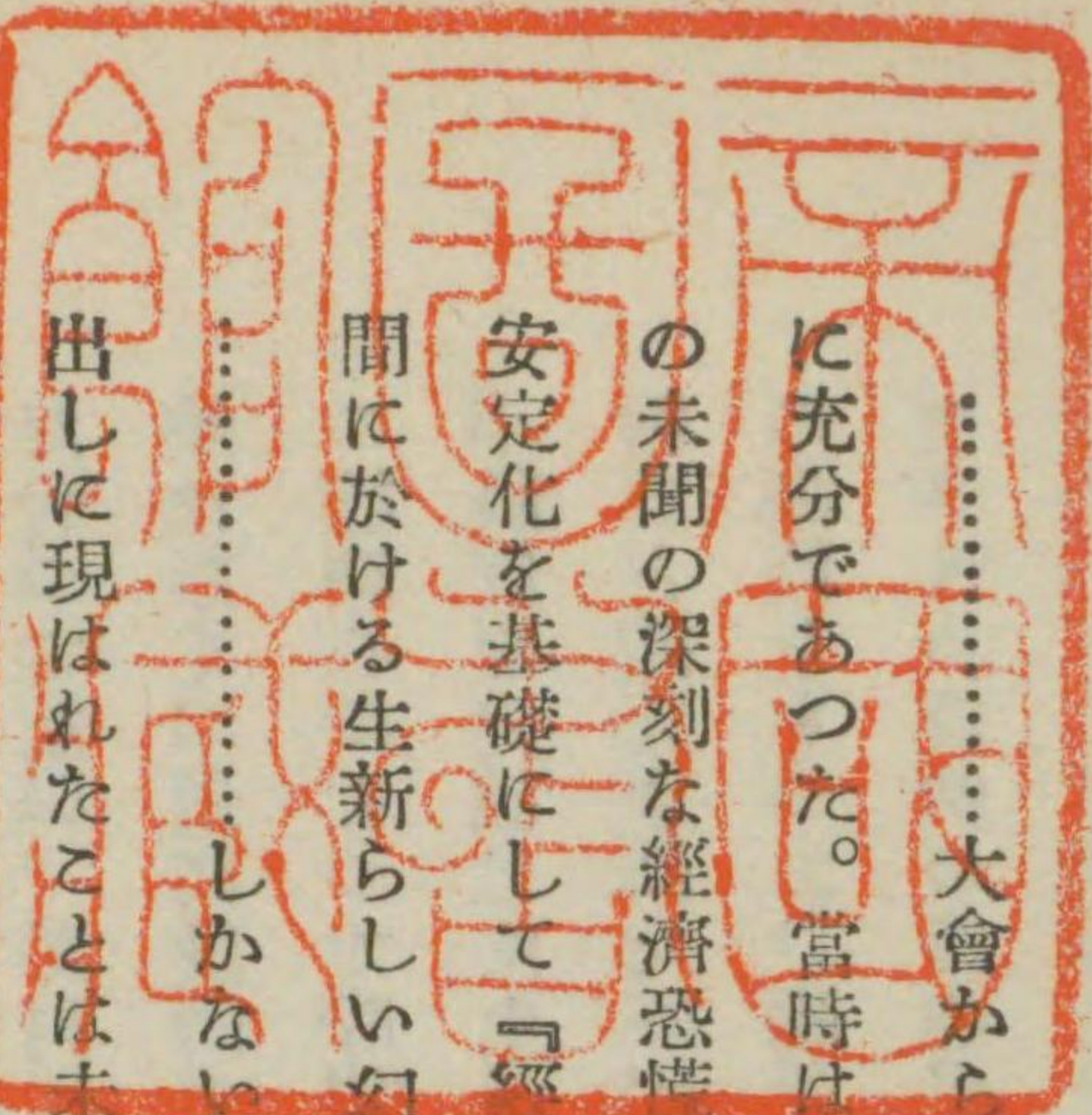
三 捕 鯨 船 主 同 盟 の 状 況 三四二

二 捕 鯨 船 主 同 盟 の 説 明 三四一

三 捕 鯨 船 主 同 盟 の 説 明 三四一

大恐慌とその政治的结果

緒論



……大會から六ヶ年経つた。この短い六ヶ年は資本主義世界の様相を根本的に變化させるに充分であつた。當時は安定化、今は……第二幕の前夜。當時は繁榮、今は——四年間繼續の未聞の深刻な經濟恐慌の後——新たな繁榮局面への見透しのない特殊の不景氣 Depression。當時は安定化を基礎にして『經濟民主主義』に基づく資本主義の枠内での平和的向上に關する労働者階級の間に於ける生新しい幻想、今はプロレタリアートにとつて……ブルジョアジー……、ブルジョアジーといふ認識の急速な成長。生産諸力と生産關係との間の矛盾がこれほどむき出しに現はれたことはまだ曾つてなかつた！ 勤勞大衆の窮乏及び飢餓と同時にこれほど老大な財の過剰が存在したことは未だ曾つてなかつた！ 人間が人間らしく生きることができたためには、資本主義的社會秩序……なければならぬといふことが、これほど明かになつたことは未だ曾つてなかつた！

最近六ヶ年間に起つた變化は非常なものである。曾つては資本主義の代辯人たちがいかに傲慢不遜

であつたことか！ 彼等は繁榮に目をくらまされて資本主義の繼續的な新たな昂揚を吹聴し、資本主義的社會秩序は微動だにしないと吹聴した。合衆國の金融資本の老練な辯護士である大統領カルヴィン・クーリッジは、一九二八年十二月四日合衆國議會への告別教書のなかで、次のやうに聲明した。

「合衆國の状態を概観すべきアメリカ合衆國の議會が、今日ほど有望な見透しを持つたことは、未だ會つてない。國內には平靜と満足、資本家と賃銀受領者との間の平和な關係が充ち満ち、賃銀闘争はなく、最高段階の繁榮が支配してゐる。……吾々の企業慾と勤勉とによつて作り出され、吾々の經濟心によつて貯蓄された巨大な富は、吾國の民衆の間に最も廣汎に分配された。……生存の最小限度を突破した生活水準は、奢侈の域にまで進んでゐる。増大した生産の結果は國內の増大した需要と擴大された外國貿易とによつて消化された。この國は現在をば満足をもつて、將來をば全幅の樂觀をもつて、眺めることができる。』

アメリカ經濟の指導者もこれに劣らず樂觀的な言葉を吐いた。「ベスレ・ヘム製鋼會社」の社長シユウ・ブは次のやうに吹聴した(1)。

「私は確信をもつて言ふ。吾々がこれまでに經驗した一切のものに引導を渡すやうな繁榮が成長することのできる基礎が置かれたと。』

(1) 『ニューヨーク・タイムズ』一九二八年十月二十九日。

「ヂェネラル・モーターズ」の社長は、次のやうに聲明した。

「一九二九年に關しての私の立場は、吾國の經濟狀態及び産業狀態は徹頭徹尾健全であるといふ確信に基づいてゐる。だから、私は何故に全般的な進歩が續かないか、何故に吾々がすばらしい營業狀態と一層高度の繁榮を享受してはならないか、その理由が判らないのである。』

ドイツ金融寡頭の當時の指導者であり、一九三一年に最後の崩壊するに至つたダーナト銀行の總支配人であつたヤコブ・ゴールドシュミットは、一九二八年秋ケルンの銀行家大會でこれに劣らず誇らしげに次のやうに吹聴した。

「一方では豫言者的な天才たちが資本主義時代の終末と個人的營利經濟の國家社會主義的經濟による代置とを述べたて、現存の經濟秩序は没落を宣告され、新たな經濟形態によつて取つて代られるといふ思想が、一つの脅迫觀念のやうに幾重にも人類を支配してゐるのに、實際の經濟指導はなほ益々有力にその資本主義的方法をもつて前進してゐる。それは、資本基礎を失つたにも拘はらず、戰敗の世界大戰の廢墟の上に、……的な時代の寮圍氣の反抗にも拘はらず、僅々五ヶ年に足らぬ短期間に時代遅れな技術的狀態から新たな經濟機構を作り出した。勿論、この新たな經濟機構は理想

的なものではないが、それでも先づ充分に機能してゐる。……』

ブルジョアジーの従僕である社會民主主義の指導者たちは、資本主義の新たな昂揚の托宣に於てはその主人たちに敗を取らなかつた。ヒルファードィングはすでに一九二四年以來、その論文や演説のなかで、この『マルクス主義的』基礎づけを提供した(2)。

『戦争中及び戦争後、生産諸力が異常に増大した。この増大は均等ではなかつた。何よりも増加したのは、戦争遂行に必要な生産諸部門であつた……、他方消費手段工業は立ち遅れた。この不均衡が世界恐慌の一つの原因である。だが、生産能力の擴張は結局、恐慌が克服された曉には、生産の増大と新たな高景氣とを意味する(?)。そこで、大戦時代の結果として、資本主義經濟は物質的に増大され組織的な經濟への途に向つて質的に變化されたものとして現はれる(?)』。

(2) 例へば『社會』第二號一一八頁參照。

資本主義の將來についてのこの讚美は、社會民主黨とブルジョア政黨との聯合内閣によつて支配された國家の超階級性についての反……的理論と結びつけられた。この國家は『組織化された資本主義』から社會主義への平和的移行を實現させるといふのであつた。ドイツ労働總同盟で一九二八年に出版した綱領的書物(3)では、この理論が次のやうに定式化されてゐる。

(3) 『經濟民主主義、その本質、方途及び目的』、ドイツ労働總同盟の依頼によりフランツ・ナフタリ執筆、一九二八年。

資本主義的生産様式の發展は、個人經營から集合經營へ、自由貿易の資本主義から組織化された資本主義(獨占といふ表現は用心深く避けられてゐる)へと進む。そのために生産手段の所有者の権力と人民大衆との間の矛盾が益々大きくなる。だから、社會秩序の變更が見出されなければならぬ。資本主義がまだ完全に自由であつた時代には、組織化されない資本主義に代るものとしては、經濟全體の社會主義的組織化以外にはなかつた。だから、資本主義體制の專制に何等かの變更を加へようとすることは、絶望であり、従つて無益であつた。

『ところで、資本主義の機構そのものが變化を來し、資本主義は破壊される以前に、折り曲げられ得ることが、次第に明かとなつて來る』。

資本主義を經濟民主主義の方向へ折り曲ぐべき力は國家である。經濟民主主義はたゞ政治上の民主主義の途を通じてのみ實現することができる。

『經濟民主主義は、このやうにして、經濟關係の民主主義化による政治上の民主主義の完成を意味する……。完成された經濟民主主義は共同經濟と同じことである』……

「國家は共同體である。換言すれば、一定の意思を表現するところの、すべての個人を超越した公
共團體である。だから、經濟民主主義の本質は、生産の管理がもはや個別的に、個人的目的を持つ
私有財産に屬せず、經濟共同體の意思を體現し、個々の個人的な利益ではなく、共同利益を決定
とする經濟共同體に屬する場合に、初めて實現することができるのである」。

クローリッヂ、ゴールドシュミット、ヒルファードイニング、ナフタリ一味のお喋舌が、今日ではいか
に口舌に盡し得ないほど古臭く、馬鹿げて居り、滑稽であることか！これに反して、……が與へ
たマルクスレーニン主義的分析及び診斷が、いかにその正しさを立證されたことか！……は、
資本主義の状態の一时的好轉と資本主義の辯護論者たちのお喋舌に迷はされることなく、それが全く
空虚なことを曝露して、安定化の一次的性質とその内面的諸矛盾とを見つけ出し、これらの矛盾は不
可避的に安定化の急速な終末と新たな……波を呼び起すと述べた。

……大會のテーゼが、新たな時期、即ち戦後資本主義の第三期が來ると聲明したのは、一
九二八年半ばであつた。このテーゼは右の第三期を次のやうに規定してゐる。

「第三期は、資本主義世界にとつては、技術の急速な發展、カルテル、トラストの著るしい發展及
び國家資本主義への傾向の時期である。同時にそれは世界經濟の諸矛盾が最も強度に發展する時期
である。世界經濟は資本主義……のこれまでの總過程（狭められた市場、ソヴェート同盟、
植民地運動、帝國主義の内面的諸矛盾の成長）によつて豫め規定された形態をもつて進んでゐる。
生産諸力の増大と市場の狹隘化との間の矛盾が特別に尖鋭化するこの第三期は、必然的に帝國主義
諸國間……、ソヴェート同盟に對する……、帝國主義に對する民族解放……、巨大……
新たな一局面へと導く。一切の國際對立（資本主義諸國とソヴェート同盟との對立、支那分割の開
始として……及び帝國主義相互間の鬭争等々）が尖鋭化し、資本主義諸國に於ける内面
的諸矛盾が尖鋭となり（勤勞大衆の左翼化の過程、階級鬭争の尖鋭化）、植民地に於ける運動が展
開される（支那、印度、エジプト及びシベリア）ところのこの時期は、必然的に資本主義安定化の
諸矛盾の一層の發展を越えて、資本主義の安定化の新たな……資本主義……の著るしい
尖鋭化へと導く」。

……大會と……大會との間の期間は、歴史的には短いものであつたが、……の見解の絶對的
な正しさと社會ファシズムの辯護論の絶對的な無定見とを事實をもつて立證した。一九二九年半ばに
は、荒涼たる嵐を伴つて恐慌が勃發した。この恐慌は全世界の勤勞大衆の上に未開の窮乏を持ち來し、
安定化の確實さと永續的な安定とについてのお伽噺に突如たる終末を與へた。

一九二九—三三年の循環性恐慌は、資本主義の歴史のなかで特別な役割を演じてゐる！

資本主義的生産様式の完全な發展以來、その運動は循環の形態で行はれてゐる。一切の景氣亢進は循環性過剰生産恐慌のなかでの資本主義體制のあらゆる矛盾の強力的爆發をもつて終るが、この過剰生産恐慌は同時にこれらの諸矛盾の徹底的な強力的解決を生み出すのである。このやうに循環は循環に連り、恐慌は恐慌に續く。

だが、この循環及び恐慌の反覆は、決して質的に同様な單位の機械的な加算ではない。各循環、各恐慌がその歴史的具體的な特殊性を持つてゐる。各循環、各恐慌が資本主義の歴史のなかにそれ自身の特異の歴史的地位を占めてゐる。この循環性運動のなかで資本主義體制そのもの性質の變化も行はれる。産業資本主義から帝國主義及び帝國主義の特異の一時期としての資本主義……の移行がこれである。

一九二九年に勃發した恐慌の歴史的地位は何であるか？

それは、すでに同志スターリンがソヴェート同盟第十六回……大會で規定したやうに、戦後、即ち資本主義……の時期に於ける最初の世界恐慌である。この歴史的地位はまたこの恐慌の具體的特殊性を規定する。それは疑ひもなく一つの循環性の過剰生産恐慌である。だが、決して「正常」な

恐慌でも『この前の恐慌の單なる繰り返し』でもない。この恐慌の過程は、その基礎をなす資本主義……の影響により、戦後資本主義の獨占的性質の増大により、資本主義……の一部分をなす農業恐慌とのからみ合ひにより、部分的には世界戦争以來なほ餘りに高過ぎてゐた價格水準の清算を現はす特に強度の物價下落により、恐慌の人爲的克服のための獨占資本及びその國家の諸方策——これは信用恐慌の爆發を著しく遅れさせ、結局恐慌の引き延しと深刻化とを呼び起した——により、強度に變形された。

結局、資本主義……の時期に於ける最初の世界恐慌は、これまでのどの循環性恐慌よりも深刻で長期に亘り、あらゆる關係に於て荒廢的であることを立證した。それはまた次のやうな質的に新たな二三のモメントを示してゐる。即ち、殆んどすべての資本主義諸國を捉へた本位貨の減價、殆んど一般的な外債の不拂、資本輸出の殆んど完全な停止——これらはこれまでのいかなる恐慌にも存在しなかつた質的に新たなモメントである。

この恐慌が資本主義的生産を戦前の水準以下まで逆轉させたのに、ソヴェート同盟の生産諸力は五ヶ年計畫の枠内で嵐のやうなテンポで進んでゐる。經濟恐慌は資本主義……のソヴェート……を全世界の勤勞者に明々白々に示した。二つの體制の鬭争は經濟的、社會的及び文化的

領域に於てソヴェート……してゐる。このことは世界ブルジョアジーを一層強度に二つの
体制の鬭争……よつて自分たちに有利にしようとする企てに驅り立てゝゐる……。

恐慌は、全世界の労働者及び勤勞農民の状態の特に著るしい悪化、従つて階級對立の異常な尖鋭化
を呼び起した。このことは深刻な政治的結果を生じさせた。労働大衆に對する社會民主主義の影響は
急速に減退してゐる。大衆の急進化の壓力を受けて、殆んどすべての社會ファシスト諸黨の内部に危
機が生じ、この危機は左右兩翼のフラクションの形成や分離及び分裂となつて爆發してゐる。指導者
の一部分は公然とブルジョアジーの側に、否ファシズムの側にさへ、移行して行つてゐる（イギリス
ではマクドナルドやスノウデン、フランスではネオ・ファシストのマルケール・デア、ドイツではレー
ベ・ゼフェリンク）が、他方……的な社會民主主義的労働者は、労働者階級の分裂を克服しブルジ
アジーに對する階級鬭争を統一的に取り上げるために、益々大衆的に……との同盟を求めてゐる。
第二インタナショナルの危機は明瞭である。その主要な社會的支柱の影響力の弱まりと……勢力
の増大とのために、ブルジョアジーは益々もつて一つのブレイキと化した議會主義的デモクラシーを
抛り出し、ファシズム即ちおほつびらな強力的獨裁に逃げ場を求め、これを餘儀なくされてゐる。
恐慌は同時に次のやうな諸事件を呼び起した。戦争の前段階の一種であるあらゆる國々相互間の全

般的經濟戰、……に於ける世界……ための鬭争の開始、南アメリカ及びアジアに於ける『小』戰
争、將來の帝國主義戦争とソヴェート同盟に對する……を目的とする經濟政策の意識的採用。
……侵略、ペルーとコロンビア間の、イブン・サウドとイエーメン間の、支那とチベット間の
戦争は、新たな世界戦争の前兆である。

このやうにして、循環性恐慌は資本主義の一時的安定化の終末を開始させ、それを促進させ、全資
本主義體制の深刻な震撼を呼び起し、資本主義……のより高度の新段階に道を開き、……
危機の客觀的前提條件の一層の成熟を生じさせてゐる。

『資本主義諸國に於ける内部的階級對立並びに國際的對立の異常な緊張は、今や世界が……
との新たな幕に非常に近く立つてゐるほどの……クリーゼの客觀的前提條件の成熟を生み出して
ゐる』(4)。

(4) EKKI 第十三回總會のテーゼ。

なるほど恐慌がブルジョア諸國の勤勞人民の上に持ち來した苦惱は激甚であり、安定化の崩壞過程
を促進させる上に演じた恐慌の役割は非常に大きなものであつたとはいへ、この循環性恐慌を安定化
の終末の原因と見ることは、理論的にも政治的にも正しくないだらう。

理論的には――

……は常に安定化をば、不斷に繼續する資本主義……の内部に於ける一つの經過的な現象、つまり……運動の波の谷間の一つに過ぎないものと見てゐる。世界大戦と共に必然的に資本主義……に導いた同じ内面的諸原因が、安定化の終末、新たな……危機の成熟をもまた呼び起したのである。

循環性恐慌は、すべての循環性恐慌と同様に、資本主義の一般的法則そのものゝ必然的な歸結として起つたものである。『資本主義が存在する限り、循環性の動搖は避け得ない。それは資本主義の青年期及び成熟期に隨伴したと同様に、その斷末期にも資本主義に隨伴する』と、……の第三回大會のテーゼは言つてゐる。だから、吾々は循環性恐慌を安定化の震撼過程を解きほごす力としてしか、この震撼過程を完成させる直接の原因としてしか、見る事ができないのである。

政治的には――

もし循環性恐慌が安定化の終末の原因であるならば、こゝから次のやうな結論が生ずるだらう。即ち、もし資本主義がこの循環性恐慌の克服に成功するならば、それは安定化の恢復を、……の新たな波の谷間を意味するといふことになるだらう。

この見解は不可避的に日和見主義に、世界大戦の勃發がなほ暫らくの間延引されるといふあり得なくもない場合に於ける……一層の成熟の否定に導く。

第一章 經濟恐慌の經濟的基礎

……大會から……大會までの六ケ年は、何よりも先づ、殆んどこの全期間に跨がる經濟恐慌によつて特色づけられてゐる。「この期間は」三つの部分に分たれる。だが、この区分は決して截然としたものではなく、その時間的な境界は或る程度吾々の任意に定めたものである。

(a) 一九二八年から一九二九年まで。この期間には、工業生産はまだ上向してゐたが、生産された商品は何等充分の販路を見出さず、倉庫は一杯となり、二三の國々ではすでに恐慌が始つた。

(b) 一九二九年半ばからほど一九三三年末まで。狹義に於ける本來の恐慌局面で、これはほど一九三二年半ばにその底をついた。

(c) 一九三四年以後。「特殊の不景氣」の局面。この局面はなるほど工業生産、價格形成等々の動態の點で恐慌から區別されるが、しかしその社會的及び政治的作用の點では危機の進行を現はし、少くともこゝ暫らくの間は、何等これ以上の繁榮局面に對しての基礎を與へてゐない。

吾々は以下でたゞ恐慌と不景氣とだけを問題にしようと思ふ。一九二八年から一九二九年半ばまでの時期は、何等特別の分析を必要としない。だが、恐慌の具體的分析に移るに先立つて、吾々は豫め二三の理論的説明をして置くことにする。

一 資本主義の辯護者たちは恐慌の不可避性を否定する

ブルジョア國民經濟學は、なぜ一切の繁榮局面が恐慌に終るかといふ問題に、百年越し悩んでゐる。なぜ、きまつて儲け仕事が生盛を極めてゐるやうに見えるほかならぬそのときに、突如として過剰生産、即ちあらゆる商品の全般的な賣れ残りが生ずるのであるか？ブルジョア國民經濟學は繰り返す次のやうに問題を立てゝゐる。あらゆる商品の生産と同時に、それに對應してこの商品を購入する購買力が作り出されると。原料及び助成材の價值はその生産者に支拂はれる。勞働によつて生じた價值増加分は、支拂はれた勞賃と資本家の利潤とに分たれる。だから、同時にその販賣のための購買力を作り出さないで新たな價值が生産されることは決してない。換言すれば、社會の購買力の總額は生産された商品の價值總額に等しい。資本主義生産の無政府状態、その無計畫性は不均衡をひき起すことができる。一種或ひは數種の商品が餘り多く生産されるといふことは有り得る。だが、この場合には他の種類の商品が社會の購買力にくらべて餘り少なく生産されてゐるに相違ない。だから、すべての

商品の同時的過剰生産といふことは不可能である。恐慌の原因は、資本主義的社會秩序の本質から生じて来るのではなく、偶然に生じて来るところの不均衡性である、と。これはまた本質的にはカウツキー、ヒルファードィング（一）等々の見解である。この見解から出て来る結論は次の通りである。即ち、恐慌の爆發を豫防するためには、資本主義的な「計畫經濟」即ち「組織化された」國家資本主義が必然であるといふのがこれである。

（一）ヒルファードィングはすでに『金融資本論』の三一八頁で次のやうに書いてゐる。

『同時にこのマルクスの表式は、資本主義的生產はこの均衡さへ維持されるならば、單純再生産も擴大再生産も同滑に進行することができることを示してゐる。

つまり、不均衡を避けるならば、資本主義的擴大再生産の恐慌のない進行が可能であるだらう。』

ところで、マルクスはすでに五十年前に、資本主義の下に於ける恐慌の周期的反覆の不可避性の原因を明々白々に曝露してゐる。だが、資本主義の代辯者たちはこの説明を否定した。ブルジョア的な者と社會民主主義の改良主義的な翼とは公然と、カウツキー、ヒルファードィング、パウエル等々——ローザ・ルクセンブルグは適切にも彼等を『調和の使徒』と命名した——は、なるほどマルクスの言葉を弄び、今日まで『マルクス主義者』と自稱して來てはゐるが、マルクスの教義の……的内容がその跡をさへ止めぬやうに、これを歪曲した。

〔マルクスの理論を〕このやうに否定する根據は次の點にある。即ち、マルクスの恐慌理論は、資本主義の歴史的經過的な性質と……を通じてのプロレタリアートの闘争による資本主義の不可避的な崩壊とに關する彼の理論と不可分に結びついてゐるといふことがこれである。だが、マルクスの……的崩壊理論——今やそれはロシア……とソヴェート同盟に於ける社會主義……とによつて事實をもつてもまた……ことが立證された——は、あらゆる資本主義の辯護者たちには承認することができないのである。

『私はカール・マルクスの教義に全然一致してゐると信ずる。人々はつねに崩壊理論をマルクスのものであると言ふのであるが、これは誤りである。ほかならぬ「資本論」第二卷は、資本主義體制のなかに於て益々擴大されて行く規模の生産がいかに可能であるかといふことを示してゐる。私は屢々この第二卷が餘り讀まれてゐないことは、それほど悪いことではないと考へる。なぜならば、事情によつてはそこから資本主義の頌歌を讀み取ることが出来るからである。』

ヒルファードィング先生は或る昵近の、純粹にブルジョア的な集りで、つまり『社會政策學會』の

ウィーン大會で、右のやうに言つた(2)。速記録がこれについて『すばらしい歡呼、非常に正し』と記してゐるのは決して不思議ではない。

(2) 『一九二六年社會政策學會ウィーン會議』、ドゥンカー・ウント・フンプロット、ライプチヒ一九二六年
一一三—一一四頁。傍點はヴァルガ。

二 恐慌理論と資本主義の……崩壊

マルクスは資本主義的再生産Ⅱ及び流通過程の進行を説明した最初の人である。資本主義的に生産されるあらゆる商品の價值は次の三つの部分から成る。不變資本c(機械、原料及び助成材)。不變資本の價值は生産過程で増殖せず、單に新たに生産された商品に移轉されるに過ぎない(機械、建物、即ち不變資本の『固定』部分は、生産過程でその消耗に相等する價值部分だけを、その助けを借りて生産された商品に移轉するに過ぎない)。可變資本、即ち勞賃に投ぜられた資本v。これは勞働者の……によつて價值が増大する。餘剩價值m。

商品はその使用價值から見れば二大部門に分られる。

第一部門——生産手段、これは今後の生産に役立つ。

第二部門——消費手段、これは資本家と勞働者との直接的な消費に役立つ(3)。

(3) マルクスはこの分析段階では、資本家と勞働者とだけから成る『純粹』資本主義社會といふ單純化するための前提條件を立て、ゐる。先資本主義的諸階級——勤勞農民、手工業者——の存在は、分析を複雑ならしめないために、さし當り考慮の外に置かれてゐる。

一期間、例へば一ケ年の間に生産される資本主義社會の商品總額は、だから、價值及び使用價值から見て、次のやうな表式にまとめられる(この場合、この年度内に消費されず次の年度にさらに生産に役立てられる固定資本部分は、計算の外に置かれる)。

$$I \quad 4,000c^1 + 1,000v^1 + 1,000m^1$$

$$II \quad 2,000c^2 + 500v^2 + 500m^2$$

マルクスが取り上げた數字(それは百萬乃至十億貨幣單位を意味することができる)は、絶對的な大いさの點では、任意に選ばれたものである。これに反して、次の期間に於ける生産が再び開始され、繼續され得るためには、『單純再生産』、これらの數字間の割合ひは、商品の使用方法によつてきちんと決定されてゐる。

このことは次のやうな考慮を示してゐる。

第一部門の v と m 、即ち可變資本と餘剩價值とは、生産手段といふ現物形態で生産される。それは勞賃及び餘剩價值としては個人的消費に充當されるやうに社會的に決定されてゐるのであるが、しかし個人的消費に充用することはできない。それは第二部門の商品と交換されなければならない。

c^2 即ち第二部門の不變資本の價值は、消費手段といふ現物形態で生産される。だから、續けて第二部門の生産手段として使用することはできない。そこで、第一部門の v^1 プラス m^1 が第二部門の c^2 とその地位を交換しなければならないことになる。

だから、同一規模の生産が繼續されるためには、 v^1 プラス m^1 、即ち第一部門の可變資本プラス餘剩價值の總額が、 c^2 即ち第二部門の不變資本に等しくなければならない。單純再生産の恐慌のない進行は、かういふマルクスの所謂『理想的な正常な生産』の場合にのみ抽象理論的に可能であるだらう！
だが、單に抽象理論的にだけである！ 實際には、恐慌は單純再生産の場合にもまた不可避的である。

(a) 固定資本（機械、建物）が、各個々の經營に於て、その消耗に並行して更新されるといふことはあり得ない。それは、その價值が長期に亘る消耗と並行して集め合はされた後に、斷續的に更新されなければならない。そしてこのことはつねに不可避的に『理想的な正常な生産』の攪亂をひき起さざるを得ない。固定資本のこの特殊の運動が、資本主義的生産の循環性の進行の『物質的基礎』をなす、とマルクスは言つてゐる。彼は次のやうに書いてゐる(4)。

『同一規模の再生産の場合に於ける固定資本のこの例は、まことに適切である。固定資本の生産と流動資本の生産との間の不均衡(5)は、經濟學者たちが恐慌を説明するために用ひる御氣に入り論據の一つとなつてゐる。このやうな不均衡は、固定資本が單に保存されるに過ぎない場合にも、生じ得るしまた生じなければならないのであり、理想的な正常な生産を前提とした場合にも、つまりすでに機能してゐる社會的資本の單純再生産の場合にも、生じ得るしまた生じなければならないのであるが、このことは彼等にとつては何等か目新しい事柄なのである』(6)。

(4) 『資本論』第二卷四五頁、邦譯、改造社版四二八頁〔因に邦譯では『流動資本』が『流通資本』となつてゐるが、これが誤譯なることは明瞭である〕。

(5) 『資本論』の原文では誤つて『誤解』 missverständnis となつてゐる。

(6) 最後の傍點はヴァルガ。

(b) 右の表式は商品の最も一般的な運動を示すに過ぎない。 v^1 プラス m^1 が c^2 に等しいといふ最も

一般的な均衡が保たれてゐる場合にも、大げさな不均衡が生じ得る。例へば、第一部門に於て餘り多くの船が、または第二部門に於て餘り多くの木綿商品が、生産されるといふことがあり得る。一つ或ひは數個の重要生産部門に於ける過剰生産は、商品の賣れ残り、價格下落及び大量的破産を呼び起し、これらはまた、資本主義の下に於ける信用の相互のからみ合ひの結果、爾餘の生産部門をこの恐慌のなかに捲き込むのである。

だが、單純再生産の場合に於ける恐慌の可能性及び必然性に關するマルクスのこの説明は、たゞ單純化のための假定によつて資本主義的再生産過程の理解を容易にするといふ目的に役立てられてゐるに過ぎない。實際には、擴大された規模の資本主義的再生産が行はれる(7)。

(7) 恐慌及び不景氣のときには、短期間單純再生産が行はれるが、しかし長期間を取つて見れば、擴大再生産が通則である。

「資本主義的再生産過程は、本質的には、同時に蓄積過程である」とマルクスは言つてゐる。換言すれば、次の通りである。ブルジョアジーは、階級としては、決してその手に入れた餘剰價値の全部を消費してしまふものではなく、その一部分を蓄積して、それを生産の擴張のために使用する。各個々の資本家は没落といふ罰を伴ふ競争によつて、生産費を切下げ得るやうにするために、その利潤の一部を資本に轉化し、生産手段を改善せざるを得ない。これは次のことを意味する。

社會的資本の價値總額は年々ヨリ大きくなる。

資本の有機的組成が高度になる。つまり、不變資本と可變資本(生産手段に投下される資本と勞賃に投下される資本)との間への資本の配分が、前者に有利に變化する。

不變資本の内部では、固定資本に有利なやうな變化が起る。建物、機械、器具、運輸手段に投ぜられる資本が、原料に投ぜられる資本よりも急速に増大する。

利潤總額も賃銀總額も共に年々生産される商品の總價値にくらべて相對的に減少する(利潤率の遞減)。

だから、資本主義社會の「消費力」、つまり、個人的に消費される商品の購入に充當さるべき金額、即ち $v + (M - a)$ (賃銀總額と蓄積に充當されずして資本家階級が個人的欲望を充足するために使用する餘剰價値部分との合計) は、資本主義的再生産の發展につれて、相對的に益々小さくなる。

資本主義社會の「購買力」と「消費力」との間の區別は、恐慌を理解するために、極めて重要である。社會の購買力は c と v と m との合計である。それは生産物價値の總額に等しくなる傾向がある(c のうちの固定部分を除けば)。この固定部分は一年のうちに消費されてしまふものではなく、部分的に

消耗しても、その價値の減少したまゝで、さらに生産過程に役立つ。ブルジョア經濟學が一般的過剰生産の可能性を否定する場合には、つねにこの均等性が土臺となつてゐる。資本主義社會の消費力(十頁)は、購買力の一小部分に過ぎず、それは蓄積の進行につれて相對的に減少して行くものなのである。

この資本主義の發展と必然的に結びついた社會の消費力の相對的減少は、社會的生產と私的領有との間の矛盾に基づくものであるが、これは市場の問題を益々鋭く提起し、商品の實現を益々困難にする。なぜならば、レーニンが言つてゐるやうに、究局に於て、あらゆる生産手段は消費手段の生産に役立つものであるからである。現存の生産設備の利用可能性の程度、従つてまた長い目で見れば生産手段の販路、つまり第一部門の事業状態は、究局に於て、消費手段の販路の大きさに依存してゐる。マルクスは次のやうに言つてゐる。

『生産的消費は、それが決して個人的消費に入らないといふ限りで、一應個人的消費からは獨立してゐる。だが、究局的には、個人的消費によつて限界づけられてゐる。なぜならば、不變資本の生産は決して不變資本それ自身のために行はれるのではなく、個人的消費に歸する諸生産物を供給する生産諸部門に於てヨリ多くの不變資本を使用するためのみ行はれるものだからである』(8)。

(8) 『資本論』第三卷第一部二八九頁、邦譯二六四頁。

ブルジョア國民經濟學は、商品の生産と共にそれに相應した購買力もまた生産され、生産物價値の總額は社會の購買力に等しいといふ事實をひき合ひに出すのであるが、これが無意味なことは明かである。消費力が制限されて居り、それがひき續いて必然的に相對的に減少して行くといふことが、資本主義の運命にとつて決定的なのである。

制限された社會の消費力と無制限な資本の擴張慾との間の矛盾は、何よりも先づ大衆のプロレタリア的狀態に起因するものであるが、これは必然的に周期的に反覆する過剰生産恐慌をひき起さざるを得ないのである。

『あらゆる現實の恐慌の究局の基礎を形づくるものは、依然として、恰も社會の絕對的消費能力(9)だけがその限界でもあるかのやうに生産諸力を發展させる資本主義的生產の衝動にくらべての、大衆の貧困と消費制限とである』(10)。

(9) マルクスが『絕對的消費能力』といふのは、資本主義の桎梏から解放された社會主義社會に於ける消費能力のことである。

(10) 『資本論』第三卷第二部二一頁、邦譯二五頁。

生産の循環性的進行を度外視すれば、生産諸力の發展にくらべて見た消費力の不斷の相對的減少は、資本主義社會の生産力と消費力との間の矛盾の慢性的な尖鋭化をひき起す。なぜならば、個々の資本家は、競争に於て勝利するための強制に追ひ立てられて、消費力の相對的減少にはお構ひなしに、生産諸力を發展させるからである。これが資本主義の……、生産装置の大部分の慢性的な利用不足、慢性的な大衆的失業、の經濟的基礎である。

社會の消費力の相對的減少は、均等に資本家及び労働者に打撃を與へるものではない。相對的に最初に窮乏化するものは、労働者階級である。労働力の價值は、労働の生産性の向上から生ずるところの、労働者階級の維持に必要な生活資料の價值の減少に比例して、低下する。必要労働時間、つまり、労働者が自分自身のために働らく労働時間は、益々短くなり、資本のために働らく労働時間は、益々長くなる。……率は労働の生産性の向上につれて高まる。價值生産物のうち、労働者の受取る部分は、益々低下し、資本家の受取る部分は、益々増大する。つまり、資本主義社會の消費力のうち、 v は相對的に益々低下し、 c は相對的に益々大きくなる。わかり易く言へば、プロレタリアートは、たとへその労働力の價值を賃銀として受取つたとしても、彼等の生産した價值のうちその労賃で買ふことのできる部分は、不斷に減少して行くのである。

このやうに資本主義の下では労働者階級の相對的窮乏化が益々進んで行くのであるが、資本主義の……の時期にはこれと並んで労働者階級の絕對的窮乏化が……はれて来る。第一に、労働者の著るしい部分が慢性的に失業してゐる。第二に、このやうな労働市場の恒常的な過充は、獨占的諸組織に結集し國家を支配してゐる資本が、労働の強度性を高めながら、就業労働者部分の賃銀を労働力の價值以下に押し下げること可能にする。労働者階級の廣汎な大衆の相對的及び絕對的窮乏化、特權的な腐敗した労働貴族を養ふ資本の能力の減少——これらは勤勞農民層の大衆的零落（この原因については後で論及する）と相俟つて、ブルジョアジー……のための、資本主義の……のための、主體的諸勢力を強める。

周期的恐慌、資本主義……及び……的崩壊に關するマルクスレーニン主義の理論は、このやうに、不可分に關聯してゐる。ブルジョア的及び社會民主主義的な資本主義の辯護人たちは、マルクスの恐慌理論の正しさが一目瞭然としてゐるにも拘はらず、これを放棄するかまたは歪曲せざるを得ない。なぜならば、マルクスの恐慌理論を承認すれば、……的崩壊の不可避性をも承認しないわけには行かないからである。

三 資本主義的生産の循環性的進行の原因としての蓄積

生産の無政府性、即ち『無計畫性』は、經濟恐慌の恒常的な前提條件である。社會的生產と私的領有との間の矛盾は、恐慌の究局的な原因である。この矛盾は、資本主義の基礎の上に於ける消費の制限された大きさ及びその不斷の相對的縮小と不斷にこの限界を突破する生産との間の恒常的な分裂として、自己を貫徹する。

そこで次のやうな疑問が生ずる。即ち、なぜ資本主義の下ではかういふ事情でありながら恒常的な過剰生産が存在しないのであるか？ なぜ、マルクスが言つてゐるやうに『永久的』恐慌は存在しないのであるか？ なぜ、これまで恐慌、不景氣、活況及び繁榮の諸局面が規則的に繼起して來たのであるか？

この疑問に對する回答は單に經濟學上の意義を持つだけではなく、また政治的、……的な意義を持つてゐる。一九二九—三三年の經濟恐慌の深刻さと鋭さ、その異常な長さ——それは戦後の最初の恐慌の時よりも更らに著るしい——は、多くの同志たちにこの循環性恐慌には絶対に血路がないといふ見解を抱かせた。資本主義の自動的崩壊説及びプロレタリアートの日和見主義的消極性に不可避的に通ずるこの種の見解に對しては、曾つてはレーニン(11)が斷乎として反對したし、今ではスターリン(12)が斷乎として反對してゐる。

(11) レーニン『極左主義——共產主義の小兒病』。

(12) スターリン『ソヴェート同盟……第十七回……大會に於ける報告』。

資本主義的生産の循環性的進行の原因は、資本の蓄積である。その眞實の(13)形態に於ける資本の蓄積は、資本主義社會に於ける購買力の擴大、即ち資本主義的市場の消化能力の擴張を意味する。それは活況と繁榮との直接の原因であるが、しかしまたより高度の段階では恐慌の直接の原因でもある。眞實の蓄積過程が繁榮の局面に於て一定の段階に到達すると、量が質に轉化する。蓄積の役割が急激に變化するのである。それは、これまでは景氣亢進の擔當者であつたのであるが、今や恐慌の直接の原因となる。

(13) 吾々は『眞實の』蓄積、換言すれば生産的形態にある社會的資本(建物、機械、原料、完成商品)の價値の増大と貸付資本の形態に於ける蓄積(銀行預金、貯金)とを區別する。後者は形式的潛勢的な資本蓄積であるに過ぎない。

さて、吾々はこのことをもう少し詳細に説明しよう。

一切の資本主義的企業は、すでに前に説明したやうに「没落といふ罰を伴ふ」競争のために、生産費の切下げを餘儀なくされる。この生産費切下げの主要な手段の一つは、労働の生産性の向上、一人の労働者の運轉する機械の増大及び改善、即ち「技術的進歩」である。換言すれば、固定資本——流動不變資本の繰り返す回轉中に次々とその價值を生産物に移轉して行くと共に、他方その現物形態に於てはその自然的または道德的消耗に至るまで生産過程で機能し續けるところの不變資本部分、即ち建物、機械、装置、器具——の眞實の蓄積である。

「資本がその固定部分のために餘儀なくされるところの、何年かに亘る相互關聯した諸回轉のこのやうな循環によつて、營業の沈滯と、中位の活況と、顛動と、恐慌との、相次いで起る各時期を含む周期的恐慌の物質的基礎が生じて来る。資本の各投下期間が、場所的にも時間的にも極めて相異なることは事實である。だが、恐慌はつねに、大規模な新投資の起點となる。従つてまたそれは、社會全體について言ふならば、多かれ少なかれ、次に來るべき回轉循環の新たな物質的基礎となるのである」(14)。

(14) 『資本論』第二卷一五六頁、邦譯一五〇頁。傍點はヴァルガ。

固定資本の諸要素がその自然的消耗に至るまで生産過程で利用される場合は、めつたにない。競争によつて命令される生産費切下げの努力は、現存の機械がまだ役に立つにも拘はらず、資本家をして固定資本を更新し、古い機械を新たなより生産的な機械に取り代へざるを得なくするのである。固定資本の更新は、通常不景氣局面で始められ、「恐慌は大規模な新投資の起點となる」、活況局面で擴張され、繁榮局面でその最高點に達し、恐慌の勃發と同時に殆んど完全に中止される。

このやうな固定資本の獨特の運動は、資本主義的生産の循環性的進行の物質的基礎ではあるが、しかしこの原因ではない。事實上の消耗または技術の進歩が、何時固定資本が大量的に更新されるかを決定するのではなく、再生産の循環性的進行が、何時現存の固定資本が道德的に消耗したものと見做されて、大量的に更新されるかを決定するのである。循環性的進行の原因は蓄積であつて、固定資本の擴張はこの蓄積の一形態である。

蓄積は、それが活況及び繁榮の局面で充分に進行して行く限りは、第一部門の商品の生産と同時に資本主義社會の購買力をもまた擴張する。これらの局面では實現が圓滑に行はれる。なぜならば、何よりも先づ資本家自身が相互に購買者となるからである。

「生産（従つてまた國內市場）の發展が、主として生産手段のおかげで起るといふことは、逆説的に見えるし、また疑ひもなく一つの矛盾を自らのうちに藏してゐる。これこそ全く「生産のための

生産」であり、それに對應した消費の擴大を伴はない生産の擴大である。だがこれは理論の矛盾ではなく、現實の生活の矛盾であり、資本主義の性質と社會的經濟のこの體制の他の諸矛盾とに完全に照應した一つの矛盾に外ならない』(15)。

(15) 『レーニン全集』第三卷二〇頁。『ロシアに於ける資本主義の發達』。

蓄積即ち生産手段のおかげによる生産の擴大は、單に購買力の擴大を意味するだけではなく、社會の消費力の或る程度の一時的擴大をもひき起す。第一部門の生産擴張につれて、この部門の就業労働者數が高まり、可變資本が増加する。プロレタリアートの消費力は高まる。就業労働者數の擴大と共に、……率に變化しないものと假定すれば、餘剩價値の總額、従つてまた第一部門の資本家の消費的需要が増大する。だから、販路が増加し、第二部門の生産が高まり、第二部門の可變資本、第二部門の餘剩價値及び第二部門の労働者と資本家との消費が増加して来る。同時に第二部門はその固定資本の更新の度合を高め、第一部門に注文を發する。そのために第一部門の生産がさらに高められる。活況が繁榮に昇進する。資本家たちにはなぜこれが恐慌に終らなければならないか、その根據が全くわからない……。

だが、蓄積は兩刃の性質を持つた辯證法的な過程である。この過程が進行する限り、それは購買力の擴張及びこの範圍内での資本主義社會の消費力の擴張に作用する。だが、同時に蓄積は必然的に資本主義社會の消費力を相對的に減少させることによつて、究局に於ては、生産力と資本主義社會の消費力との間の矛盾を尖鋭化させるやうに作用する。このことは蓄積の本質から生じて来る。蓄積は、資本の有機的組成の高度化、即ちヨリ多くの改善された機械を使用することによる労働の生産性の向上を、cにくらべてのvの減少を、利潤率の遞減を、ほかならぬ眞實の蓄積の結果急速に成長する資本主義社會の生産力にくらべての社會の消費力 $v + (m - a)$ の減少を、意味する。

このやうに、蓄積は二つの相矛盾する過程に作用する。一方では、社會の購買力の擴張及びこの範圍内の絶對的な大きさから見た消費力の擴張、他方では、生産力にくらべての社會の消費力の相對的減少。

『そこで、農業に於ては(資本主義的に經營される一切の他の生産部門に於けると同様に)即自的には蓄積と同一であるところのかの相對的過剰生産が不斷に起る』(16)。

(16) 『資本論』第三卷第二冊二二二頁。邦譯二二二頁。傍點はヴァルガ。

また別の個所では、

『蓄積の全過程は、先づ第一に、恐慌のなかに現はれる諸現象の内面的基礎をなすところの餘剰生

産に分解される』(17)。

(17) 『餘剩價值學說史』第二卷第二部二六三頁。

これが眞實の蓄積に起因する活況と繁榮とが無限に繼續し得ないことの原因である。生産手段は消費手段の生産の社會的再生産過程に利用される。それはたゞこの目的にのみ生産手段として利用することができる(生産手段を生産する資本にとつては勿論利潤の獲得が目的である)。だから、生産手段の生産は、究局に於て、資本主義社會の消費力によつて制限されてゐる。蓄積によつて生ずる消費力の相對的減少は、それ故、遅かれ早かれ生産の擴張に終末を與へざるを得ない。繁榮局面は恐慌を呼び起さざるを得ない。恐慌は眞實の蓄積過程に一時的終末を與へる。

マルクスが蓄積を明瞭に『相對的過剩生産』と同一視したのは、正にこの消費力を相對的に減少させるところの蓄積の機能の故にである。

簡単に言へば、次の通りである。眞實の蓄積過程が充分に進行し、新たな工場や鑄鑛爐や鐵道が建造され、古い機械が新たな機械に取り代へられてゐる間は、繁榮もまた續く。この過程が一段落を告げ、新たな生産設備の大部分が完成すると、第一部門の商品(建築材料、機械等々)の需要が減少し、第一部門の労働者が失業し始める。同時に、新工場や立て直された工場が商品に市場に出し始めるために、商品の供給が増加する。過剩生産はすでに存在する。だが、恐慌の公然たる爆發は遅延する。なぜならば、決して繁榮局面の終末を信じない資本家たちが、その倉庫を充實させるからである。だが、生産が益々消費を追ひ越し、遂に恐慌が公然と爆發するに至る(18)。

(18) 吾々は、この章では、意識的に、恐慌の問題を著るしく單純に、不充分に、取扱ふことにする。恐慌は資本主義の一切の矛盾の爆發であると共に、その一時的な解決である。吾々はたゞ現在の情勢にとつて特に重要であるものだけを強調するに止める。

以上の説明を基礎として、戦後の時期に於ける産業循環の状態を回顧するならば、吾々は次のやうに規定することができる。

(a) 一九二〇—二一年の戦後最初の恐慌は、決して『正常な』過剩生産恐慌ではなかつた。世界大戦中ヨーロッパに於ける消費は、軍隊の莫大な不生産的消費と廣汎な地域の荒廢との結果、生産よりも大きかつた。擬制資本(軍事公債)の巨額の蓄積にも拘はらず、實際には一種の『マイナス蓄積』が行はれた。戦争が終つたときには、機械は消耗し盡され(戦争中に新設された軍需工業の經營は別)商品及び原料の在庫品は遙かに正常状態以下に低下してゐた。土地は涸渴し、家屋は無修繕のままである等々。生産諸力の荒廢は全般的な窮乏、一つの過少生産を呼び起した。『ヨーロッパに於ける現在



の恐慌は、過少生産の恐慌である』と第三回大會のテーゼは言つてゐる。ヨーロッパの交戦諸國に於ける過少生産は、中立國及び海外諸國に於ける過剰生産と組み合はされた。

戦争によつて呼び起されたヨーロッパに於ける生産手段に對する強度の需要は、第一次の戦後恐慌の急速な克服を可能にした。著るしくアメリカの信用によつて金融された急激な生産設備の新設が始められ、これが活況及び繁榮局面の經濟的基礎となつた。だが、労働の強度性、強度の引上げ、(合)理化(と結びついたこの固定資本の大量的な更新こそ、飛躍的に擴張された生産力と、合理化の結果特に狹隘となつた消費力との間の矛盾の特殊の尖鋭化、換言すれば、市場問題の特殊の尖鋭化を呼び起したその當のものであつた。資本主義………は深まる。ブルジョアジーには彼等が作り出した生産諸力を利用する能力がない。だから、慢性的な大衆的失業の増大や、生産設備の利用不足の増大や、工業恐慌の特殊の深刻さ、鋭さ及び長期の持続期間やが生じて来る。

(b) 生産設備の過剰は(慢性的農業恐慌と共に)現在の不景氣の特殊性の最も重要な經濟的基礎をなしてゐる。資本主義の内面的な力は、恐慌の最深點を克服し、不景氣の局面への移行を可能ならしめるに充分であつた。だが、活況と繁榮の局面とは、大規模な眞實の蓄積即ち固定資本の更新及び擴張なしには、不可能である。すでに恐慌前から存在した利用されない生産設備の過剰は、今日でもまだ、新たな生産手段への資本投下の重大な障碍となつてゐる(19)。

(19) 吾々は後の章で再びこの不景氣の特殊性について詳説する。

このやうに、生産力の形成と資本主義社會の消費力との間の必然的に尖鋭化して行く矛盾は、益々強度に産業循環の進行を規定し、……的危機の急速な成熟の物質的基礎をなしてゐる。

第二章 一九二九—三三年の大恐慌

一 「一九二九—三三年恐慌の特質」

一切の循環性恐慌は、資本主義の歴史中に、その特殊の地位を占めるものである。一切の恐慌はそれに先行するあらゆる恐慌とは異つた特質を持つてゐる(1)。だから、前章で與へた資本主義的生産過程の循環性的進行の一般的基礎の素描は、一九二九—三三年の大恐慌をその具體的多面性に於て理解するには決して充分ではない。具體的分析に當つては、マルクスが恐慌の一般的原因の理解を容易ならしめるためにやつた二、三の方法論的單純化を捨て去ると共に、他方では、資本主義の發展によつて作り出された新たなモメントを導き入れなければならないのである。

(1) マルクスは一八四八年及び一八五八年の恐慌のあらゆる細部に亘る具體的分析の上にその恐慌理論を打ち樹てた。『資本論』及び『餘剩價值學說史』中の彼の指摘や、エンゲルスとの往復書簡や、マルクス・レーニン

ゲルス研究所にある驚くべき抜書集やが、このことを示してゐる。

(a) マルクスは、一般的分析に於ては『純粹』資本主義、即ちブルジョアジー及びプロレタリアートの二階級のみから成る社會を前提としてゐる。實際には、地球上の人口の大多數をなすものは、今日に至るまで『獨立生産者』即ち農民と手工業者とである。農民層は資本主義的工業の最も重要な顧客である。農民經濟の生産物は、原料として不變資本のうちに入つたり、労働者の營養に役立つたりする。農民經濟と資本主義的工業とは相互にからみ合つてゐる。そしてなるほど資本は益々もつて農業に侵入して行き、農民層を従屬させ、種々な形態で彼等を……しては行くが、しかし農民經濟の状態はまだ個々の循環性工業恐慌の經過にとつて重大なモメントを成してゐる。良好な農業状態は恐慌を緩和させるし、農業恐慌は、現在吾々が見てゐる通り、恐慌を深刻にし、尖鋭にする。

(b) マルクスは全資本主義社會を『單一の國民』として、資本主義市場を一つの統一的な『世界市場』として考察し、この分析段階では、資本主義社會が個々の、國家的に切離された領域に組織されてゐるといふ事實も、『國內』市場と『國外』市場との區別も、これを度外視してゐる。だが、個々の恐慌、特に今回の恐慌を分析する場合には、吾々は資本主義社會が個々の、益々相互に門戸を閉鎖して行く國家に分裂してゐることに、特殊の注意を向けなければならない。このことは、國際貿易の未

聞の萎縮や、古い意味での『世界市場』の瓦解や、世界市場に於けるあらゆる販賣可能性の鋭い争奪戦や、國際信用の瓦解等々を呼び起してゐるのである。

(c) 一般的にはマルクスの經濟理論、特殊的には彼の恐慌理論は、産業資本主義、即ち自由競争の資本主義の上に打ち樹てられてゐる。今日の資本主義は獨占資本主義であり、帝國主義である。蓄積及び集中を通じての資本の集積によつて自由競争から必然的に發展して來た資本主義の獨占的性質は資本主義社會の購買力を、従つてまた市場の消化能力一般を一層狭めてゐる。獨占とは商品その生産價格(費用價格プラス平均利潤)以上に賣ることを意味する。資本主義が發展するにつれて、労働の生産性の向上によつて條件づけられるところの、資本と労働、ブルジョアジーとプロレタリアーとの間への年々新たに生産される價值分配の恒常的な『正常の』變化、即ち v を犠牲にした m の増加に、新たなモメントがつけ加はる。獨占利潤、なほ作用してゐる『獨立生産者』及び小資本家の所得を犠牲としての總利潤に對する獨占資本の参加分の人為的引上げ、同時にまたブルジョアジーの内部分では、小範圍の金融巨頭に有利な變化。資本主義社會の消費力従つてまた究局に於ては、全資本主義市場の消化能力は、獨占の形成によつてなほ一段と縮小される。

すでに前に述べたやうに、新たに生産された價值の絶對的大きさだけが消費力を規定するのであつて、ブルジョアジーとプロレタリアーとの間の分配、ブルジョアジーの内部では金融巨頭と中小ブルジョアジーとの間の分配はどうでもよいといふブルジョア經濟學者の議論は、間違ひである。 v の總額、即ちプロレタリアーの總所得は、個人的に消費され、第二部門の商品の購入に支出される。だが、 m の總額、即ちブルジョアジーの所得は、その一部分だけが個人的に消費されるのであつて、他の一部分は蓄積される。そして m 即ちブルジョアジーの總所得のうち、小範圍の金融巨頭の手に入る部分が大きくなればなるほど、これらの最大の獨占的搾取者たちの狂氣じみた贅澤にも拘はらず、第二部門の商品の購入に支出される部分は相對的に益々小さくなる。

獨占資本は労働者階級に對して特に強い雇傭者としての地位を占めてゐる。そのために獨占資本は勞賃を勞働力の價值以下に切下げることができるとなる。直接的には賃銀切下げにより、間接的には労働者階級の消費に入る商品の價格を獨占的に釣上げることによつて。

獨占利潤は單にその獨占の商品を生産價格よりも高く賣ることだけから生ずるのではなく、また原料その他の商品を生産價格よりも低い獨占價格で買入れることから生じて來る。農民層の農業生産物や、手工業者、家内工業者、小資本家の工業商品やの買入れに當つて、獨占資本は、多くの場合、獨立生産者に賃銀労働者の所得をさへ許さないやうな價格でそれらを買ひ入れることによつて、價值

の一部分を横取りする。そのためにこれらの層の消費力が特に狭められる。

資本主義社會の消費力は、資本主義の獨占的性質が強まるにつれて、益々相對的に少なくなつて行く。そして、究局に於ては、消費力の大きさが購買力の大きさを決定するものであるから、生産可能性と販賣可能性との間の矛盾は益々大きくなり、市場問題は益々解決できなくなる。

だが、獨占資本主義は單に消費力を狭めるといふ廻り道を通つて資本主義社會の購買力を狭めるだけではなく、また直接にもこれを狭める。獨占價格で市場に賣捌くことが可能なのは、市場への獨占商品の供給が制限されてゐる場合だけである。これを確保するためには、生産の發展を制限し、獨占的生產部門に於ける新生産設備の成立を高物價によつて人為的に狭められてゐる販路に適合させなければならぬ。

これが土臺となつて、獨占資本主義に於ける新たな矛盾が成立する。物價を釣上げて置くために市場への供給を制限しようとする努力は、生産擴張の阻止に向ふ。だが、他方、生産費を切下げようとする努力は、必然的に生産能力の擴張と結びついた技術的に改善された新經營の設立へと向ふ（吾々は決して次のことを忘れてはならない。即ち、獨占は競争を排除しないこと、同一生産部門内に於けるアウトサイダーとの競争、その商品が相互に代替し得る——代用品——獨占間の競争、及び『消費

者の一弗』をめぐつての、換言すれば、社會の總消費中に於ける使用價值としての彼等の商品の分け前をめぐつての、あらゆる獨占間の競争は、鋭く作用してゐるといふこと、これである）。

結局、獨占資本主義の下に於ける循環性恐慌は、自由競争の資本主義の下に於けるよりも、より尖鋭となり、より深刻となる。恐慌は帝國主義の時代にはより緩かになるといふすでに『金融資本論』のなかで打ち樹てられたヒルファードディングのテーゼは、絶対に間違ひである。このテーゼは、恐慌は一に全く市場の見透しがきかないこと、及びそれから生ずる偶然的な不均衡から生ずるものであるといふ、ヒルファードディングの間違つた基本的見解の上に立脚してゐる。彼は恐慌の基本的原因が社會的生產と私的領有との間の矛盾にあることを見てゐない。だが、この矛盾こそ、生産力と消費力との間の矛盾となつて現はれ、周期的にあらゆる商品の過剰生産を呼び起さざるを得ないものなのである。彼は社會の消費力と各生産部門間の不均衡とを機械的に切離してゐる。レーニンは次のやうに言つてゐる。

『社會の消費力と各生産部門間の不均衡とは、決して何等か個々獨立の、相互に無關係な要因ではない。反對に、消費の一定状態は、不均衡の要素の一つである』(2)。

(2) 『レーニン全集』第二卷。

ヒルファードィングは、資本主義の獨占的性質が強まると共に競争が死滅し、市場の『見透しがきく』やうになると考へるから、恐慌が弱まつて行く(3)といふ結論を引き出してゐるのである。だが、正しいマルクスレーニン主義の理論によれば、獨占資本主義の下では恐慌は益々尖鋭にならざるを得ないのである。帝國主義の時期に於ける個々の恐慌の具體的分析が、このことを完全に立證してゐる。

(3) 一九二四年、ヒルファードィングは『社會』第一號中の綱領的論說『時の問題』のなかで次のやうに書いた。

『……自由競争の資本主義から組織化された資本主義への移行が進行してゐる。それと共に、自由競争の資本主義に内在する無政府性を資本主義の基礎の上で克服しようとする意識的な經濟秩序と經濟指導とが成長しつゝある。……この傾向が障礙なしに貫徹されるならば、……恐慌が緩和されるだらうし、さうでない場合にも少くとも労働者に對する恐慌の反作用は緩和されるだらう。……労働關係は恒久性を帯びるやうになり、失業の脅威は少くなり、失業の結果は保險によつて緩和される……』

最近の十年間は、この似而非『マルクス主義』的分析が完全に目録であることを徹底的に立證するに充分であつた。

(d) マルクスの恐慌理論は、なほ上向的で、内包的にも外延的にも急速に擴大しつゝあつた資本主義を基礎として、打ち樹てられてゐる。一九二九—三三年の大恐慌は資本主義の………土臺の上に進行した。従つて、それ獨自の特色を持つてゐる(4)。

(4) 一九二〇—二二年の恐慌もまたすでに資本主義………の時期に起つた。だが、すでに前述したやうに、それは何よりも先づ戦争の結果の作用によつて特徴づけられた。

吾々はこゝで………の充分な説明を與へることはできない(5)。吾々は工業恐慌の形成にとつて最も重要なモメントだけを擧げるに止める。

(5) 『………の綱領』、第十六回……大會に於けるスターリンの報告、論文集『資本主義の一般的危機』(ロシア語)、参照。

(a) 資本主義的社會體制の震撼は、社會主義の基礎の上に立つソヴェート同盟の存在及び隆盛、ソヴェート支那の成立、植民地の………的反帝國主義運動の擴大及び深刻化、資本主義諸國に於ける………の成熟等々となつて現はれ、………の第二幕の開始の間に接近させてゐるのであるが、これは全般的な不安を生じさせ、全世界に於ける資本の新投下及び長期企業を困難にしてゐる。

(b) 資本主義世界に於ける生産諸力と生産關係との間の矛盾は不斷に尖鋭となつて行く。このことは、資本主義の基礎の上に立つ販賣市場の慢性的な狹隘化に現はれてゐるところであつて、あらゆる

る販賣可能性の白熱的な争奪戦と、吾々を戦争の第二幕の間近に近づけた帝國主義的諸對立の激化とを呼び起してゐる。このために資本の駆引き能力は非常に狭められてゐる。販賣市場の慢性的狹隘化は、經濟的には、次の點に現はれてゐる。

一、慢性的農業恐慌の結果、益々狭められて行くところの、工業商品に對する農業人口の購買力。
二、資本の慢性的過剰。先づ第一に産業資本について（生産装置の大部分の恒常的利用不足）（6）。だが商業資本（『商業の過充』）及び貸付資本（急性的な信用恐慌局面は例外）についても同様である。

(6) ドイツ工業の生産能力は、一九二九年には六七・四%、一九三三年には僅か三五・七%しか利用されず、一週四十八時間労働が原則となつた。

三、慢性的大衆失業。これは、産業資本主義時代の産業豫備軍と異つて、繁榮局面に於ても消滅せず、循環性の運動を度外視すれば、益々増加しつつある。

これらが一九二九—三三年の大恐慌の特殊の深刻さ、鋭さ及び長さを規定したところの、資本主義……の最も重要なモメントである。

二 恐慌の深刻さ

尺度として工業生産の逆轉を取つて見よう。總指數の存在するのはドイツだけである(7)。循環によるドイツ工業生産の變化

繁榮年度	最 深 恐 慌 年 度	總指數		生産手段		消費手段	
		年 度 繁 榮 年 度	年 度 恐 慌 年 度	年 度 繁 榮 年 度	年 度 恐 慌 年 度	年 度 繁 榮 年 度	年 度 恐 慌 年 度
一八五五年	一八六六年	一五・九	一六・〇(十)〇・六	一三・四	二二・四	〇〇・〇	二六・三(十)一・三
一八七三年	一八七四年	三三・九	三二・五(一)六・一	一七・六	一六・九(一)四・〇	三八・〇	三四・三(一)九・七
一八八五年	一八八六年	三三・三	三三・七(十)一・六	二七・七	二八・三(十)三・二	四五・〇	四五・一(十)〇・三
一八九一年	一八九三年	四一・四	四〇・〇(一)三・四	三五・五	三三・八(一)四・八	五八・〇	五七・七(一)〇・五
(一八八八年) (一九〇〇年)							
一九〇〇年	一九〇二年	六四・七	六四・九(十)〇・三	六三・一	六二・一(一)一・六	七五・〇	七三・三(一)三・七
一九〇六年	一九〇八年	八四・三	七八・八(一)六・五	八三・〇	七六・〇(一)八・四	八九・六	八七・〇(一)二・五
一九二三年	一九二三年	七一・四	四六・九(一)三・四	七〇・七	四三・四(一)三・八・六	七六・三	五八・八(一)三・九
一九二九年	一九三三年	一〇三・一	六二・三(一)二〇・六	一〇三・〇	四八・四(一)五三・〇	一〇六・二	七九・四(一)三三・三

(7) ベルリン『景氣研究所』の計算。

第二章 一九二九—三三年の大恐慌

(a) この数字は一八九八年及び一九〇〇年のもの。この恐慌は第二部門では早く始まり、早く終つた。だから、總指數が上向いてゐるのに、個別的な二つの指數が下向いてゐるといふ状態になつてゐる。

この表は吾々のこれまでの説明を最も明瞭に例示してゐる。

(a) ドイツ資本主義が急速な上向線を辿つてゐた産業資本主義の時代には、決定的な産業部門に於ける恐慌は非常にゆるやかであつた。總じて三つの恐慌に於ては、何等工業生産の逆轉が起らず、たゞ増大のテンポが緩慢になつたに過ぎなかつた。

(b) 生産諸力の發展がまだ獨占によつて何等の制限をも受けてゐなかつた産業資本主義の時代に於ては、生産手段の生産減退は消費手段の生産減退よりも甚だしくなく、寧ろヨリ僅かであつた。

(c) 帝國主義時代、特にアルゲマイネ・クリーゼの時期に於ては、恐慌に於ける工業生産の減退が飛躍的に高まつてゐる。同時に、獨占の作用とアルゲマイネ・クリーゼの特徴をなす生産手段の慢性的過剰とのために、恐慌の重點が第一部門に移つてゐる。

(d) 今回の恐慌は、その深刻さに於て、これまでのあらゆる恐慌を遙かに追ひ越してゐる。特に、生産手段の生産は半分以下に低落してゐる。一方、消費手段の生産は四分ノ一だけ減退したに過ぎない。

他の諸國にはかういふ風に計算された總指數は一つも存在しない。吾々は長期に亘つて存在する舊工業の計數をこれに代用することにしよう。次の表は繁榮年度から最深の恐慌年度に至る生産減退の百分率を示す(8)。

アメリカ合衆國の生産減退(百分率)

	石炭	鉄	鋼	棉花消費額
一八五七—一五八年	一〇七	二〇三	—	二七・四
一八六五年	(十)〇・五 (増加)	一七・九	—	—
一八七四—七五年	九・一	二七・〇	(十)八・五 (増加)	九・六
一八八四—八五年	七・五	二二・五	二〇・七	一五・四
一八九三—九四年	六・四	二七・三	一八・四	一九・八
一九〇七—〇八年	三・四	三八・二	四〇・〇	八・九
一九二〇—二一年	二七・五	五四・八	五三・〇	二〇・〇
一九二九—三三年	四一・七	七九・四	七六・三	三二・〇

(8) モスコ「世界經濟及び世界政治研究所」景氣研究部計算。

この表は本質的にはドイツのそれと同じ動態を示してゐる。生産手段の典型的な原料である鋼鐵と

鉄鐵との驚くべき生産減退は、今回の恐慌に於て、特に著るしい。イギリスとフランスに於ける様相は、多少これとは異つてゐる。イギリスでは、現在の恐慌に於ける生産減退率は第一次戦後恐慌に於けるよりも少なかつた。これはアルゲマイネ・クリーゼがイギリスに於て特に顯著であるためである。イギリスでは一九二八―二九年に何等眞の景氣亢進がなかつた。これに反してフランスでは、一九二〇―二一年の恐慌は比較的ゆるやかであつた（工業生産總指數の減退は、今回の恐慌に於ては三一%であつたのに、一一%に過ぎなかつた）。これは荒廢した工業地方の復興が有力な特殊販路を作り出したからである。だが、個々の國々のこの不均等性は、一九二九―三三年の恐慌が世界的規模に於て資本主義の歴史中最も深刻なものであつたといふ事實を何等變化させはしない。

今回の恐慌の特殊の深刻さについて決定的な役割を演じてゐるのは、大恐慌中に世界的規模に於て第一部門を特に強度に逆轉させたところの生産手段の慢性的過剰であることは、次の表がこれを示してゐる。

世界工業生産指數（一九二八年＝一〇〇）（9）

生産手段	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
消費手段	一〇〇	九六	九二	八九	八六	八三

（9）一九三二―三三年についてはソヴェート同盟を除いた資本主義世界の統計は存在しない。それ以前の諸年度については、ソ同盟を除いた數字は、次の通りである。

生産手段	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
消費手段	九六	九四	九三

一九三二年の計數をくらべて見ればわかるやうに、ソヴェート同盟を引入れることによつて世界指數は著るしく第一部門に有利になつてゐる。（景氣研究所の數字、別冊第三一號六七頁、一九三二―三三年については、週報第二七號一九三四年七月十四日）。

最深の恐慌年度一九三二年には、第一部門の生産は一九一三年の水準より約一〇%下廻つてゐた。ところが、第二部門の生産は一九一三年の水準より約一〇%上廻つてゐたのである。

最重要資本主義諸國に於ける部門別の生産減退は、一九三二年には、次表の通りであつた。

一九三二年の工業生産指數（一九二八年＝一〇〇）

第一部門	合衆國	ドイツ	イギリス	ポーランド	フランス	日本
第二章	一九二九―三三年の大恐慌	四八・二	五〇・二	八五・三	四九・四	八〇
						九九・五
						五二

これらの數字は個々の國々の間の著るしい不均等性を示してゐる。生産手段生産の立ち遅れが最も著るしいのは、工業生産装置が恐慌前に合理化との關聯に於て最も強度に擴張され近代化された二つの國、合衆國とドイツとである（ポーランドでは、資本の缺乏、資本輸入の杜絶が大きな役割を演じてゐる）。フランスは恐慌の全持續期間中例外的な地位を占めてゐた。第一部門の減退がつねに第二部門のそれよりも少なかつた。このことの最も重要な原因は、次の通りである。恐慌前に於ける合理化の開始の立ち遅れとその度合の僅少、恐慌中の大規模な要塞、港灣、運河の建設、特に強度に恐慌の打撃を受ける第二部門中の奢侈品工業の比重が著るしく大きいこと。イギリスで、總じて生産減退が僅かであつたのは、基礎にとつた一九二八年の生産がすでに非常に僅かであつたからである。日本ではすでに一九三一年に恐慌が底を入れた。

個々の生産部門のうちでは、鉄鐵Ⅱ及び鋼鐵工業のほかに、建築業、造船業及び機械製作業、つまり、何よりも先づ固定資本として使用さるべき商品を生産する工業部門が、最も強度に恐慌の打撃を受けた。固定資本の増大を避ける方法については、次のやうに書かれてゐる。

『最近半ケ年間でドイツでは工作機械の註文は極めて個別的に發せられたに過ぎない。註文を發したのは殆んど全く中小會社だけである。これに反して、大製作所やコンツェルンは、生産設備に關する限り、その購入を延期してゐる。焦眉の必要は作業度のヨリ少ない製作部門の在庫品で間に合はせてゐる』(10)。

(10) H・シェーニング『ドイツ工作機械工業』、『ドイツ技師協會雜誌』一九三三年三月四日。
生産能力の慢性的過剰の影響を受けて、恐慌中、個々の國々に於ける生産手段の生産が屢々その時の自然的消耗を補ひ得ないほど強度に減退した。このことはブルジョア的な權威がすでに一九三一年について承認したところであつた。例へば『景氣研究所』は次のやうに書いてゐる。

『ドイツ國民經濟全般について言へば、一九三一年には、その時々々の消耗と老廢とによる現存設備の減少は、更新投資と個別的な新投資との合計よりも大きかつたと見て差支へない。換言すれば、一九三一年にはドイツ國民經濟は自分の身を喰つたのである』(11)。

(11) 一九三二年三月九日の週報。
アメリカの鋼鐵トラスト（ユナイテッド・スチール・コーポレーション）の年報中には、一九三一年について次のやうに書かれてゐる。
『一九二二年から一九三二年までの最近十ケ年間の年平均粗鋼生産は、四千三百萬噸であつた。』

これにくらべて一九三一年のそれは二千六百萬噸であつた。合衆國の最近十ヶ年間の鋼鐵生産物の平均消費量を基礎にすれば、經營の維持及びその時々々の消費（發展擴張はないものとして）のための國內需要は、一九三一年の消費よりも著るしく多くの噸數を必要としたといふ考へにも根據があるやうに思はれる。

だが、一九三二年には、合衆國の粗鋼生産は一九三一年のほぼ半分に低下した。だから、生産がその時々々の消耗を補ふに遠く足らなかつたことは明かである。

二三の場合には、恐慌中の固定資本の破壊を直接に確認することができる。吾々は二つの例を擧げることにする。アメリカの鐵道と木綿工業とがそれである。

恐慌前の五ヶ年間は、合衆國の鐵道は年々約二百萬噸以上のレールをその各線での消耗を更新するために取り代へたのであるが、一九三二年には僅か五十萬噸のレールが取り代へられたに過ぎなかつた。

合衆國の鐵道の車輛についても同様である。車輛の註文は次の通りであつた。

機關車	一九二九年	一九三一年	一九三二年
	三三三	三三五	一九三三年九月まで 三三五
客車	二、三〇三	二	〇
貨車	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	二、〇〇〇

機關車及び車輛の修繕が非常に閑却されたので、現在では使用可能の機關車が恐慌前より四千臺も少なくなつてゐる（計數は『鐵道時代』各號より）。

作業してゐる紡錘數 (12)

	一九二九年八月一日	一九三三年二月一日	減少	百分率
	(單位百萬)	(單位百萬)	(單位百萬)	
資本主義世界	一五六・七	一四八・四	八・三	五
右の内				
イギリス	五五・九	四八・〇	七・九	一四
アメリカ	三四・八	三三・〇	〇・八	二
ドイツ	二・三	九・九	一・四	一三

(12) 『國際木綿統計』一九三四年三月。

纖維工業の退潮は指導的な資本主義諸國に起つた。これに反して、植民地諸國では、恐慌中にも纖維工業の或る程度の擴張が行はれた。だから、全世界の減少は三つの指導的資本主義諸國を併せたも

のよりも少ないのである。

船舶噸數の發展も同じやうな様態を呈してゐる。

正味總噸數(單位百萬)(13)

年次	總 數	内	
		蒸 汽 船	モーター船
一九二九年六月	六〇七	五九七	六〇三
一九三四年六月	六五八	五三七	一〇六〇
	(一) 二〇九	(一) 六〇三	(十) 三〇七

(13) 『統計月報』一九三四年七月、二九二頁。

だが、この數字は發展の對立と不均等とを示してゐる。一九二九—三三年には約九百萬噸の新船が竣工された。ところが、廢船は一千二百萬噸に上つた。しかも、一九三三年半ばには、一千百六十萬噸以上が繋船されて交通から引上げられた。だが、國際競争と戰爭準備とは、新たなヨリ高速のモーター船の建造に拍車をかけた。一九三四年半ばには一千二百萬噸の新造が進められた。國別に見ると、木綿工業と同様の不均等な様相が見られる。

一九二九年半ばから一九三四年までの船舶現在高の減少

イギリス	合衆國	ドイツ
二〇三	一〇六	〇五

これに反して、種々の小國では噸數が増加した。世界經濟の分業の退歩傾向は、木綿工業に於けると同様に、こゝにも現はれてゐる。

この種の計數と事實とは——まだいくらでも擧げることができるのであるが——この大經濟恐慌に特殊の、これまでのあらゆる恐慌を凌駕するところの、深刻さを示してゐる。一部の工業に注文を發した巨大な戰爭準備がなかつたとしたら、生産はもつと深刻に減退しただらう。これらの事實には、資本主義……が明白に現はれてゐる。

三 恐慌の全包括的性質

今回の恐慌をこれまでのあらゆる恐慌から區別するものは、同志スターリンが第十七回：大會で強調したやうに、その全包括的性質である。これまでの恐慌の歴史を研究して見れば、つねに恐慌を免れた個々の國々及び個々の生産部門があつたことがわかる(14)。現在の恐慌は、慢性的な農業恐慌

とからみ合ふことによつて、一切の國々を、工業國も農業國も、帝國主義國も植民地も、生産手段も消費手段も、生活資料生産も原料生産も、例外なしに襲つた。

(14) 例へば、ソープ『實業年史』Business Annals ニューヨーク一九二六年参照。

一つの例外は、直接に戦争準備に役立つ産業部門、即ち飛行機製作、人絹生産等々だけである。これらの産業部門では、恐慌中にも生産が増加し、現存設備の充分な利用には遙かに遠いにも拘はらず、新設によつて生産能力が増加してゐる。

世界生産(單位一千ドッペルツェントナー)(15)

	一九二三年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三三年	一九三五年
人	174	208	100	114	120	131
絹

(15) 『國際聯盟統計年鑑』一九三三—三四年。

人絹發展は非常に不均等であつた。例へば、國際聯盟の見積りによれば、日本では、人絹の生産は一九二八年の七千五百ドッペルツェントナーから一九三三年の四萬四千ドッペルツェントナーに増加した。

四 恐慌の持續期間の長さ

今回の恐慌は疑ひもなく、資本主義の歴史中最も長い恐慌である。だが、正確な數字上の比較をやることは困難である。それは次の理由による。

(a) 恐慌の公然たる爆發は時間的に正確に規定される(尤も、賣れ残り商品の堆積といふ形態に於ける恐慌は、これまでに長期間成熟しつゝあるのであるが)。これに反して、恐慌から不景氣への移行は、嚴密に境をつけられないところの、逆轉によつて中斷される過程である。恐慌の底が通過された後で何時恐慌が不景氣に移行したかといふその時期の決定は、つねに多かれ少なかれ任意的にしか行はれ得ない。正確に擧げることのできるのは、生産の最高點と恐慌の底との間の期間だけである。だが、恐慌の底は未だなほ恐慌の終末を意味しないのである。

(b) 次のやうな技術的根據による。即ち、昔の循環については、月生産計數が全く存在せず、年計數が存在するだけである。だから、吾々は合衆國の二三の例を擧げるに止めようと思ふ。

生産減退の持続期間(月數)

恐慌年度	銑	鐵	石炭	建築契約
一九〇七—〇八年	三	六	九	九
一九二〇—二一年	一六	四	九	九
一九二九—三二年	三〇	四一	五七	六

生産減退から恐慌の底までの期間の長さは、同時に全恐慌の持続期間の異常な長さを規定するものであるが、これは資本主義の……、商品の價格下落を阻止しようと企てた獨占の作用、及び部分的には恐慌を長びかせる結果を持ち來したところの、國家的方策によつて急速に恐慌を克服しようとしたブルジョアジーの企ての歸結である。

五 恐慌中の物價下落

恐慌中の物價下落は、大戰後の恐慌を除けば、これまでのどの恐慌とも比較にならぬほど激しかった(16)。この大げさな物價下落は、一聯の重要な質的に新たな恐慌のモメント、即ち本位貨の減價、外債の支拂停止、資本輸出の杜絶の基礎をなしてゐる(17)。だから、吾々はその原因を詳細に検討しなければならぬ。

(16) これまでの恐慌に於ける物價下落は、約一〇%であつた。一八七三年から一八九六年までの十九世紀に於ける大物價下落期は、決して循環性を帯びたものではなかつた。この物價下落は、一方では大農業恐慌の他方では、この資本主義の上向期には非常に大きかつた技術的進歩、勞働の生産性の向上の結果としての資本主義的に生産される商品の價值減少の、結果であつた。

(17) 物價下落の不均等性——獨占價格の下落は自由價格の下落よりも僅かであり、工業商品の價格下落は農業生産物の價格下落よりも僅かであつた等々——は、恐慌中の對立の尖鋭化の特殊の要因をなしてゐる。このことについてはこれと關聯させて後で論及する。

恐慌中の最重要諸國に於ける價格形成は次の通りであつた。

年平均	卸賣物價指數(一九一三年=一〇〇)(18)			
	ドイツ	フランス(金フラン建)	イギリス(エコノミスト)	アメリカ
一九二九年	一三七	二七	二七	一三七
一九三〇年	一三五	一三	一〇七	一三四
一九三一年	一一	一〇三	八九(a)	一〇五
一九三二年	七	八七	八六	九三
第二章 一九二九—三三年の大恐慌				六
				一三(b)
				日本
				一六
				一三七

一九三三年……………九三

八一

八七

九四(c)

六三

一三六

(18) 『統計月報』國際聯盟、一九三四年第七號。

(a) 一九三一年九月よりインフレーション。

(b) 一九三一年末よりインフレーション。

(c) 一九三三年四月よりインフレーション。

これらの數字は相互に比較することはできない。なぜならば、異つた商品が基礎に取られてゐるし、同じ商品が基礎に取られた場合にも、その評價の重さが異つてゐるからである。だが、價格水準の運動は、インフレーションの作用を考慮に入れるならば、同様である。

一九二九年から一九三三年までの物價下落百分率(年平均)

ドイツ

フランス

イギリス

アメリカ

三

三

三

三

大して強度の本位貨減價が起らなかつた國々ではすべて、物價下落の百分率がほど同様であつた。

この強度の物價下落の原因は、單に恐慌の鋭さといふ點だけにあるのではなく、また次の點にもある。

大戦中に商品の需要がその供給を不斷にしかも非常に強度に追ひ越してゐたので、殆んどすべての

商品の價格がその價值を著るしく超過した。この主張は、商品の價格はその價值によつて決定されるといふマルクスの基本テーゼと矛盾するやうに見える。だが、實はさうではない。需要が長期に亘つて著るしく供給を追ひ越す場合には、價格が價值以上に上り得るし、また上らざるを得ない。價格が價值によつて決定されるのは、一般的な『正常な』事情の下に於てのみである。

『恐慌が商品の價值の變化と一致しない價格變動と價格革命とから發生する限り、商品の價值と一致した價格を前提とする資本一般を考察する場合に、それが展開され得ないことは言ふまでもない』(19)。

(19) 『餘剩價值學說史』第二卷第二部二八九頁。傍點はヴァルガ。

これでもわかるやうに、マルクスは價值の變化を伴はない『價格革命』を豫見してゐる。それだけではない。あらゆる循環に於て、高景氣の場合には、事實上の市場價格が價值以上に騰貴し、恐慌の場合には、市場價格が價值以下に下落する。商品の價格總額と價值總額との等一は、全循環についての平均としてのみ貫徹される。マルクスは次のやうに言つてゐる。

『……繁榮期、特にその眩惑的繁盛期には、……商品で現はされた貨幣の相對的價值が(他に實際の價值革命なしに)低下し、従つて商品の價格がそれ自身の價值とは無關係に騰貴する』(20)。

だから、世界大戦中需要が恒常的に供給を超過した結果生じた價格の價值からの分離は、決してマルクスの理論と矛盾するものではない。反對に、さうでなければならなかつたのである（國家的諸方策による物價の人為的釣上げ——合衆國及びイギリスに於ける最低物價の保證——もまた一つの役割を演じた）。

金物價は世界大戦の終りまでに一九一三年の三倍以上に騰貴した。一九二〇—二一年の恐慌では、この物價の割高は半分だけ切下げられたに過ぎない。このまだ非常に割高な水準で物價の安定が行はれた。金物價指數は、一九一三年を一〇〇として、一九二二—二九年には一五〇近邊を動いてゐた。物價がほど戦前の水準まで低下しなかつたことの原因は、金の價值が戦前の時期より減少したことではない。なぜならば、金の重量單位のうちに含まれてゐる労働時間を著るしく切下げるやうな技術的革新は全然起らなかつたからである。吾々の見るところによれば、原因は生産費のうちの非常に重要な要素である小作料、地代、運賃、使用人俸給、租税等々が、長期契約または國家の命令に拘束されて、高いところに釘づけにされてゐた點にある。この生産費中の割高な要素は、需要供給が多かれ少なかれのり合ふやうになつても、まだ物價を高いところに止まらせた。これらすべての條件を粉碎し

（労働の生産性の向上の結果）疑ひもなく戦前よりも低下してゐる商品の價值に物價を適合させるためには、第二の苦しい恐慌が必要であつた。だが、この適合は強力的な過程であつて、恐慌を特に尖鋭にし、従つて恐慌の克服を非常に困難ならしめ、國際貨幣Ⅱ及び信用體制を掻き亂し、現在の不景氣の特殊性の一要素をなしてゐる。

六 利潤の減少

いかなる恐慌も領有される餘剩價值總額の減少を意味する。なぜならば、……される労働者數が著るしく減少し、賃銀切下げが物價下落に追いつき得ないからである。領有される餘剩價值總額の減少は利潤總額の減少と同じことである。

だが、強度の物價下落の結果、利潤が餘剩價值よりもなほ強度に低下した。商品の市場價格は實際の生産價格によつて決定されるのではなく、寧ろ再生産價格によつて決定される。もし不變資本の諸要素——原料、助成材等々——の價格が生産過程中に下落したとすれば、完成製品の市場價格は實際の支出によつて決定されるのではなく、その販賣のときに原料、助成材等々を購入するに要する支出によつて決定される。だから、鋭い物價下落の場合には、資本が一回轉する毎に缺損が生ずる。労働

者は……、餘剩價值は領有される。だが、利潤は生じて來ない。生産期間が長ければ長いほど、
欠損が大きくなる (21)。そのほかに、生産費を積極的に高めるところの生産設備の利用不足が、同様に
大きな役割を演じてゐることは勿論である。

(21) 物價下落は不變資本の諸要素を低廉にするから、それは資本の有機的組成の切下げ、従つて資本の強度
の**欠損を犠牲にした利潤率の引上げを意味する**。だが、この作用の効果が現はれて來るのは、物價下落が止
んだ場合だけである。

最重要資本主義諸國の貸借對照表統計

	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
アメリカ合衆國、『標準統計』による四三三の工業會社の『純利潤』 (一九二八年—二〇〇〇)	一三三・五	六七・六	二八・〇	七・〇
イギリスの利得 (一九二四年—二〇〇〇)	一一〇・一	一一九・四	九三・五	七五・八
ドイツの利得總額 (單位百萬マルク)	三三・〇	二七・〇	二六・〇	七三・〇
			(欠損)	

吾々は次のことを強調する。これらの数字の示してゐるのは、吾々の所謂利潤ではなく、**企業利得**
(利子、負債償却金、租税を控除した後額)である。だが、それでも大體近似的な様相は出でゐる。

この場合、その信用が危険に瀕した多くの株式會社が貸借對照表を『氷結』させ、**實際には欠損が出**
てゐるのに利益を計上してゐることも、あり得ないことではない。

右の包括的な数字は**非常な不均等性を蔽ひかくしてゐる**。個々の産業部門に於ける**恐慌が深刻で、**
その生産過程が長ければ長いほど、欠損はヨリ大きくなる。吾々は、アメリカ合衆國の例を挙げよ
う(22)。

アメリカ合衆國に於ける**重要産業部門の企業利得**(貸付資本の利子、租税及び負債償却金を控除し
た**残りの利潤**)は、一九三二年には次の通りであつた。

購買者及び供給者に對する獨占

	企業數	資本 (單位百萬弗)	企業利得 (單位百萬弗)	百分率
生活資料工業	四一	七六五	四四・一	五・六
乳製商品	二〇	三二	一九・八	六・二
パン製造所	三二	三六	二七・九	七・六
煙草	二六	八九	一一・三	一三・四

(22) 計數は『ナショナル・シティ・バンク』一九三四年四月報告より。

無組織の農民から原料を非常に低い価格で買入れ、最後の消費者にその商品を賣捌くところの、従つて價格を高く釣上げて置くことができるし、しかも生産期間が非常に短く（パン屋にあつてはもとゞ僅か一日である）、その賣れ行きが比較的になほど低く低下してゐないこの二重の獨占は、恐慌中にもかなりの利潤を擧げた。

これが必ずしも第二部門のすべての企業に當てはまらないことは、次の計數が示す通りである。

木綿工業	一三〇七	三九〇〇
羊毛工業	一一〇〇	一九〇五
他の纖維工業	一一〇六	一〇〇七

これに對して、原料を自ら作り出すかまたは他の獨占から高い獨占價格で買つて居り、生産期間がヨリ長く、生産の減退が遙かに甚だしい重工業の企業は、最も強い獨占的地位を占めてゐるにも拘はらず、巨額の缺損を示した。

鉄鐵及び銅鐵	五二	一六〇九
機械製作所	七三	三九〇〇
自動車製作所	二〇	四〇〇五
建築材料	四	一九〇五
銅探掘	一四	一〇〇七

農業生産物の價格下落の影響については、後で特別に論ずることとする。

七 信用恐慌とその特殊性

生産部面に於ける恐慌はすべて信用部面にその作用を及ぼす。だが、信用恐慌の開始が生産部面に於ける恐慌の勃發と一致しなければならないものではない。現在の恐慌の特殊性は、信用恐慌の公然たる爆發が二―三年遅れて起つた點にある。信用恐慌は、ドイツでは一九三一年の夏に、アメリカ合衆國では一九三三年の三月に、破局的に爆發するに至つた。非常に進んだ銀行資本及び産業資本の金融資本への合成が起因となつて、大銀行は信用恐慌の公然たる爆發を自分たちの利益のために阻止しようとして、あらゆる手段を適用した(23)。信用恐慌そのものの危険は、ドイツ大銀行の崩壊が證明したやうに、最高度に達し得たのである。だが、一國に於ける爆發が延期される期間が長ければ長い

ほど、信用恐慌は益々破局的な形態を取つた。信用恐慌が最も尖鋭であつたのは、アメリカ合衆國であつた。アメリカ合衆國では、周知のやうに、一九三三年三月には一切の金融制度が閉鎖されざるを得なかつた。

(23) 産業資本主義の時代には、銀行は何よりも先づ手形信用を與へたので各個々の債務者については比較的僅少な金融が問題だつただけであるが、この時代の恐慌に於ては、銀行はその債權を助けるために比較的容易にその債務者を破産に追ひやつたのである。

信用恐慌の激しい爆發は、何よりも先づ、實際の債務負擔を恐慌中に三〇乃至四〇%高めた猛烈な物價下落のために、防止することができなかつた。

物價下落は實際の所得分配を債權者(金利生活者)に有利で債務者(工業家、農民、家主、手工業者)に不利になるやうに激しく變化させることを意味する。換言すれば、あらゆる形態の貸付資本は恐慌のためにさなきだに減少した利潤總額のなかゝら以前と同額の利子及び負債償却金を手に入れることになつてゐた。だが、これは長期に亘つては不可能であつた。これには三つの血路があつた。

一、破産による自生的な負債棒引。
二、實際の債務負擔を低下した物價水準に適合させる本位貨の減價。

三、國家によつて認められた内外債の支拂停止。

負擔し切れなくなつた債務負擔の一部分を破産によつて棒引にするといふ資本主義にとつて正常な無政府的な方法は、今度の恐慌では自由に行はれ得なかつた。ダルムシュタット銀行やドレスデン銀行や、ウィーン信用銀行や、スウェーデンのクロイガー・コンツェルンや、アメリカ合衆國のインサール・コンツェルン等々のやうな金融資本の最高司令部が、破産に捲き込まれた。破産数は恐慌の深刻さや激しい物價下落の結果驚くべき大きさに達し、そのために信用體制が完全に崩壊し、政治的には農民層及び都市小市民層に對するブルジョアジーのヘゲモニーが危険に瀕する懼れがあつた。破産の波は堰き止められなければならなかつた。これは或ひは本位貨の減價により、或ひは國家の命令による國內の利子切下げ、利子引上げ禁止等々により、或ひはまた外國に對するモラトリウムによつて行はれた。このやうにして信用恐慌は銀行恐慌に高まり、さらに本位貨恐慌に高まつて行つたのである。

八 本位貨の減價

大多數の國々の本位貨の減價は、これまでの恐慌には決して存在しなかつた質的に新たなモメント

である(21)。

(24) これまでに金本位貨が減價した場合には、それは——大戦後の恐慌中の本位貨の減價もまたさうであるが——殆んど全く、戦費補填のための狭義のインフレーション、即ち紙幣の發行を呼び起した戦争の結果であつた。現在の本位貨減價は、決してかういふ典型的な意味での「インフレーション」つまり國家の赤字を補填するための紙幣流通の増加の結果ではない。なるほど多くの國々では、物價下落と生産の減少との結果縮小さるべきにも拘はらず、銀行券流通が恐慌中に増加した。だが、この増加は直接豫算上の赤字を補填するためにつつたのではなく、寧ろ信用恐慌のために銀行その他の企業の現金準備が恒例通り著るしく増加されたために起つたのである。

インフレーションの波の一般的な經濟的基礎は、内外債の負擔が強度の物價下落の結果擔ひ切れなくなつたといふ事實である。直接の原因は國によつて異つてゐた。對外債務を負つてゐる農業諸國では——輸出超過によつてもはや外債の利子及び償却金をカバーすることができなくなつたほどの激しい農業生産物價格の下落の結果としての國際收支の支拂超過。イギリスでは——ロンドンに投下された短期外國資本の大部分の突發的な引揚げによる國際收支の一時的な支拂超過と強度の金流出。アメリカ合衆國では、全信用——及び銀行體制を崩壊の瀬戸際にまで押しつめた債務負擔を軽減するためによられた意識的な國家的方策によつて、國際收支が受取超過であるにも拘はらず、本位貨の減價がひき起された。

大まかに言へば、インフレーションは三つの波となつて行はれた。第一の波は、一聯の海外農業諸國のインフレーションをひき起した。第二の波——一九三一年秋——はイギリスの金本位制離脱とイギリスの全自治領、印度及びスカンディナヴィア諸國の本位貨の減價した磅への適合とをひき起した。第三の波は、一九三三年の春に始まつた——アメリカ合衆國の金本位制離脱。インフレーションの過程はまだ決して終熄せず、不景氣局面に於てもさらに繼續してゐる。一九三四年半ばには次のやうな結果となつてゐる。

(a) 實質上の金本位制が維持されてゐる國、つまり銀行券が希望通りで平價で金に兌換され金を自由に輸出することのできる國が、まだ四ヶ國ある。フランス、オランダ、スウイス及びベルギーがこれである。

(b) 形式上の金本位制が維持されてゐる一群の國がある。本位貨は外に對しては、つまり外國に對しては、金平價を維持してゐる。だが、これは實質上の金本位制を維持してゐる國々の場合のやうに自由な金運動によつて維持されてゐるのではなく、外國貿易及び爲替取引の嚴格極まる統制や自國

銀行券の輸出禁止によつて維持されてゐるのである。二三の國々では外債の支拂停止がこれにつけ加はる。このことについては後で論ずる。このグループに屬するのは、ドイツ（平價切下げ後の）、イタリー、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、チエコスロヴァキア、ブルガリア、レットランド、リスニアである。これらの國々の二三のもの、例へばドイツでは、事實上二つの爲替相場がある。その一つは國家の認めた爲替割當に使用されるところの公式上の、金平價に對應した爲替相場であり、今一つは國內でだけ有効な外國人所有のマルク額（登記マルク等々）に使用される爲替相場であつて、これは二〇乃至五〇%の平價割れを示してゐる。マルク證券は、外國では、二〇乃至五〇%の平價割れをもつて取引されてゐる。

(c) 他、の諸國ではすべて本位貨が公然と減價してゐる。このなかに三つのグループがある。

一、磅ブロック。これは經濟的にイギリスと密接に結びついてゐて、その本位貨が磅に『從屬』してゐるところの、つまり金に對するその本位貨の相場が磅相場の運動に對應して調節されるところの國々のグループである。換言すれば、これらの國々にとつては磅が或る程度世界貨幣の役割を果してゐるのである。このグループに屬するのば、イギリスの自治領及び植民地の全部、スカンディナヴィア諸國、ポルトガル、アルゼンチン及びブラジルである。

イギリス・ブルジョアが、非常に強度の金流出を呼び起した國際收支の一時的支拂超過のため、金本位制を放棄することを餘儀なくされたことは、疑ひを容れない。彼等は世界の銀行としてのその地位から出て來る巨額の利得の手前、嫌々ながら、非常に嫌々ながら、金本位制を放棄したのである。アメリカ合衆國及びフランスで巨額の借款を募り、それによつて金本位制の維持に必要な爲替を調達しようと企てた事實が、このことを證明してゐる。國際取引所の状態は、爲替手形を調達するためにイギリス所有の外國有價證券を市場に投げ出すことを許さなかつた。なぜならば、そんなことをすれば破局的な取引所崩壊が起つたであらうから。だが〔磅〕の減價が不可避的であることがわかるや否や、イギリス・ブルジョアは、一方では磅の減價を世界市場での販路爭奪戦に利用し、他方では、減價（彼等は自由な金流通の恢復によつて急速にこの減價に確乎たる限界を置いた）にも拘はらず、世界の本位貨としての磅の役割を恢復することによつて、この減價からできるだけ多くの利益を引き出した。イングランド銀行の金準備は現在では當時よりも多くなつてゐる(25)。

(25) 一億磅以上の金が印度から吸ひ上げられた。

二、第二のグループをなすのは弗ブロックである。アメリカ合衆國及びその本位貨が弗の減價に對應して調節される二三の中南米諸國がこれである。

アメリカ合衆國に於ける金本位制の放棄は、イギリスや日本に於けるやうに、貨幣上の強制によつて、金準備を流し去り始めた金流出によつて、條件づけられたものではなかつた。(一九三三年初めの金流出は、外國銀行の比較的僅かな短期預金が引き出されるや否や、中止されざるを得なかつた)。巨額の金準備——四十億舊弗以上——を本位貨の擁護のために動員するといふ企ては、一般に全然やられなかつた！ 金本位制からの離脱は、債務の重荷で崩壊した債務者の堪え難い状態を軽減し、産業資本と貸付資本との間の利潤の分割を前者に有利に變化させる目的をもつて、意識的に行はれたのである。

だが、金本位制の放棄だけでは弗の減價を呼び起すには不充分であつた。アメリカ合衆國の貿易差額は、イギリスとは反對に、非常な輸出超過である。國際收支もまた受取超過である。だから、特別の手段を講じなければならなかつた。國際收支の受取超過は、銀行券の金兌換が行はれないにも拘はらず、新たに確定された銀行券の金價値を維持するに充分である。

減價を一層押し進めるための與へられた手段は、豫算の赤字の補填に不換紙幣を發行することだらう。(上院はローズヴェルトに三十億弗の追加紙幣を發行する全權を與へた)。だが、ローズヴェルトは現在までのところこの「公然たる」インフレーションを躊躇し、資本主義の歴史中に未だ會つてない新方法を採用した。金フランで現はした弗の時價に相應した價格よりも高い價格で金を買上げ、弗相場を人為的に切下げる方法がこれである。この方法によつて一九三三年末までに弗の相場を金價値の四〇%だけ切下げること成功した。そして弗は、大ブルジョアジーの決定的部分の壓力によつて、金本位制を恢復することなく、右の水準で事實上安定された。

三、第三のグループの國家に屬するのは、その減價した本位貨が磅にも弗にも『從屬』してゐない國々である。これらの國々の大多數は、農業生産物の價格が強度に下落したために、もはやその輸出手取金によつては、外債の利子及び償却金の支拂に必要な爲替手形を調達することができなくなつたところの農業債務諸國である。これらの諸國は、その金準備が涸渴した後では、インフレーションと外債の支拂停止とをやらざるを得なかつた。次の表はこの説明に役立つ。

恐慌中のアルゼンチンの國際收支(26)

	貿易差額の 輸出超過	對外拂の利 子及び配當	他の給付に對 する支拂(27)	合 計	金 輸 出	對外債務 の増加
一九二七—二八年……	(+) 一兆	(-) 一八三	(-) 五	(-) 一三	(-) 一四(輸入)	一三
一九二八—二九年……	(+) 一四	(-) 一八	(-) 四	(-) 一三	(+) 二	一
一九二九—三〇年……	(-) 一三	(-) 一五	(-) 一	(-) 二九	(+) 一	一七

(26) 『國際聯盟統計年鑑』一九三二—三三年、一七三頁。

(27) 船賃その他、これに類するもの。

これらの數字が示してゐるやうに、輸出の純手取金は一億九千九百萬弗から四千三百萬弗に低下した。ところが、利子その他の對外義務は二億三千四百萬弗から一億三千九百萬弗に減少したに過ぎない。アルゼンチンは恐慌中に二億一千八百萬弗を金で支拂ひ、それが可能である限り、新たに外債を募つてそれを舊外債の利子拂ひに充當した。だが、一九三〇—三一年にはもはや新たな借款は全く不可能となつた。インフレーションと外國に對する利子拂ひの部分的停止とが不可避的となつた。これでもわかるやうに、本位貨の減價の一般的經濟的基礎は強度の物價下落であつたのであるが、しかしインフレーションを起させた具體的な經濟機構は、國(または國の型)によつて異つてゐた。

九 金本位貨諸國について數言

一目でわかる通り、事實上または形式上金平價を固守してゐる國々はすべて——典型的な金生活者國家であるオランダとスイスとを除けば——どれもこれも、大戰後の時期にすでに一度非常に強度のインフレーションを通過した國々である! ドイツ、ポーランド、ハンガリー等々のブルジョアジが執拗に金平價を固守してゐるのは、勿論、これらの國々の資本主義經濟がアメリカ合衆國やイギリスのそれよりも確實な基礎を有し、ヨリ僅かしか恐慌によつて震撼されなかつたことを決して意味するものではなく、寧ろ正にその經濟の弱さのために、本位貨の減價が一度始まれば、それに何等の限界をもつけ得ないことを恐れてゐることを意味する。だが、戦後の時期に於けるやうな減價が起れば、小ブルジョアの貯蓄家を激怒させ、プロレタリアートの不滿を飛躍的に高まらせることによつて、……成熟の危険な促進を持ち來すだらう……。

吾々の文獻に於ては、屢々本位貨の減價が多く單純化されて、外國市場争闘のための手段に過ぎないものとして、勞働者階級のヨリ以上の……手段に過ぎないものとして、ブルジョアジーにとつて有利な面だけを持つ現象に過ぎないものとして、説明されてゐる。これが間違ひで非辯證法的であることは言ふまでもない。本位貨の減價は、任意に適用された恐慌治療薬ではなく、寧ろ病氣の徴候であり、同時に恐慌の一層の深刻化の自生的な要因である。本位貨の減價は、最初にインフレーションを餘儀なくされた國々に、世界市場に於ける販路争奪戦についての一時的な利益を與へてゐる。だが、この利益は大多數の本位貨が減價するや否や消滅する。インフレーション諸國が外國にその商品を賣

捌く場合の價格が、金で現はすと低いといふことは、これらの國々が價值以下に賣つてゐることを意味し、個々のインフレーション利得者の致富と並んで國の貧困化を意味してゐる。ブルジョアジーの個々の層、就中巨額の負債を背負ひ込んでゐる農業者、大農及び工業家は、貸付資本を犠牲にしてインフレーションから利益を受けるのであるが、しかし一切の長期計算を不可能にする本位貨の動搖の危険を引き受けなければならぬ。インフレーションは労働者からの……を高め、大ブルジョアジーの利益になるやうに『貯蓄家』即ち何よりも先づ小市民層の財産……することを意味するのであるが、しかしこれは同時に階級對立の急速な尖鋭化、小市民層が……プロレタリアートの側に移行するといふ危険を意味する！

インフレーションはブルジョアジーが任意に適用した恐慌克服のための治療藥であるといふ見解に對しては、吾々は次のことを強調したい。

健全な正常に機能してゐる資本主義は、安定した金本位貨を要求する。インフレーションが大多數の國々を捉へ、本位貨の減價過程が現在の不景氣局面に於てもまだ止んでゐないといふ事實は、恐慌が世界資本主義に與へた深刻な荒廢を證明するものである。本位貨の混亂が生じてゐることは、現在の不景氣の特殊性の一つの要素である。

殆んど一般的な金本位制放棄にも拘はらず、恐慌中に起つた金分配の著るしい變動は決して制限されなかつた。次の表は金争奪戰の結果を示してゐる。

中央銀行及び政府の金保有高(單位百萬金弗)(28)

	合衆國	ヨーロッパ	イギリス	フランス	ドイツ	アジア	ラテン アメリカ
一九二九年七月……………	三、九七四	四、五二一	六、八八	一、四六三	五二二	七、三八	八〇一
一九三三年七月……………	四、〇〇九	六、九三三	九、二五	三、三三三	五、六	四、八一	三、六七

(28) 『聯邦準備局報告』。

この表は次のやうな最も重要な事柄をはつきりと示してゐる。

- (a) 恐慌中に新たに生産された金はヨーロッパによつて餘すところなく消化された。
- (b) 債務國(ラテン・アメリカ、アジア、ドイツ等々)はその金保有高の大部分を投げ出さなければならなかつた。
- (c) 世界金保有高の巨大な部分をたくし込んだのは、ヨーロッパではフランスであつた。

一〇 信用體制及び資本輸出の崩壊

恐慌と強度の物價下落の結果、債務の負擔が堪え難くなつたので——インフレーションと並んで——信用體制が崩壊するに至つた。しかも、次のやうな種々な形態をとつて——

—多くの國々、特に本位貨の金平價が形式的にか實質的にか固守されてゐる國々では、國家の干涉——

—強制賣却の禁止、利率の切下げ——によつて債務の負擔が軽減されると共に、他方では、貯金の保證や破産した銀行の整理とそれの半官的施設への轉化やのために、益々もつて國家信用が私的資本主義的信用に取つて代るに至つた。その結果として信用の總額が驚くほど收縮した。短期負債は、全資本主義世界を取つて見ると、一九三一年の五百七十億マルクから一九三三年末の二百五十億マルクに減退した（聯邦信用會社の見積り）。

國際債務の支拂は金の缺乏の結果か、または外國貿易の輸出超過が不充分である結果、不可能となり、廣汎に停止されざるを得なかつた。賠償金と戦債とはもはや支拂はれてゐない！非常に多くの國々が、外債に對して完全なモラトリウムかまたは部分的なモラトリウムを布いた（29）。民間の債務に對してはモラトリウムを宣言した國が多い。例へば、ドイツ（短期の債務及び借款の引上げ休止協定）、オーストリア、ハンガリー、一聯の南アメリカ諸國がこれである。

(29) 中南米諸國の殆んど全部、バルカン諸國及び中部ヨーロッパ諸國（ドイツ、ハンガリー、オーストリア）。この一般的な外債支拂停止の當然の結果として、急性の信用恐慌が克服され、帝國主義諸國で輸出の目的をもつて資本を運用することができるやうになつた後でも、資本輸出が殆んど完全に杜絶してゐる。

外國のための資本發行額 (30)

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
合衆國(單位百萬弗).....	一、三五	七三	一、〇一〇	二五五	七	一〇六
イギリス(單位百萬磅)						
植民地.....	二九	一五	二七	七	二	三〇
外國.....	八六	五四	七〇	九	〇・三	八

(30) 『國際聯盟統計年鑑』一九三二—三三年及び一九三三—三四年。

資本が多く外國に輸出されるのは、外交政策上及び戦争準備上必要な場合だけである（自治領及びアルゼンチンに對するイギリスの借款、軍備充實を目的とするルーマニアに對するフランスの借款、

蒋介石政府に對するアメリカの借款)。このやうに、帝國主義の基礎の一つをなしてゐる『正常な』資本輸出が杜絶してゐることは、恐慌中の全資本主義の震撼がいかに深刻であるかを物語つてゐる。資本輸出の杜絶は現在の不景氣の特殊性の最重要な要素の一つである。だが、このことは投資戦が止んだことを意味するものではない。一九三四年四月、日本が他の諸國の對支投資に抗議を申込んだことが最もよくこのことを示してゐる。

信用體制の崩壊は次のやうな特殊の事實にも現はれてゐる。即ち、短期貸付資本の途方もない過剰と同時に、長期投資を目的とする資本が缺乏し、社債及び株式の發行が最小限度に低下してゐるといふことがこれである(31)。フランス銀行は二百五十億フランに達する無利子の預金を抱へてゐるし、アメリカ政府は短期の國庫證券を年〇・一二%の利子で賣出すことができた。資本の確實性についての關心、一般的な政治上及び經濟上の不安に際して資本を長期に亘つて固定させることに對する恐怖の方が、價值増殖の良否に對する關心よりも強いのである。潜在的資本であるといふ資本主義を特徴づける貨幣の屬性が、自らを貫徹させることが益々困難となつてゐる。

(31) 借換を除いた資本發行(單位百萬)

	合衆國	イギリス	フランス	ドイツ	イタリヤ	日本
一九二九年	一〇、一八三	二五四	一九、四五	二、六四	七、二八〇	二、六六二
一九三二年	一、八六三	一一三	一四、四三三	九三二	三、六四七	三、八二八
一九三三年	九六六	一一三	一〇、四三九	—	三、三四四	六、六二七

減退は一般的であるし、イギリスを除けば一九三三年にもなほ續いてゐる。發展は極めて不均等である。アメリカ合衆國では十分ノ一に減退したのに、フランス及びイギリスでは半分に減退したに過ぎない。日本は戰爭景氣の結果三倍になつてゐる(計數は『國際聯盟統計年鑑』一九三三—三四年、二二六頁より)。

一一 外國貿易の萎縮

一切の循環性恐慌は外國貿易の萎縮を持ち來すものである。だが、今度の恐慌ではそれが特に甚だしかつた。この原因は次の通りである。

(a) 販路爭奪戰の結果、總じて自國內で生産可能な商品はすべて、關稅や輸入禁止による保護の下に自國內で生産されるやうになつた。工業、農業を問はずさうである(32)。

(32) その結果次のやうな極めて狂氣じみたことが起つた。巨額の砂糖が世界中に横はつてゐるにも拘はらず、

- イギリスでは甜菜栽培に補助金を與へ、ドイツでは油種子の生産に補助金を與へてゐる等々。
- (b) 戦争準備がこの方向に作用してゐる。
 - (c) 多くの國々に於ける對外支拂手段の缺乏が、輸入の減退を餘儀なくしてゐる。
 - (d) 資本輸出の殆んど完全な杜絶。

世界貿易(單位十億舊金弗)(33)

	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
輸 入	三三・七	三三・六	二九・八	二〇・八	一四・〇	一一・五	一一・七
輸 出	三三・八	三三・〇	二六・五	一八・九	一二・九	一一・七	

(33) 輸出と輸入との間の開きは、運賃、利子、及び輸出國と輸入國との間の價格の開きの所爲である。國際聯盟統計からの計數。

世界貿易はほとゞ三分ノ一に萎縮した。そのうちざつと見積つて半分は價格下落によるものであり、半分は數量の減少によるものである。價額について見れば、減退は一九三三年及び一九三四年にもまだ續いてゐた。

外國貿易の減退が不均等に起つてゐることは言ふまでもない。二三の國々、例へば日本は、恐慌の間に世界貿易に對する自國の參加の割合を加 させることができた。ドイツ及び合衆國の參加の割合は減少した。

外國貿易の萎縮は——上に示した通り——多くの場合インフレーションの原因となつた。反對に、ほんたうのまたは名目上の金本位制を有する諸國に於ける本位貨擁護は、外國貿易の一層甚だしい萎縮を招來した。國際商品貿易の全機構が形を歪められてゐる。商品はや最も廉價に生産され得る國々からその生産が最も高くつく國々へ輸出されるのではない。外國貿易はますます二つの國家間の『純平衡』Netto-Balance の原則によつて規制されるに至つてゐる。言ひ換へると、どの國家も、金または爲替で決済しなければならぬやうな差額を残さないために、他國からはその國が自國から買入れるだけしか買はないのである。一種の國家相互間の『物々交換』が發展してゐる。合衆國はその小麦をブラジルの珈琲と交換してゐる。ハンガリーはその小麦をオーストリアの木材と、日本はその綿製品を印度の棉花と交換してゐる、等々。上向産業資本主義の時代の特徴だつた自由貿易は、もはや何らその痕跡を止めてゐない。

かうした基礎の上で發展してゐるのが『アウタルキイ』のイデオロギイである。外國貿易の萎縮、世界經濟的分業の廢止傾向は、勞働の生産性の低下を意味し、ますます甚だしくなる資本主義の『ク』

plus の徴候である。

第三章 世界農業恐慌

工業恐慌は大戦の終り以來すつと續いてゐる慢性的な農業恐慌と纏れ合つて進行した。その結果工業恐慌は深刻化され長引かされ、農業恐慌は尖鋭化され全般化された。世界中のすべての國及びすべての農業部門——穀物耕作、牧畜、酪業、原料生産——が、最も尖鋭な形態の農業恐慌の襲ふところとなつた。その社會的及び政治的結果は非常に大きい。即ち全ブルジョア世界の農民が動き出したのである。廣汎な農民大衆に對するブルジョアジの傳統的なヘゲモニーは曾つては當然のこととされてゐた——このヘゲモニーの助けを借りてブルジョアジは一般にプロレタリアートの……な運動を敗北させ得たのであつた——が、今やこのヘゲモニーが危殆に瀕してゐる。ブルジョアジは廣汎な農民大衆を一時……な道から外らせるために、複雑な且つ危険な駈引きに頼らざるを得ない立場にある。農業恐慌は諸……のために農村に於ける被搾取大衆に近づく道を開いてくれたのである。この章では、農業恐慌を何よりも先づ經濟的に分析することにする。社會的及び政治的結果についてはもつと後で取扱ふ。

農業恐慌の根本原因は、循環性工業恐慌の根本原因と全く同じである。即ち、社會的生産と私的領有及びそれに基づく大衆の貧困及び消費制限との間の矛盾がこれである。この意味に於ては、農業恐慌は——レーニンが言つたやうに——『資本主義的な恐慌』である。更らに外面に現はれる現象形態もまた全く同じである。即ち、兩者とも強度の價格下落と生産者の大衆的破産とを伴ふところの過剰生産恐慌である(1)。

(1) 農業に於ける販賣高

	合衆國 (單位百萬弗)	ドイツ (單位十億マルク)
一九二九年.....	二、九二八	一〇・二
一九三〇年.....	一、四一三	六・五
一九三一年.....	一、四一三	六・五
一九三二年.....	一、四一三	六・五
一九三三年.....	一、四一三	六・五

(農業年鑑、一九三三年。景氣研究四半年誌、第九年度第一冊A部二五頁)。

だが重要な差違もまた存在する。資本主義に於ける工業恐慌は八年乃至十二年の間隔を置いて周期的に繰返されるのであるが、農業恐慌にはこのやうな周期性はない。資本主義の歴史は、一般的な持

續的な農業恐慌としては、一八七三—一九五年のヨーロッパ農業恐慌と現在の世界農業恐慌との二つを知るのみである(以前の諸農業恐慌は——ナポレオン戦争後のイギリス農業恐慌のやうに——局部的な性質のものだつた。鐵道の敷設以前には農業生産物については世界市場が存在せず、運輸手段の未發達のために制限された個々の市場しか存在してゐなかつたのである)。つまり次のやうな問題が説明を要するのである。

- (a) なぜ農業には工業のやうに規則的に回歸する恐慌が存在しないのか？
 - (b) なぜ農業恐慌は多くの工業循環よりも長続きするのか？
 - (c) 農業恐慌と工業恐慌との間にはいかなる關係があるか？
 - (d) 現在の農業恐慌と十九世紀の農業恐慌との差違は何か？
- 吾々は、できるだけ簡單にこれらの疑問に解答を與へてみたいと思ふ。

(a) 規則的な周期を以つて回歸する農業恐慌が存在しなかつた理由は、農業に於ては單純商品生産及び自己の需要のための生産が支配的であつたからである。資本主義的生産様式はすでに一世紀以上も前から支配的な生産様式であり、農民的生産者は資本に従屬させられまた種々様々な様式で資本によつて搾取されてゐたのであり、資本主義的に最も進んだ國々(イギリス)では農業はすでにすつ

と以前から廣汎に資本主義的な借地農によつて經營されてゐたのであるが、しかもなほ今日に至るまで、市場に齎らされる農業生産物の壓倒的の大部分は依然として資本家によつて生産されたものではなくて農民によつて生産されたものである。農民的農業は、世界的に今日に至るまで資本主義的に經營される農業よりも優勢なのである。そのほかになほ農業一般の進歩が遅れてゐるといふ事情がある。即ち、資本の有機的組成が低いこと及び固定資本——マルクスが言つてゐるやうにこれが恐慌の『物質的基礎』なのである——の演ずる役割が資本主義的に經營される農業に於てさへも比較的小さいことがこれである。もしも農業が工業と同じ程度に資本主義的に經營され、農業に於ける固定資本の役割が工業と同じくらゐに大きく、地代の進歩阻止的な作用がなかつたならば、疑ひもなく農業生産もまた工業と全く同様な循環性の進行を示すであらう。

(b) 農業恐慌が多くの工業循環に亘つて持續するといふ事實は、これまた、何よりも先づ、農業に於ける資本主義の發達が微弱であるといふ事情に基づいてゐる。農業生産の特殊な諸條件は、恐慌が勃發した場合に工業のやうに生産を制限し得ないといふ事情を伴ふ。恐慌は、飛躍的な生産減退といふ形態をとらないで、生産は縮小されずに、大量の販賣不可能な滞貨の山積といふ形態をとるのである(2)。

(2) 國際聯盟の食料品(穀物、肉類、葡萄酒、珈琲、茶、カ、オ等々)の世界生産指數は、次のやうな發展を示してゐる(一九二五—一九二九年=一〇〇)。

一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
九六	九七	九七	一〇三
一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
一〇三	一〇五	一〇一	一〇三
一九三三年			一〇一

これで見ると、過去四年間の強度の價格崩落も世界の食料品の生産數量を全然減少させなかつたといふことがわかる。繊維及び彈性ゴムの生産もまた減少しなかつた。二三の國々、就中ヨーロッパの輸入諸國は自國の農業生産を増加させたし、輸出諸國(合衆國、カナダ)はかなり強度に減少させた。勿論その時々々の收穫の良不良もまた大きな役割を演ずる。

この現象の原因は次の通りである。資本主義的に經營される農業大經營の生産費は同一の自然條件の下に生産する農民的經營の生産費にくらべて遙かに低いから、かうした大經營は恐慌のなかでもなほ久しい間利潤を擧げつゝ生産を續けることができる。ところが農民的生産者はどうかといへば、彼等は農業の退化のために生産減退が望まざるに起るに至るまでは舊來の規模で生産を續けざるを得ないのである。農業生産の特殊性は、生産の大いさに應じては變化しない固定費用の割合が工業にくら

べて遙かに大きいといふ點にある(3)。

(3) この固定費用が収入の減少につれてどんなにその比重を増して行くかといふことは、合衆國についての次の官廳計數がこれを示してゐる(單位百萬弗)。

	總收入	利子	その百分率	租税	その百分率
一九二九年	一一、九三三	五五四	四・七	七七七	六・五
一九三二年	五、一四三	五〇	一・〇〇	六一〇	一一・〇

借地料や土地抵當利子の形態をとる地代、建物及び機械の利拂及び銷却費、役畜の飼料及び消耗、租税、恒常的に雇はれてゐる労働者の賃銀、これらは全部合はせると個別的生産費の少くとも七〇%に達するのであるが、作付面積が縮小されてもこれらの費用は殆んど變化しない。従つて農業に於ける經營の縮小乃至休止は、工業にくらべて遙かに莫大な損失を伴ふのである。そのほかになほ、農民にとつては家屋敷を終局的に放棄せず自己及び自己の家族の労働力の使ひ道を自己の經營の外で求めることは非常に困難だといふ事情がある。だから農民は最小限の賃銀しか打出し得ない場合でさえも生産を続けるのである。農業生産者をして自發的に生産制限を行はしめようとする試みは、從來ごとくこの事情に當面して失敗に終つたのである。更らにまた次のやうな事情もある。農業生産物の

の價格は收穫の良不良に應じて騰落する。一時的な價格騰貴が好轉への期待を呼び起し、生産者をして一層長く經營に執着させることになる。これらの事情が、農業恐慌の長期に亘る持續の最も重要な原因である。

(c) 農業恐慌と工業恐慌とはその動態を異にするとはいへ、工業と農業とは絶えず交互作用の下にある。各々の工業恐慌は、工業用原料の需要が減退し、労働者階級の所得減少の結果、食料品、殊に良質の食料品(肉類、牛乳、バター、卵)の需要が減退し、従つて價格もまた下落するので、農業の狀態を悪化させる。だがこれはまだ農業恐慌を意味しない。他方、工業循環の進行狀態は、農業人口の工業生産物に對する購買力を激減させる農業恐慌の影響を受けて變化する。工業恐慌は農業恐慌の影響を受けて深刻化され長引かされ、繁榮局面は短縮され微弱化される(4)。

(4) コンドラティエフの誤れる『長期循環』の理論は、十九世紀の大農業恐慌が工業に及ぼした作用に基づいてゐる。トロツキーもまたこの理論を著るしく受け容れてゐる。

(d) 經濟的にも政治的にも最も重要な問題は、現在の農業恐慌と十九世紀の大農業恐慌との性質上の差違である。だがこの問題に答へる前に、吾々は地代が農業恐慌のなかで演ずる重要な役割を簡單に述べておかねばならない。吾々は讀者がマルクスの地代理論を知つてゐるものと前提し、問題を

農業恐慌のなかでの地代の役割だけに限定したいと思ふ。

六

地代は、農業に於て獲得された剰剰価値のうち、土地の私有に基づいて平均利潤率の形成に参加せず土地所有者によつて地代として取り去られる〔當該剰剰価値の〕分岐部分である。それがための可能性は、農業に於ける資本の有機的組成が社會的總資本の平均よりも低いといふ事實のうちにある。〔但し〕農業に投下された資本（資本主義的借地農の資本）は平均利潤率を擧げるといふこと、土地所有者は借地農が獲得する剰剰価値のうち借地農の利潤が彼の資本に歸する平均利潤を超過する部分だけしか取得しないといふことが理論的に前提されてゐる。

だが土地所有者は——收穫の結果及び價格状態に應じて變化するところの——經濟的地代を收得するのではない。地代の額は毎年毎年後から決定されるのではなくて、借地契約に於てまた土地購入に際して(5)それ以前の數年間の結果を土臺にして將來に亘つて固定されるのである。借地契約が締結されまたは土地が信用で購入されて相當の抵當に入れられるならば、借地農または〔負債で土地を購入した〕土地所有者にとつて地代は將來に亘る固定した負擔を意味するものであつて、社會的生產費の一要素ではないが彼の個別的生產費の一要素をなすのである。農業生産物の價格が生産費に變化がないのに下落するならば、借地農または負債を負つた土地所有者は過度に高く決定された借地料または

は抵當利子を支拂ふことができない。彼は破滅してしまふ。しかるに彼が（借地料または抵當利子の形態での）地代を全然拂はなくてもよい場合または過度に高く固定された地代を拂はなくてもよい場合には、彼の本來の生産費は彼のためになほ平均利潤を生ずる筈なのである。

(5) 土地價格は——土地の開墾及び改良に費やされた金額を問題外に置けば——その時々、の利率で資本換算された地代にほかならない。

これが農業恐慌のなかで地代が演ずる特殊の役割である。恐慌のなかで農業生産者に最もひどい打撃を與へるのは、（農業にとつて恒常的な負擔をなしてゐるところの）地代の存在一般ではなくて、地代が過度に高い水準に固定されてゐるといふ事實である。

このことから農業恐慌の長期に亘る持續が生ずる。なぜかといふと、従前の高價格に基づいて固定された地代が下落した價格に相當する水準まで引下げられる過程は、長い、且つ農業生産者にとつては大衆的破滅を伴ふ過程だからである。（貧しい借地農が支拂はねばならない高利地代については恐慌の社會的結果についての章で論ずる）。

さてこれから二大農業恐慌の差違の問題に立ち返へる。

エンゲルスは十九世紀の農業恐慌について次のやうな特徴づけを與へてゐる(6)。

「だが何ものも死滅を免れない。大洋を横断する汽船や南北アメリカ及び印度の諸鐵道は、全然特殊な地帯をヨーロッパの穀物市場に於ける競争者たる地位に加はらしめた。即ち、一方には北アメリカのプレーリーやアルジェンチンのパンパズがあつた。これらは自然そのものによつて耕作に適するやうに開墾された草原であり、原始的な耕作を以つてしまた肥料を施さなくてさへも數年に亘つて豊富な收穫を齎らす處地であつた。他方にはまたロシア及び印度の共產體の土地があつた。これらの共產體は、國家の無慈悲な虐政が——屢々責苦に訴へてまで——誅求した租税に充てる貨幣を獲得するためにその生産物の一部、しかも不斷に増大するところの一部を賣らねばならなかつた。これらの生産物はその生産費を顧慮することなく、商人が言ふまゝの價格で賣られた。なぜかといふと農民は納税期日にはせひとも貨幣を持つてゐなければならなかつたからである。そしてこの——草原處女地と租税の重壓の下に打ちひしがれたロシア及び印度の農民との——競争に當面しては、ヨーロッパの借地農及び農民は舊來の地代を拂つてゐては立ち行かなくなつた。ヨーロッパに於ける土地の一部は終決的に穀物耕作の競争圏外に驅逐されてしまひ、地代は到る處で減少した。……スコットランドからイタリーに至るまでのまた南フランスから東プロシアに至るまでの地主の苦悶はこゝに於ては詳述してゐる。幸ひにもまだ一切の草原地は開墾されなかつたといふ譯ではない。ヨーロッパの全大土地所有はもとより小土地所有までも破滅させるに充分な草原地がまだ殘されてゐるのである」。

(6) 『資本論』第三卷第二部二五九頁〔高島氏邦譯二六七頁〕の挿入文。これは明かに一八九〇年代の初めに書かれたものである(第三卷の序文は、周知の通り、一八九四年十月の日附になつてゐる)。

これで見ると次のことがわかる。十九世紀の農業恐慌は現在の農業恐慌のやうな世界的恐慌ではない、ヨーロッパ的恐慌であつた。南北アメリカやオーストラリアには農業恐慌は存在しなかつた。ロシア、印度等々には社會體制そのものゝ危機が存在してゐた。十九世紀の農業恐慌は現在のそれのやうな全般的な恐慌ではなくて、穀物生産の恐慌に過ぎなかつた(7)。牧畜や工業用栽培品はこの恐慌の襲ふところとならなかつた。それは資本主義體制の内部に於ける一恐慌であつた。しかるに現在の農業恐慌は資本主義そのもののアルゲマイネ・クリーゼの一構成分子である。

(7) この事實を最もよく證明してゐるのは、十九世紀の農業恐慌當時のイギリス市場に於ける價格状態である(この時期についてはイギリス市場を世界市場と考へて毫も誤りはないのである)。

ロンドンに於ける卸賣物價(ヤ)

穀物

牧畜生産物

	小麥	燕麥	玉蜀黍	牛肉	豚肉
	イギリス・ガゼット	イギリス・ガゼット	アメリカ産	最上品	平均
年平均	一一二封度	一一二封度	四八〇封度	八封度	八封度
一八五二—一八七五年	三志五片	八志八片	三志	四志三片	四志二片
一八七六—一八八二年	〇志一片	八志五片	三志	四志二片	四志五片
一八八三—一九〇〇年	七志一片	六志六片	三志	四志八片	三志六片

(a) ゼーリンク『國際物價運動と熱帯以外の諸國に於ける農業の狀態』ベルリン、一九二九年からの計數。

『ヨーロッパの全大土地所有はもとより小土地所有までも破滅させるに』充分な草原地がまだ存在してゐるといふエンゲルスの期待は満されなかつた。農業恐慌は資本主義の枠のなかで克服された。だが決定的に重要なことは、十九世紀のヨーロッパ農業恐慌の克服の仕方は現在の農業恐慌については問題にならないといふことである。

この前のヨーロッパ農業恐慌はいかにして克服されたか？
吾々は次のやうな諸方法を區別することができる。

(a) 農業の重點が穀物耕作から、安價な飼料の輸入(スキャンディナヴィア、オランダ、ベルギー、西ドイツ)及び耕地の牧草地への轉化(イギリス)と結びついた牧畜に移された。

(b) 合理化によつて生産費の強度の切下げが達成された。黒土休耕地の緑草休耕地への轉化、ヨリ優れた輪耕順序の採用、ヨリ一層の深耕(鐵鋤)、ヨリ優秀な機械の採用、人造肥料の使用、種子の改良——これらがその主要な方法であつた。かうした合理化に必要な資金を持つてゐなかつた中農の大部分が破滅したに反して、資本主義的大經營及び富農は一、ハクター當りの收穫高が増加するので生産費を切下げることができ、かうして穀物價格の下落した時期を切抜けることができたのである。

(c) 工業によつて供給される生産手段の價格低落の結果、生産費が低下した。當時はまだ労働の生産性の進歩が消費者に有利な結果を與へたところの自由競争の時代であつたのである(8)。

(8) イギリスのサウアーベック指數は農業恐慌當時次のやうな發展を示してゐる。

一八七二—七五年	一八九一—九五五年
礦物原料..... 一五	六八
纖維..... 一〇〇	五

鉄狀價格差は耕作生産物に對して存在してゐただけで、牧畜生産物に對しては存在してゐなかつた。

(d) 輸入に依存してゐた大陸ヨーロッパの諸國——フランス、イタリー、ドイツ——では、穀物價格は保護關稅の設定によつて人為的に釣上げられた。

(e) 最後に、地代の高さが地主の強力な反對を受けつゝも長い過程のうちに新たな價格水準に順應するに至り、そして農業恐慌は克服されたのであつた。

十九世紀の農業恐慌克服の方途は——最後に擧げたものを除けば——現在の農業恐慌に對してはこれを回避できない。なぜかといふと、これらは上向しつゝある資本主義に於てのみ効果を擧げ得るに止まるからである。これらの方途は、ヨーロッパの工業人口(都市人口)の急速な増加及び植民地搾取の飛躍的擴張を土臺とする牧畜生産物の消費激増をその前提としてゐた。この植民地搾取の擴張は廣汎な金利生活者層を成立させ、ヨーロッパのブルジョアジーをして數的に増加する勞働貴族を維持して行くことを可能ならしめたのであつた。従つてヨーロッパ穀物經濟の恐慌は上向線に沿つて克服され得た。即ち、商品生産の増加及び栽培の専門化、擴張再生産、技術的進歩(ヨリ優秀な生産手段)、農業學的進歩(ヨリ優れた土地利用法)等々によつて克服され得たのである。十九世紀の大農業恐慌の終りには、ヨーロッパの農業は疑ひもなくこの恐慌の開始當時にくらべて一段高い水準に立つてゐた。この進歩が從來獨立を保つてゐた數百萬の農民のプロレタリア化によつて覆はれたのだといふことは、資本主義のなかでは自明のことである。だがこれらのプロレタリア化された農民は、一部分は當時強力に發展しつゝあつて數百萬の追加勞働力に職を與へたところのヨーロッパの工業に生活の道を見出し、一部分は海外の移民地に生活の道を見出したのであつた。

農業恐慌を上向線に沿つて克服する可能性は今日ではもう存在しない。

(a) 資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの時代には、牧畜生産物の消費擴張の可能性は存在しない。慢性的大衆失業、勞働貴族の數的減少及び地位の低下、資本主義的に最も進んだ諸國に於ける産業資本によつて就業させられてゐる勞働力の減少傾向、獨占資本主義に於ける都市小ブルジョア層の急速な窮乏化、インフレーションによる金利生活者の……——一言で言へば都市大衆の消費力の減退傾向がこれを不可能ならしめてゐるのである。

十九世紀に於ける工業の急速な擴張は、原料に對する需要を激増させ、工業用栽培品の作付を増加させた。現在では吾々はこれと反對の過程を見るのである。即ち、原料の價格が破局的に低いために(9) 作付面積の急速な縮小が起つた。

資本主義世界に於ける工業用栽培品の作付面積(10)(單位百萬ヘクター)

甜菜	一九二九—三〇年	一九三〇—三一年	一九三二—三三年
煙草	二・三三	一・九六	一・七七
棉	三・六二	三〇・八八	二九・三三
黄麻	一・三六	〇・七六	〇・八七
大麻	〇・四七	〇・三五	〇・二七

(9) 重要工業用原料の價格(百キログラム當り金フラン)

棉	花	黄	麻	ゴ	ム	生糸	大	麻	コ	プ	ラ	大	豆
ニユー	オル	リア	ンズ	ロ	ン	ド	ン	ニユー	ヨ	ーク	横濱	ロ	ン
ロ	ン	ド	ン	ニユー	ヨ	ーク	横濱	ロ	ン	ド	ン	ロ	ン
ロ	ン	ド	ン	ニユー	ヨ	ーク	横濱	ロ	ン	ド	ン	ロ	ン
一九二九年	二・四	七	二・四	五	一・八〇	六	元	一九二九年	二・四	七	二・四	五	一・八〇
一九三二年	六	七	三	三	七	七	三	一九三二年	六	七	三	三	七
一九三三年	七	六	五	六	九	〇	二	一九三三年	七	六	五	六	九

嗜好品——珈琲、茶、コ、ア——もまた同様な價格崩落を蒙つた。

(10) ローマ農業研究所年鑑、一九三二—三三年。

(b) 合理化による、ヨリ優秀な生産手段の採用等々による生産費の切下げは、技術的には現在で

もなほ可能であらう。だが未間に低廉な農村労働者の賃銀は、かうした合理化を私經濟的に不利益ならしめる。農業生産者の壓倒的多数はこれに必要な資本を缺いてゐる。信用體制の崩壊は借入金による必要な經營資金の調達を——少くとも差當つては——不可能ならしめてゐる。農業に侵入してきた資本が改良された技術(トラクター、コンバイン)によつて海外諸國の作付面積を擴張してゐるが、これは生産の増加を惹き起し價格を壓迫してゐる尨大な滞貨(11)の整理を一層困難ならしめて、農民の恐慌を尖鋭化してゐるのである。

(11) 農業生産物の在荷は一九三三年に至るまで増大しつゞけたが、さもなくとも殆んど減少せず依然尨大であつた。一九三四年に於ける北半球の破局的な凶作で初めて在荷の減少が起るだらうが、しかしこの減少は——凶作が繰返されない限り——一時的性質のものたるに止まる。

農業商品の世界在荷(各年四月)

米棉(千捆)	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
米棉	二、八七九	三、八七〇	七、〇〇〇	九、九三〇	一一、二七四	九、二三六
小麦(百萬ブッシェル)	四九七	五八	六〇〇	五八四	五三六	四八三
砂糖(千噸)	六、一九〇	六、一三五	八、四五三	九、〇九一	八、九〇三	八、〇四六

茶(百萬封度).....	二六〇	二二〇	二二二	二二二	二七六	二五二
珈琲(百萬袋).....	一五〇	一七五	一八一	一八〇	二〇九	—
彈性ゴム(千噸).....	二四五	四三六	五三七	六四六	六四六	六七三

〔ロンドン及びケンブリッジ經濟調査所〕四半期附録による計數。

(c) 農業生産手段の低廉化は、生産及び流通面に獨占が存在して價格を釣上げてゐるといふ障
碍につきあたる。農業者が自己の商品に對して受取る價格と自己の生産手段に對して支拂はねばなら
ない價格との間の缺狀價格差は、非常に大きく開いてゐる(12)。

(12) 農業及び工業の價格狀態についての計數

合衆國(一九〇九—一九四一)		ドイツ(一九一三—一九四一)			
農業生産物の價格	農業者の買ふ商品の價格	比率	農産原料	工業完成商品	比率
一九二九年.....	一三六	一五三	九二	—	—
一九三〇年.....	一三七	一四四	八二	—	—
一九三一年.....	一八〇	一三四	六五	一一一	一三三
一九三二年.....	一五七	一〇七	五三	九七	一一八
一九三三年.....	一六三	一〇九	五八	九三	一二三

(a) 資料は『アグリカルチュラ・シチエイション』一九三四年四月。
 (b) 資料は『景氣研究四半年誌』第九年度第二册B部。
 二三の少數のヨーロッパ諸國(フランス、スイス、スウェーデン)では、高率關稅、輸入禁止及び國定の最低價格によつて缺狀價格差の成立を妨げることができた。少くとも紙上ではさうなつてゐる。といふのは、貧しい農民が農村で受取る價格は取引所の相場にくらべると遙かに低いからである。

(d) 輸入諸國に於ける關稅等々による農業生産物價格の釣上げは、都市人口の消費力が小さいといふ障碍につきあたる。價格が釣上げられるとその影響を受けて生産は非常に急速に擴張され(これは一九三三年のドイツ及びフランスの實例がはつきり示してゐる)、そのために國內の生産で國內需要を充し得るに至り、關稅及び市場締め出し政策の効果がなくなるに至る。

(e) 變化した價格狀態への地代の順應は、現在の恐慌のなかでも、數百萬の農業生産者の大衆的破滅及び農業の退化と結びついて無統制的な仕方で行はれてゐる。この農業の退化といふことは、以前の農業恐慌の時には一般的な現象としては存在しなかつたのである。

農業の退化過程は、個々の國々で多種多様な形態をとつて現はれてゐる。即ち、人造肥料の使用減退、農業用機械及び道具の補填の不充分、家畜數の減少及びその質の低下、土地の耕作方法の低下、

收穫の減退、一般に農民經濟の零落及び衰頹がこれである。

農業の退化過程は、經濟的及び社會的に相異なる二つの過程を含んでゐる。

〔その一つは〕多かれ少なかれ自發的な資本主義的農業の粗放化、變化した價格關係への生産方法の適應である。例へば、ベンジンは高いのに燕麥は安くてしかも賣れないからといふのでトラクターを止めて馬鋤を使用するとか、價格が下落してゐるのに人造肥料を使用してゐては勘定に合はぬからといふので人造肥料の使用を減らすとか、貸銀が強度に激落したからといふので複雑な機械の使用を止めて(13)手工業に復歸するとかいふやうなのが即ちこれである。

(13) 農業用機械の使用減退

合衆國	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
農業用機械の國內販賣高の價額(百萬弗で)	—	四八	三二	一五	—	—
農業用機械の國內消費高(百萬マルクで)	—	二五	一五	一〇〇	—	—
ドイツ	—	—	—	—	—	—
オランダ	—	—	—	—	—	—

農業用機械の國內註文受高(一九二八年—一〇〇) 七五 二五 一〇 二〇 二〇
 農業用機械の輸入(一九二八年—一〇〇) 七五 二五 一〇 二〇 二〇
 (一九二八年—一〇〇) 七五 二五 一〇 二〇 二〇
 減退の大部分は勿論價格下落に歸すべきものであるが、しかし數量についての減退もまた非常に大きい。
 合衆國に於ける農業用機械の販賣數量(臺數)(a)

一九二一—一九二九年に於ける年當り最高數	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
トラクター	一六〇、六七	一九、六六	五三、二九	一四、六三	—	—
コンバイン	九三、六三	八、一七	三三、六五	五、二八〇	—	—
收穫物結縛機	—	—	—	—	—	—
打穀機	—	—	—	—	—	—

(a) 資料は『ファーム・インブルメント・ニュース』一九三三年六月二十二日。

これ以上新しい計數はない。だが農業用機械製作所の就業度が一九三一年の九三から一九三二年には三七、一九三三年には四二に低下したといふ事實は、販賣減退がその後も續いたことを示してゐる。カナダの西部農業地方に於ける機械販賣の減退はもつと甚だしい。その販賣數量は次の通り(臺數)(b)。

一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
打穀機	—	—	—	—	—
コンバイン	—	—	—	—	—
トラクター	—	—	—	—	—
一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
打穀機	—	—	—	—	—
コンバイン	—	—	—	—	—
トラクター	—	—	—	—	—

(b) 資料は『カナディアン・ファーム・インブルメント』一九三三年十二月。

「今一つの退化過程は」農民經濟の強制的な、一般的悪化である。これは農民の手許に残る収入が——農民家族が非常な個人的缺乏を忍んでゐるにも拘はらず——單純再生産を維持して行くにも足りない（斃死した家畜を補充し得ない、消耗した道具を更新し得ない等々）からである。農業内部に於ける分業の廢止、市場目當の生産の縮小、農民家計の自家需要目當の生産への復歸傾向が即ちこれである。

これで見ると、十九世紀には効果があつた農業恐慌克服方法は今日ではこれを行ひ得ないことがわかる！現在の農業恐慌は資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの一構成分子であつて、資本主義的社會秩序の枠のなかでは、解決の道がないのである（一九二四—二八年の數年間に於けるやうな一時的な緩和は勿論可能であり、蓋然的でさへある）。農業恐慌は、勤勞農民の未曾有の大衆的破滅、貧農及び農業勞働者の窮乏化及び勤勞農業人口の……大衆運動を招來した（14）。

（14）農業恐慌の人為的克服の試み及びその社會的及び政治的結果については、もつと後の諸章で論ずる。

従つて資本主義の枠のなかで考へ得られる唯一の一時的な農業恐慌の解決——すべての『無能力な』農民即ち貧農及び中農の破滅と土地からの驅逐、彼等の土地の資力ある分子の掌中への移行、『過剰な』土地の休耕及び工業カルテルの手法に倣つて『支拂能力ある』需要の減少に順應する生産制限——は、政治的な理由からブルジョアジーとしては行ひ得ないのである（15）。成熟しつゝある……の時代に於て、資本主義に對する……準備しつゝあるプロレタリアートを前にしては、ブルジョアジーは農業恐慌の解決を勤勞農民の大衆的破滅の意識的促進といふ道に沿つて強行する譯には行かない。そこで——勿論効果はないのだが——農業恐慌の他の解決策を見出さうとする試み、ブルジョアジーの實驗と駆引きとが行はれることになる。

（15）この種の解決策はアメリカ・ブルジョアジーの二三のイデオログによつて提案された。例へばE.S.ミード及びB.オストロレンク著『ハーヴェイ・バウム』フィラデルフィア、一九二八年、またはB.オストロレンク著『過剰な農民』ニューヨーク、一九三二年を見よ。だがローズヴェルトは——農民の暴動に恐れをなして——周知の通りこれとは反對の道をとつた。

第四章 植民地に於ける恐慌

恐慌は植民地に最もひどく打撃を與へた。これは植民地、被征服領域としてのその地位から生ずる當然の結果である。『ヨーロッパ資本主義は主としてその力をヨーロッパの工業諸國からよりはむしろその植民地領有から汲み出してゐる』と……：……大會の植民地テーゼは言つてゐる。帝國主義諸國の資本が恐慌の重荷の著大な部分を轉嫁するのは、どこよりも先づ植民地の上にある。だから植民地では恐慌が特に深刻であり破壊的であるのである。これについて最も重要なモメントは次のやうなものである。

(a) 植民地及び半植民地の壓倒的多数は農業國である。だから慢性的農業恐慌、及び工業恐慌の結果として起つたその深刻化は、植民地及び半植民地に全重壓を以つてのしかゝつてゐるのである。

(b) 帝國主義は植民地を著るしく本國の原料的附屬地と化してしまつた。多数の植民地及び半植民地は、その經濟生活が資本主義世界に於ける一種類(乃至二三種類)の商品の販賣の上に立てられてゐる。即ち、エチオピアは棉花、オーストラリアは羊毛及び小麦、インドシナは彈性ゴム、キューバは砂糖、ブラジルは珈琲等々の如きがそれである。これらの諸國の經濟的駆引き能力は異常に制限されてゐる。過剰生産は激甚な價格崩落を招來し(1)、これがこれらの諸國を破滅させてゐる。彼等は恐慌前にくらべて同一の金額に對して彼等の主要輸出品で二倍乃至六倍の數量のものを工業諸國に引渡さねばならない。その結果輸出超過はもはや外債の利子を支拂ふに足りない。彼等の國際收支差額は支拂超過となつた。従つて彼等はさなきだに僅少な自國の金保有を帝國主義的高利貸たちに引渡さざるを得なくなり(2)、なほ一層甚だしく彼等に從屬するに至つた。彼等はインフレーションに陥つた(3)。そしてそのために外國本位貨建で契約された彼等の債務の負擔は一層甚だしくなつた。

(1) 典型的植民地商品の價格下落の二三の例(ドツベルツェントナー當り金フランで)

米 (サイゴン一等品、ロンドン相場) ………………	三・七	一九二八年十二月	一九三二年十二月
蔗糖 (キューバ物、ニューヨーク相場) ………………	二四・五		
茶 (セイロン物、ロンドン相場)(封度) ………………	三・二		
珈琲 (ニューヨーク相場) ………………	二〇・五		

第四章 植民地に於ける恐慌

コブラ(ロンドン相場).....	六五・四	二七・六
大豆(ロンドン相場).....	三二・〇	一一・四
棉花(アレキサンドリア相場).....	四三	九
弾性ゴム(ニューヨーク相場).....	二〇・六	三七
黄麻(ロンドン相場).....	九〇	三五・五
生糸(ニューヨーク相場).....	五八・九	一六・六

(2) 二三の植民地及び半植民地諸國の金保有高(百萬單位)

アラジル	アルヂエンチン	メキシコ	蘭領印度
(ミルレイス)	(ペソ)	(ペソ)	
一九二八年末.....	一、二四三	六四二	一七〇
一九三二年末.....	二九(九三〇年)	二五	一〇

(3) 本位貨減價の度合に於ては植民地及び半植民地諸國は第一位である。一九三四年半ばには金に對する減價は百分率で次の通りだつた。メキシコは六七%、アルヂエンチンは六六%、コロンビアは六五%、ウルグアイは五四%、アラジルは五八%、ボリヱアは五八%、支那は(一九二九年の相場とくらべて)五二%等々。

印度の外國貿易(各年三月三十一日締切、單位百萬ルービー)

正味商品輸出超過.....	八六〇	七九〇	六二〇	三四八	三四
正味金流入.....	二二	一四	二五	一	一
正味金流出.....	一	一	一	五八〇	六八三

(4) 官廳計數(『スタテイスト』一九三三年十一月十一日、六七〇頁)。

(c) 一般に農業諸國の恐慌を尖鋭化してゐる缺狀價格差は、植民地には特に強い打撃を與へてゐる。

物價指數(一九一三年=一〇〇)

合衆國	ドイツ	イギリス	印度	棉花	黄麻	茶	蔗	糖
工業完成商品	銑鐵	石炭	(ロンドン相場)	(ロンドン相場)	(ロンドン相場)	(ニューヨーク相場)	(ニューヨーク相場)	
一九二九年.....	一三六	一五七	一三三	二二	一四	一〇一	二二	七一
一九三〇年.....	一三七	一五〇	二二六	二〇	七四	六九	二二	五三
一九三一年.....	一一二	一八六	二〇	二四	五九	五五	七四	四八

第四章 植民地に於ける恐慌

だがこれらの数字は、恐慌のなかで甚だしくなつた植民地と帝國主義諸國との間の非等價交換の激化の正しい様相を全然示してはゐない。なぜかといふと、これらの数字が示してゐるのは、取引所に於ける價格形成、即ち、ヨーロッパの資本主義的な植民地商品仕入人が受取る價格だからである。植民地の農民が受取る價格は、もつともつとひどく下落した。ユニリーヴァーのやうな國際的大獨占は——著るしい供給過剰に乗じて——その買付人が植民地の商品に支拂ふ價格を一方的に決定するのである。

『資本主義は、……植民地及び經濟的に弱い國々の農民……にして、彼等の労働の生産物、主として原料及びこれに次いで食料品の價格をなほ一層ひどく下落させることによつて、工業の情勢をいくらか緩和することができた』（スターリン、……〔ボルシェヴィキ〕第十七回：大會に於ける報告）。

(d) 植民地及び半植民諸國の大多數は、銀本位制であるか乃至は——對外的には形式的な金本位制をとりながらも——銀が（屢々支那に於けるやうに銅もまた）國內に於ける流通及び支拂手段をなしてゐる。恐慌の間に起つた銀の激甚な價格下落は、帝國主義諸國をしてこれらの諸國から原料を

特別に低い價格で手に入れることを可能ならしめた。

これらの要因の結果は植民地農民の飛躍的な貧困化、即ち地主の掌中への土地移行の促進(5)、土地飢饉の激化、農村の『過剰人口』の増大である。この『過剰人口』は、この國自身に於ける資本主義的工業の發展の結果としてまた外國の競争によつて破滅させられた都市の手工業者や工業恐慌の結果として遊離させられた労働者の農業への復歸の促進によつて、一層甚だしくなるのである(6)。

(5) その一例として朝鮮を擧げることができる。一九二八年から一九三二年までの間に作付面積に對する地主の土地の割合は五四・一%から五六・四%に増加した。土地を持たない小作人の數は一九二六年の百十九萬一千人から一九三一年には百三十九萬三千四百二十四人に増加した(數字はミフの『植民地の解放闘争に於けるプロレタリアートのヘゲモニー』による)。

(6) 數十年來人口調査が定期的に行はれてゐる印度では、農村人口の割合は帝國主義諸國とは反對に絶えず増加してゐる。支那でも明かに同様な増加が起つてゐる。だが支那には人口調査が全然ない。

貧困化は幾重にも重なつた農民……によつて更らに甚だしからしめられる。封建的地主、農村高利貸、國內及び帝國主義的ブルジョアジーは、多種多様な様式で植民地農民を……ける。

『この場合、生産者がその生産物の貨幣價格に依存してゐるといふ資本主義的生產様式の不利益が

資本主義的生産様式の不十分な發展から生じてくる不利益と重なるのである』(7)。

(7) 『資本論』第三卷、第二部、三四六頁(高島氏邦譯、三五〇頁)。

マルクスが與へた植民地經濟のこの一般的特徴づけは、恐慌の時期には一層よくあてはまる。慢性的飢餓と周期的に繰返される飢饉とは、現在數億の植民地大衆の運命となつてゐる。奴隸制が擴大する。兩親が自分の娘を奴隸として賣るなどといふことは日常の現象である(8)。

(8) 『シアンフーの郊外及びシエンヤンホーの河岸(陝西省)では「入市」が設けられ、そこでは十歳未満

の少女は一人當り二弗乃至三弗で賣られてゐる。十歳以上の少女の價格は五弗である』(『サウス・チャイナ・

モーニング・ポスト』一九三二年十一月二十二日)。

農業の退化は植民地では殊に甚だしい。幾多の方面からの農民……は彼等の苦しい勞働の結晶のうちから非常に多くを……るので、農民は單純再生産をさへも續けて行くことができない。農民は、支那の人口稠密な地方に於ける集約的な土地耕作に缺くべからざる都市の肥料を必要な分量だけ調達することができない。家畜頭数は減少し、その質は低下しつゝある。支那の多くの地方では、支那農業の基礎になつてゐる灌漑組織が瓦解しつゝある。國民黨治下の支那では、阿片を獲るための罌粟の栽培が擴張されつゝある一方に、米及び小麦の輸入が増加しつゝある。單一栽培諸國では専門化が放棄され、自家需要のための生産への復歸が行はれてゐる。

恐慌の間に起つた植民地人口のかうした一般的貧困化は、植民地及び半植民地に於ける消費手段工業の發展過程を色々な點で變化させた。輕工業の擴張過程は恐慌のなかでも疑ひもなく續けられた。市場の消化力の量的縮小は、地方工業にとつては次のやうな事情によつて埋め合はされた。人民の貧困化の結果として需要は植民地(及び日本)工業が製造するやうな品質の劣つた最も廉價な商品種類を悦ぶやうになつたといふ事情が即ちこれである。

それと同時に、植民地及び半植民地諸國の本位貨の甚だしい減價、殊に銀の減價が、外國商品の競争を防ぐ武器としての作用をした。すでに一九三一年の中國銀行の年次報告のなかには、次のやうに述べられてゐる。

『最近三年間支那工業は、銀相場の下落によつて國內工業の商品價格が輸入商品價格にくらべて安い結果、好轉の徴候を示してゐる……』(9)。

(9) 上海に於ける銀で示した輸入工業商品の指數は次の通り(一九二六年=100)。

一九二九年 一九三一年 一九三三年

110

125

153

第四章 植民地に於ける恐慌

このモメントの影響で、多くの植民地及び半植民地に於て國內生産の増加及び工業商品輸入の激減が認められる。次の計数は支那についてこのことを示してゐる(10)。この場合關稅引上げもまたある役割を演じてゐる。

無数の新企業——莫大小、ゴム製品、石鹼、帽子、エナメル製品、紙、インキ、鉛筆から、電球、ラヂオ器具、最も簡単な機械類、セメント、煉瓦等々までも工場——が恐慌の間に就中上海及び香港地方に簇生した。(他方、銀の減價は外國機械の輸入を制限した。そしてそのために工業——特に支那人所有の工業の發展が困難ならしめられた)。

(10) 計数は同志ガンベルグの論文『恐慌のなかでの支那工業の狀態』から借りた。

年	木綿織布工業		煙草		マツチ	
	織機數	綿布生産 (千反)	綿製品輸入 (百萬ヤード)	生産 (千箱)	輸入 (千箱)	輸出 (千箱)
一九二九年	三三、八八	一四、六五	八八	七五〇	六〇〇	八、四四
一九三三年	三九、五四	二〇、二六	三七二	一、二二三	八〇〇	七三
				(滿洲を含む)	(滿洲を含まず)	(滿洲を含まず)

その他の植民地及び半植民地に於ても、同様の現象を看取することができる(恐慌の間に行はれた印度内地に於ける無数の織機工場の新設、ブラジルやチリに於ける織機工業、靴工業等々の發展)。

だがこの發展を評價するに當つては次のことが強調されねばならない。

- 一、輸出向の半製品を製造する工業部門——生糸、茶、搾油業等々——では恐慌が非常に深刻である。
- 二、輕工業方面での生産増加及び企業數の増加は、その著大な部分が外國資本による工場建設によるものであつて、これがために帝國主義への從屬性が一層強められてゐる。
- 三、輕工業の發展(その範圍は限られてはゐるが)は、資本が——労働者側の強力な反對にも拘はらず——遂行した植民地プロレタリアートの……率の著るしい引上げ、即ち賃銀の切下げ、労働時間の延長、労働の強度性の増進によつて得られたものである。手工業の破滅及び農業恐慌や地主、帝國主義者、國內ブルジョア及び高利貸による幾重にも重なつた……やの打撃の下にますますひどくなる勤勞農民……は、工業労働市場にますます新たな労働力を投げ出すことになり、資本の攻撃に對する植民地プロレタリアート——その壓倒的多數は農村から直接に引き出された婦人と子供とから成つてゐる——の屢々……な闘争を困難ならしめるのである。

第五章 効果なき人爲的な恐慌克服の試み

過去五年の間にブルジョアジーは無数の人爲的な恐慌克服の試みをやつた。これらの試みは當然の結果として無効果であつた。資本主義のアルゲマイネ・クリーゼも循環性過剰生産恐慌もいづれも、マルクスが屢々言つてゐる通り、資本主義の『自然法則』の結果である。資本主義のアルゲマイネ・クリーゼは、歴史的に經過的な社會形態としての資本主義的社會秩序が現在その不均等に進行してゐる……崩壊の時代を經過しつゝあるといふ事實の表現に過ぎない。いかなる人爲的諸方策もこの事實を毫も變改し得るものではない。

循環性過剰生産恐慌は、資本主義の一切の諸矛盾の強力的な爆發を意味するが、だがまたこの爆發によるこれらの諸矛盾の一時的な解決をも意味するのである。恐慌を緩和し乃至は恐慌の終熄を促進しようとする試みは、究局に於て恐慌の繼續を長引かす結果になつた。

循環性過剰生産恐慌はいかにして克服されるか？
その最も重要なモメントは次の通りである。

生産は消費が生産を超過するに至るほどにひどく縮小される(1)。

(1) この場合、生産がそんなにひどく縮小されるとしたらどこから消費力が生ずるかといふ疑問が現はれるかも知れない。その答は困難ではない。アルジョアジーや金利生活者階級や官吏や大部分の使用人は恐慌のなかでも殆んど前と同じ高さで彼等の消費を續ける。失業した労働者は、なけなしの貯蓄や失業手當を消費する。

過剰生産された商品の一部は物理的に破壊される。

物價下落は商品の價格總額を社會的欲望へと引下げる。過剰生産された商品在荷は吸収される。物價はもうこれ以上下落しない。不變資本の構成要素の低廉化は總資本の價值増殖を高める。

恐慌の間に貸銀は引下げられ、労働の強度性は高められ、労働條件は悪化される。そのために消費力はなるほど一時制限されるが、しかし同時に——投資活動の再開始、第一部門に於ける市場擴張の豫備條件としての——資本の價值増殖の好轉が得られる。

信用恐慌は破産や整理を通じて社會的資本を縮小させる。それによつて残存部分に對する利潤率は高められる。生産部面に於ける資本新投下のための豫備條件が與へられる。同時に信用恐慌は支拂能力を持たない債務者を淘汰する——恐慌のなかで寸斷された信用の連鎖、相互の『信頼』が恢復され、

そして、貸付資本は眞實の蓄積の再開始のために大量的に遊離してくる。恐慌は不景氣に移つたのである。

ブルジョアは今日でも百年前と全く同様に過剰生産恐慌に對して無理解である。恐慌について數百のブルジョア著述、數十萬の論説が過去五年間に印刷されたが、しかも恐慌についての理解は髪の毛一筋だに進められなかつたのである。このことは屢々ブルジョアジのイデオログたち自身でさへも承認してゐる。こゝにその二三の例を挙げよう。

ドイツ景氣研究所の所長ワイルゲマンは、一九三一年八月二十六日の『週報』のなかで次のやうに書いてゐる。

『信用恐慌の急性的爆發は到る處で經濟發展の根柢を揺り動かし、不景氣の有機的な終局を中斷した。このやうな外部から經濟に作用しかける事象は、地震や火災等々と同様に景氣研究の方法を以つては豫知することができない。その結果もまた……量的豫測を全然許さない。』

一九三三年七月九日の『エコノミスト』は次のやうに言つてゐる。

『一九二九—三三年の恐慌が起つて（多分）もうその終りに近づいてゐるのに、しかも吾々の工業循環に對する理解は従前にくらべて殆んど深められてゐないといふ事實を考へるのは情けないことである。恐慌は著書やパンフレットや公式報告書類の洪水を齎らした。經濟學者たちの意見は事象の推移に伴つてふらふら動搖し、結局大多數の場合常識的な懷疑論に逃げたのである。尤もこれはかうした複雑な混亂した問題に對しては最も賢明な遣り方ではある。』

『經濟學の破産』——かういふ見出しで一九三一年九月一日の『マンチエスター・ガーディアン』は次のやうに書いた。

『吾々は貨幣の運動速度についてよりも電子の運動速度についての方が餘程よく知つてゐる。吾々は工業循環についてよりも太陽の周圍をめぐる地球の公轉や宇宙をめぐる太陽の公轉についての方が餘程よく知つてゐる。吾々は、不景氣（“trade slump”）の終りを豫言し得るよりも比較にならないほど正確に目に見えない途方もなく遠く隔つた天體の運動を豫言し得る。』

經濟學者たちの頭がかうした完全な混亂に陥つたに反して、支配階級の個々の層は各々經濟政策に於て自分自身の利益を貫徹するといふ目標を意識的に追求した。この相對立する利益の鬭争に於て結局——多種多様な駈引きで隠蔽されてはゐるが——金融寡頭支配、獨占資本が勝利を得た。

ブルジョアは、恐慌のなかで何よりも先づ商品が利潤を齎らす價格で賣れないといふ事實を見る。恐慌克服を目指して提案された方策のことごとくがこの事實をめぐつて動いてゐた。

「吾々の商品は優勢な外國の競争を受けるために賣れないのだ」と國內市場目當に生産してゐる資本は説明する。そこで恐慌を克服するために關稅引上げ、割當制度、輸入禁止が要求される。

「吾々は外國で吾々の商品を賣ることができない」と輸出業者は説明する。そこで國家の補助金、運賃特惠、ダンピングの國家的組織が要求される。

「吾々の本位貨の價值が高過ぎるのだ」とすべての國の輸出業者は叫ぶ。そしてインフレーションを要求し、またはインフレーションがすでに起つてゐる場合ならば、これを一層ひどくすることを要求する。

「吾々の本位貨の價值が低過ぎるのだ」と、外國産原料の輸入業者や金融業者や金利生活者階級は叫ぶ。「金本位制の維持のみが經濟の安定、信用、恐慌からの血路を保證するのだ。」

「吾々の生産費が高過ぎるのだ」と産業資本は叫ぶ。そこで賃銀の切下げ、労働時間の延長、労働の強度化、労働者を犠牲とする恐慌克服の試みが要求される。そしてこれによつて國內市場の消化力はなほ一層萎縮させられる。

「吾々の販賣價格は無統制な競争のために低過ぎるのだ」と獨占資本家は言ふ。そこで國家による獨占形成の支持（イギリス）、強制カルテル、新企業の設定禁止（ドイツ）、カルテル價格の國家による認可、國定最低價格が生じてくる。かうした獨占價格の人爲的釣上げ(2)は、なるほど獨占資本の利潤を高めはするが、過剰生産された在荷の整理を遅らせ、恐慌を長引かせるのである。

(2) 二三の國家では「自由」價格と「拘束」價格即ちカルテル價格とが國立景氣研究所の手で指數として計算されてゐる。獨占價格の釣上げはそこにはつきり現はれてゐる。

	ドイツ	オーストリア	ポーランド
一九二八年	1011	107	101
一九二九年	105	97	100
一九三二年	84	88	108
一九三三年(a)	84	88	94
十ヶ月	84	88	94

價格形成に現はれた差違はすばらしく大きい。實際には、この差違はもつと小さい筈である。といふのは、公式のカルテル價格は個々のカルテル加盟者によつて秘密に多種多様な形態で回避され、この價格以下で賣られてゐるからである。

「消費力が高められねばならない」と労働組合指導者や社會民主主義的經濟學者は要求する。「恐慌は消費不足に根ざしてゐる」。資本家は賃銀を引上げねばならない。國家は貨幣を人民の間に配らねばな

らない。公共事業を起さねばならない。さうすれば国内市場の消化力が擴大され恐慌は克服されるだらう、といふのである。だがこの煽動は資本家の反対に出くはす。資本家は、商品の賣行きを増すために自分のポケットからヨリ多くの賃銀を支拂ふなどといふ馬鹿げたことをやる氣はない。ローズヴェルトがデマゴギー的な理由からこのスローガンを掲げて駈引きをやつてゐる。

『恐慌は信用の不足に根ざしてゐる』。國家は信用の擴張を計らねばならない（といふ者もある）。そのためには行はれた試み（フーヴァーの復興金融會社）は失敗に終つた。『信用を與へるに値ひする』資本家は、恐慌のなかで縮小された事業状態では何ら追加貸付資本を必要としなない。舊債償還のために資金を必要とする資本家は『信用を與へるに値ひ』しない。

『負債の重荷が吾々を破滅させる』と債務者は叫ぶ。そこで國家の補助金による整理——勿論最大の諸企業だけの整理——、國家による株式の買上げ、利子率の引下げ及びインフレーションによる負債負擔の輕減が要求される。

『恐慌は世界市場に於ける自由な商品交易の恢復によつてのみ克服され得る』。關稅が引下げられ割當や輸入及び輸出禁止が廢止され、國際信用及び資本輸出が恢復されなければならぬ（といふ者もある）。

は、どの國のブルジョアジーも（イギリス・ブルジョアジーまでもがますます決定的にさうなりつゝある）何よりも先づ国内市場を自分で獨占することを企てたといふ事實の前に失敗に終つた。しかもその結果は、舊來の意味での『世界市場』は分解してしまひ、舊來の意味での『世界市場價格』はもう存在しなくなり、國際的分業はますます制限され外國貿易は萎縮してしまふに至つた。この事實のイデオロギー的表現は『アウタルキ』といふ無意味なスローガンである。

(3) 恐慌前の状態にまで『自由貿易』を恢復させるのは、最強の帝國主義的工業諸國にとつては有利であり、弱小諸國にとつては不利になるだらう。自由貿易の復活は恐慌の解決を全然齎さないだらう。蓋し全體としての資本主義世界の購買力はこれによつて毫も増加しないだらうからである。

かうした「恐慌解決方策」の表をこれ以上並べたて、讀者を退屈させるのはもう止さう。支配階級の個々の層の相矛盾した利益は、國家の經濟政策をめぐる不斷の鬭争、ひつきりなしの議會的「妥協」、頻繁な内閣の危機、無方針なジグザグな政策を招來した。そしてそれが國家のファッション化の根柢の一つになつてゐるのである。

國家的方策による恐慌克服の最も大規模な試みは、ローズヴェルトの『ニュー・ディール』、『新政策』である。その本質は次の通りだつた。

- (a) 完全な崩壊以前に國家が預金を保證することによる信用體制の救済。
- (b) 弗減價による四〇％に達する負債負擔の軽減。
- (c) 國家が補助金を支給して命令した生産制限による農業生産物價格の人為的釣上げ。
- (d) 多くの場合強制カルテルたるコードによる獨占形成の促進。
- (e) 大規模な公共事業及び週労働時間の短縮による失業減少のための闘争。
- (f) 賃銀統制。コードのなかで最低賃銀を決める(この最低賃銀が實際には最高賃銀になつた)。

この試みは、周知の通り、一九三三年夏の非常に急激な工業生産増加(在庫品の補充及び比較的裕福な層のインフレーションによる物價騰貴を見越しての買急ぎ)を惹き起し、一九三三年秋には強度の逆轉を、一九三四年上半期には緩慢な新たな好轉を、そして七月以後また新たな逆轉を惹き起した。固定資本の更新及び擴張も住宅建築も今日までのところ最小限に止まつてゐるし、労働者の消費力は高められてゐないのであるから、あらゆる人為的に招來された生産増加は二三ヶ月の後にはもう市場の限界につきあたつて崩壊したのである。結局のところ生産増加は資本主義の内在的な力が成就したと同一の範圍内に止まつてゐる。たゞそれが多かれ少なかれ着實に行はれないで、熱病的なジグザグな道を行はれたに過ぎない。

一切の人為的恐慌克服の試みは、結局のところ無効果に終つた。恐慌の急性局面が終りを告げ特殊の種類の不景氣に移行したのは、ブルジョアジーの駆引きの結果ではなくて、循環性恐慌の克服に働いてゐる資本主義の内在的な力の作用の結果である。その作用が軍備の増大によつて、また二三の國々では一時的にインフレーションによつて強められたのである。

*

人為的な農業恐慌克服の試みについて數言しよう。この試みの目的は何よりも先づ價格釣上げであつた。試みられた方法は輸入諸國と輸出諸國とで趣きを異にしてゐる。

輸入諸國では、關稅引上げ、輸入の割當または禁止等々によつて、國內市場に於ける價格を世界市場價格の運動から切離さうとする試みが行はれた。どこよりも先づドイツ、フランス、イタリア等々のやうな西ヨーロッパ諸國がこの政策をとつた。この政策は一九三三年までは効果があつた。國內價格は世界市場價格の二倍乃至三倍に達した(4)。だがかうした價格の發展は作付面積の擴張を呼び起し、増加した收穫はすぐに恐慌のなかで收縮した國內需要を滿すに至り(5)、そのために保護主義は無効果になつた。新たな價格下落は、國家による公定價格の制定(フランス、ドイツ、チエコスロワキア)、國家による穀物管理の組織化によつてやつとこれを喰止めることができた。

(4) 金フランで表はした價格 (一九三二年七月)

	ベルリン	パリ	ロンドン	シカゴ	ブエノスアイレス
小麦 (ドツベルツェントナリ當り) 三九・六	三〇・六	二一・八	一〇・三	八・九
豚肉 (生重ドツベルツェントナリ當り) 一〇・五	一二・四	—	五・三	—

(ローマ農業研究所年鑑、一九三二—三三年)

(5) その一例としてドイツを挙げる事ができる。小麦の作付面積は、一九二九年には百六十萬ヘクタールだったが、一九三三年には二百三十萬ヘクタールに擴張された。国内生産は次のやうな割合で、国内需要を満たした(百分率で)。

	一九二六年	一九二九年	一九三二年
小麦 四八	七三	九七
肉類 九一	九四	九八
バター 七〇	七一	八五

輸出諸國では、過剰數量を市場から買上げてこれを保管することによつて世界市場價格を釣上げようとする試みが行はれた。カナダ小麦プール、合衆國の聯邦農事局、ブラジルの珈琲證券化等々が即ちこれである。これらの試みはことごとく不成功に終つた。生産は一層増大し在庫は一層膨脹して、

これらの組織はその負擔に耐えきれなくなつて或ひは破産してしまひ(カナダ小麦プール)或ひはブルジョアジーがもはやその損失を負擔するを欲しなくなつた(合衆國の農事局)のである。そして價格は再びまた激落を演じた。

これらの經驗は生産制限を行はなければ價格の釣上げは不可能だといふことを示してゐる。そこで、自發的な作付面積制限をやらせようとする宣傳(殊に合衆國で)、作付面積の縮小に對する補助金支給、各種の農業商品の生産乃至輸出制限に關して國際的協定を結ぼうとする試みが始まつた。これらもまた、主として資本主義的な栽培園で生産される少數の商品(彈性ゴム、砂糖、茶)の價格は生産制限の結果著るしく騰貴しはしたが、全體としては効果がなかつた。固定費用の比重が大きいといふ事情(これについては第三章で述べた)が農業に於ける生産制限を甚だしく困難にする。數百萬の小經營に分散してゐる結果有効な統制は殆んど不可能である。吾々が先に農業恐慌に關する章で示した通り、生産を計画的に制限することは不可能だといふことがわかつた。

そこですでに二年も前から凶作が幸福な出來事として期待されてゐた。合衆國のミネアポリスの「トリビュン」は次のやうに述べた。

『吾等の日用のパンを與へたまへと祈ることを教へられた吾々が、今ではこのパンを吾々から取上

本主義的』傾向は非常な發展をとげた。或る意味では獨占資本主義から『國家的戰時獨占資本主義』——レーニンは世界戰爭當時の資本主義をさう呼んだ——への移行が起つてゐる。

今日の資本主義の情勢は實際世界戰爭當時の情勢と幾多の類似を持つてゐる。第一に、來るべき世界……がすべての國家の經濟政策をますます、決定的に支配しつゝあるからである。多くの資本主義諸國、就中……及びドイツの經濟は、現在すでに著るしく戰時經濟の相貌を呈してゐる。これは不可避免的に經濟のなかでの國家の役割の強化を伴ふ。

第二に、……急速な成熟、ブルジョアジーの支配の危險化は、ブルジョアジーをして防衛をヨリ堅固にするために國家權力を強化せしめる。これに基づく國家機構のファッショ化は、國家資本主義的傾向の強化と結びついてゐる。

吾々は、國家資本主義的傾向の強化の最も重要な方向を指摘してみようと思ふ。

(a) 飛躍的に高められた國家財政の役割。社會の價值生産物または——ブルジョア的な表現の仕方によれば——國民所得が生産減退及び物價下落の結果非常に激減したのに、以前と同様に大きな部分が國家によつて取上げられて新たに分配される(7)。これは國民所得のうち國家によつて占められる部分の割合が増加したことを意味する。

(7) 恐慌の間についた最重要諸國の國家財政の發展(百萬貨幣單位で)

國家の歳出	合衆國		日本		イギリス		ドイツ		フランス	
	一九二九年	一九三四年	一九二九年	一九三四年	一九二九年	一九三四年	一九二九年	一九三四年	一九二九年	一九三四年
三、八四八	七、一〇五	一、八二五	二、三〇九	八二八	八〇〇	八、〇〇二	六、六四七	四、五〇五(a)	五、〇五(a)	四、五〇五(a)
國民所得……	八〇・五(a)	元・八(a)	—	—	三、八四九	三、三八一	七五・四(a)	四六・五(a)	二四・五(a)	二〇・六(a)
歳出の國民所得に對する百分率	四・八	一七・八	—	—	二・三	二四・六	一〇・五	一四・三	一八・四	二四・五
(a) 十億單位。										

(國民所得はいつもその前年のものを比較にとつてある)。

(b) 外國貿易は大體に於て國家の事業となつてゐる。無數の外國貿易の制限(關稅、割當、禁止、爲替管理、國家間の物々交換等々)は、多くの國々(ドイツ、バルチック沿海諸國、日本)ですでに國家による輸入貿易獨占到著るしく類似した状態を作り出した。

(c) 信用は多數の國家(就中ドイツ及び合衆國)で事實上國家信用になつてゐる。諸銀行は國立乃至半國立であつて、あらゆる點で國家に依存してゐる。

(d) 國家は勞働力の配分についてますます、大きな處分權を獲得した(合衆國、ドイツ等々に於ける『自發的な』勞働奉仕、國家による仕事調達方策等々)。

(e) 多種類の商品の価格が國家によつて決められてゐる。直接には國家の公定價格の確定によつて(ドイツでは一切の農業商品の價格がさうだ)。間接には強制カルテルの組織によつて、貿易及び爲替政策によつて。

これらの及びその他の國家干渉は、各々の企業、否、個々の事業取引までもの利潤が急速に増大する國家の諸方策によつて左右されるといふ事態に導く。一般的には一切の國家諸方策は獨占資本の利益となるやうに作用するのだが、しかし個々の場合には、數的に飛躍的に増加しつゝある法律及び命令を『解釋』し且つ執行するところの官僚に依存するところが非常に多い。官僚の重要性(及び彼等の腐敗)は著るしく高められた。かうした一般的な土臺の上で國によつて著るしい不均等性が存在してゐる。この問題についてはもつと後の諸章でまた論ずることにする。

第六章 現在の不景氣の特殊な性質

〔一 恐慌の底入れと不景氣への移行〕

第十七回…大會での報告のなかで同志スターリンは、『最も重要な資本主義諸國の工業が最低點を通り抜けて、一九三三年中にはもうその點までは低下しなかつた』ことを確認した。

次の表はこのことを數字的に示してゐる。

工業生産指數(一九二八年=100)(1)

	資本主義世界	合衆國	イギリス	ドイツ	フランス	日本	ポーランド
一九二九年最高生産の月…(一九二八年六月)	109.8	114.4	107.9	107.2	113.4	—	105.8
一九二九年年平均…	106.0	104.1	106.0	100.4	103.4	111.4	99.7
一九三〇年平均…	90.5	86.5	97.9	90.1	110.2	105.6	81.8
一九三一年年平均…	77.9	73.0	88.8	73.6	97.6	100.7	69.3

第六章 現在の不景氣の特殊な性質

一九三二年第一四半期	六九・五	六二・五	八〇・一	六二・〇	七九・五	一〇一・〇	五二・二
第二四半期	六四・二	五四・七	八九・四	六一・三	七四・〇	一〇四・八	五四・五
第三四半期	六三・三	五五・三	八二・七	五九・六	七三・二	一〇七・二	五四・〇
第四四半期	六七・四	五九・五	九〇・〇	六一・八	七六・一	一一八・七	五四・〇
一九三三年第一四半期	六六・六	五九・五	八九・九	六四・一	八〇・八	一一〇・九	四八・二
第二四半期	七五・七	七〇・九	九二・七	六七・六	八五・八	一二五・七	五五・二
第三四半期	八二・六	八二・六	九二・八	七〇・八	八七・四	一二九・〇	五八・〇
第四四半期	七五・三	六七・三	九二・五	七三・四	八四・三	一三六・一	六〇・一
一九三四年第一四半期	八〇・五	七三・〇	一〇三・三	八二・八	八二・七	一三三・六	六〇・二
第二四半期	—	七六・五	一〇四・一	八七・七	七九・五	—	六三・八
一九三二年の最低點	六二・五	五三・三	八二・七	五八・五	七三・四	九二・四	四六・五

(1) 計数は國際聯盟の統計による。世界生産についてはベルリンの「景氣研究所」の計数による。多くの國々の工業生産は一九三二年半ば頃にその最低點に達した。日本……及びインフレーション、

ン景氣)のやうな二三の國々はすでに一九三一年中に、ポーランドのやうな國々は一九三三年初めになつてやつと、最低點に達した。

物價下落の最低點は、いくらか遅れて一九三三年中に到達された。本位貨が舊價値を保つてゐる少數の國々では、物價下落は現在まだまだ續いてゐる(2)。

(2) 價格形成は本位貨減價によつて著るしく歪められてゐる(爲替相場による金への換算は役に立たない。なぜかといふと、インフレーションのなかでの物價騰貴はいつも時間的に本位貨減價にくらべて著るしく遅れるからである)。

同時に農業生産物の在荷の山積(第三章の表を見よ)も止むに至つた。工業原料の在荷は減少し始めた(3)。工業完成商品の在荷は激減し、一九三二年末には正常の在荷數量以下に減少してしまつた(3a)。

(3) 工業原料の世界在荷(四月)

錫(單位千噸)	一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
鉛(單位千噸)合衆國	二七	四二	六〇	六三	五二	三三
鉛(單位千噸)合衆國	—	四二	二六	一五二	一七三	一九八

第六章 現在の不景氣の特殊な性質

亞鉛(單位千噸)合衆國……………	三三	九〇	一四〇	一三八	一三七	一四五
石油(單位百萬罐)……………	五九	六三	五九	五〇	五〇	五〇
銅(單位千噸)……………	三四	—	五六	七一	六四	五〇

計数は『ロンドン及びケンブリッジ經濟調査所』から。銅については『ベルリン取引所新聞』一九三四年八月二日。

(3a) 合衆國に於ける完成商品の在荷指數(一九二二—二五年=一〇〇)

十二月……………	一九二九年	一九三〇年	一九三二年	一九三三年
	一一	一三	一〇	九

その他の國については完成商品在荷の統計がない。だがその發展はきつと「合衆國と」同様であつただらう。打續く物價下落はすべての企業、殊に卸賣Ⅱ及び小賣商業をしてその在荷を最小限まで減少させたのである。そこで世界經濟恐慌は一九三三年中に、通常不景氣への移行と呼ばれてゐるところの發展に達したのである。

〔二〕不景氣についてのマルクスの見解

マルクスにあつては循環の分析の中心點に立つてゐるものは常に恐慌である。即ち、資本主義の一切の諸矛盾が公然と強力的に……………、資本主義的社會秩序の伽藍がその深奥部に至るまで……………、繁榮局面で生じた幻想からプロレタリアートを解放し、資本主義の歴史的に經過的な性質をむきだしに示すところの循環局面としての恐慌である。他の循環局面がマルクスの關心を惹いたのは、何よりも先づ、次の恐慌に至る準備局面としてであつた。従つて吾々は、マルクスの著作のなかでは不景氣についての記述はほんのばらばらにしか見出さないのである。ついでに言つて置くが、循環の一局面の名稱としての『不景氣』Depression と云ふ言葉はマルクスには全く見當らない(この言葉が用ひられてゐる場合には常に英語風に恐慌といふ意味に用ひられてゐる)。マルクスは次のやうな表現を用ひてゐる。『停滞』Stagnation、『平靜狀態』Zustand der Ruhe、『崩壞に續く工業循環の局面』die Phase des industriellen Zyklus, die auf den Krach folgt (4)、『憂鬱なる時期』die melancholische Periode。だがマルクスに不景氣の觀念が存在することは明かであつて、言葉について兎や角言ふことは無意味である。

(4) 『資本論』第三卷第二部二〇頁以下〔高島氏邦譯二四頁〕。

マルクスが不景氣局面を最も詳細に特徴づけてゐるのは次の個所に於てである(5)。

第六章 現在の不景氣の特殊な性質

「恐慌を切抜けた直後の工業循環局面に於ては、貸付資本は大量的に寝かされてゐる。……」

この瞬間には、生産過程は縮小されて居り（一八四七年の恐慌の後ではイギリスの工業地方に於ける生産は三分ノ一も減退してゐた）、商品価格はその最低點に立つて居り、企業精神は癱痺してゐて、低い水準の利子率が支配してゐる。そしてこの低い水準の利子率は、この場合、正にこの産業資本の収縮及び癱痺によつて貸付け得べき資本が増加したことを示すものにほかならない。商品価格が低落し取引が減少し貸銀に投ぜられる資本が収縮すると共に所要流通手段の量が減少するといふこと、他方、一部分は金の流出によりまた一部分は破産によつて外國に對する債務が清算された後は、世界貨幣としての機能のためにはもはや何ら追加貨幣が必要とされないといふこと、最後に手形割引業務の範圍はこの手形自身の數及び金額と共に減少するといふこと——これらすべてのことは自明のことである。だから流通手段たると支拂手段たるとを問はず（新規資本投下はまだでんで問題にならない）貸付け得べき貨幣資本に對する需要は減少を來し、それと共に貸付け得べき貨幣資本は相對的に豊富になる。だがかうした事情の下では貸付け得べき貨幣資本の供給もまた——後で示す通り——積極的に増加するのである。

（「資本論」第二卷第二部二二二頁以下、「邦語」二六頁以下）

この引用から最も重要なモメントを挙げると、次の通りである。
生産は縮小されてゐる。

企業精神は癱痺してゐる。

商品価格はその最低點に立つてゐる。

貸付資本は大量的に寝かされてゐる。

最も低い水準の利子率が支配してゐる。

一九三三年にはこれらすべてのモメントが疑ひもなく存在してゐた。恐慌は不景氣に移行したのである。だがそれは通常の不景氣ではなくて、「特殊な性質」の不景氣である。

〔三〕 現在の不景氣についてのスターリンの見解

「このことは、恐慌から通常の不景氣、即ち工業の新たな景氣亢進及び新たな繁榮を伴ふところの不景氣への移行が起つたことを意味するか？ 否さうではない。いづれにしても現在のところ資本主義諸國に工業の景氣亢進が始まつたことを物語る事實は、直接間接を問はず全然存在してゐない。そればかりでない。あらゆる點から判断して、かゝる事實は少くとも近い將來に於ては生じ得ない

のである。かゝる事實は、資本主義諸國の工業にとつて苟くも眞剣な景氣亢進を不可能ならしめてゐるところのあらゆる不利な條件が依然として存続してゐるが故に生じ得ないのである。問題は、資本主義の持続的なアルゲマイネ・クリーゼ（經濟恐慌はその内部で起つてゐるのだ）、經營の慢性的な生産能力利用の不足、慢性的な大衆的失業、工業恐慌と農業恐慌との纏れ合ひ、通常景氣亢進の開始を豫告するところの苟くも眞剣な固定資本更新の傾向が存在しないこと等々、にあるのである。

この場合、工業の低下の最低點、工業恐慌の最低點から不景氣への移行が問題なのだといふことは明かである。だがこの移行は、通常の不景氣への移行ではなくて、工業の新たな景氣亢進及び繁榮に導かないところの、だがまた低下の最低點へも逆轉させないところの特殊の不景氣への移行である。

〔四 現在の不景氣の特殊な性質〕

決定的に重要なことは次の事實である。機構的に見れば、現在の不景氣はマルクスが特徴づけたといふ以前の前のすべての不景氣局面と殆んど異なるといふことはない（6）。〔だが〕動態的に見れば、根本的な相違がある。現在の不景氣は——「正常の」不景氣とは反對に——資本主義經濟の景氣亢進のためには充分な基礎を作り出さない。不景氣の特殊な性質は、資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの作用の下に起つた工業循環の變形にある（7）。

（6）主要な相違は、現在に於ける貨幣Ⅱ及び信用體制の状態が完全に潰亂してゐる點にある。

（7）この變形はすでに一九二一—二九年の循環のなかに現はれてゐた。即ち景氣亢進は全般的でなかつた。

二三の諸國（例へばイギリス）、幾多の工業諸部門（石炭、造船、木綿）は、景氣亢進にごく僅かしか参加しなかつた。景氣亢進は、戦争による荒廢が復興を要しなかつたならば、もつと微弱であつただらう。

この變形は、一九二二年半ばの恐慌の最低點以來の資本主義經濟の全發展にはつきり現はれてゐる。上向資本主義の循環に於ては、生産及び事業状態を恐慌の底からその前の繁榮局面の絶頂まで高めるには數ヶ月で充分だつた。多くの場合（第二章を見よ）、恐慌のなかでも生産減退は全く起らず、たゞ増大のテンポの緩慢化が起つたに過ぎなかつた。帝國主義の時代には、恐慌の底入れ後その前の最高點に再び到達するまでには一般に一—二年かゝつた。

ところが現在はどうか？

恐慌の最低點以來二年以上も経つたのに、資本主義世界の工業生産の大きさは、なほ依然として一

九二八年の水準を約二〇%も下廻つてゐる。二年間の好轉の後にも拘はらず、生産は、その前の最高點から見て、以前の諸循環の際の恐慌のどん底の時期に於けるよりもつと著るしく低い點に立つてゐる。

更らに、一九三四年夏には經濟の上昇線が再び中斷されたことは明かである。合衆國には——一九三三年の時のやうに——強度の逆轉が起つてゐる。ドイツの經濟は破局に向つて進んでゐる。フランスでは緩慢な逆轉が続いてゐる。イギリスでは好轉の停止が起つた、等々。一九三四年第三四半期には一年前とくらべて工業生産の大きさは減退し、全體としての資本主義世界經濟の情勢は悪化してゐるといふことは疑ひを容れない(7a)。

(7a) こゝで次の事實を強調して置かれなければならない。即ち、工業循環の恐慌局面から不景氣局面への移行は、農業諸國にとつてはその經濟情勢一般の好轉と同一ではない。工業の經濟上の比重が僅か一〇—二〇%にしか達しない國々(例へばバルカン諸國、南アメリカ諸國または支那のごとき)では、假りに二五%の工業生産増加が起つたとしても、それは總經濟については僅か二・五—五%の好轉しか意味しない。同時に農業の狀態が悪化するならば、凶作、工業部面に於ける不景氣への移行にも拘はらず、國の總經濟情勢は更らに悪化する。不景氣がいはゆる場合にも好轉を意味するのは、工業諸國にとつてだけであつて、農業諸國にとつては不景氣は具體的な事情の如何によつては一層の悪化と結びつき得るのである。

次の事實は明白である。即ち、生産諸力と生産諸關係との間の矛盾は、現在の資本主義の安定の終焉の時代に於ては、生産増加が景氣亢進局面に到達する以前に早くも市場の消化力の限界にぶつかつてしまふほど、鋭くなつてゐるのである。

資本主義の内在的機構の作用は、恐慌の最低點を克服し、不景氣への移行及び二三の國々では輕微な活況を呼び起すだけの力はあつたが、しかしそれは正眞の景氣亢進、繁榮局面を呼び起すだけの力はないといふことを示してゐる。

さて吾々は、現在ではなぜ開始された生産増加が餘りに早くも市場の消化力の限界にぶつかつてしまふかといふことを研究しなければならない。決定的なモメントは次の通りである。

(a) 景氣亢進の『物質的基礎』をなすものは、第一部門の商品のための市場の擴張、何よりも先づ、眞實の蓄積過程に於ける固定資本の擴張及び更新である(第一章を見よ)。資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの時代には、現存生産設備の慢性的に不充分的な利用、産業資本の慢性的過剰がその特徴である。一例としてドイツを擧げることができる(8)。

ドイツ工業の生産能力利用度(百分率で)

一九二九年 一九三〇年 一九三一年 一九三二年
 卷・四 五・二 四・五 三・七

(8) 『景氣研究四半年誌』第七年度第二冊一一九頁。一般に一週四十八労働時間を生産能力の全幅的利用とする。

これで見ると、生産が最高だつた年即ち一九二九年に於てさへも、ドイツ工業の生産設備は僅か三分ノ二だけしか利用されなかつたことがわかる。他の資本主義諸國に於ても事態はこれと同様である。かうした事情の下では、ブルジョアジーが——軍需工業を除けば——固定資本の更新及び擴張を躊躇するのは當然である。なぜかといふと、利用されない設備の存在は、餘剩價值が餘分に大きい資本に對して分配される結果、利潤率を低下させるからである。だがこれ「固定資本の更新及び擴張」なくしてはいかなる景氣亢進も起り得ないのである。

(b) 大恐慌は甚だしい集中過程を生ぜしめた。獨占形成(9)、資本主義の獨占的性質は非常に強度になほも發展した。多くの國々(ドイツ、イギリス、合衆國)では、獨占形成は國家の諸方策によつて促進された。だが獨占が強力になればなるほど、技術的進歩の妨害もまた甚だしくなり、固定資本の更新への刺激は少くなるのである。

(9) 國際カルテル及びトラストの一部は恐慌の間に崩壊した。不景氣時代になつて國際的獨占の形成または再形成の傾向の復活が認められる。個々の國家の枠のなかでの獨占形成は、恐慌の間に國家の諸方策の支持を受けて加速度的なテンポで行はれた。

このことは勿論技術的進歩が全く停止してしまつたことを意味するものではない。そんなことは資本主義に於てはあり得ない。(兵器技術の熱病的な改良もまた、他の部面で或る程度の技術的進歩が起らなくては不可能である)。質的に新しい現象は次の事實であると思はれる。即ち、賃銀が低く固定資本が甚だしく過剰である結果、生産費の非常に大きな切下げ即ち必要労働力の特に著しい縮減を可能ならしめるやうな技術的革新のみが採用されるといふことがこれである。生産費を僅かくらゐ切下げ得ても、それでは資本を新投下させるには不十分なのである。

(c) 獨占形成の強化は獨占商品の價格下落を僅かに喰止めた(上述の部分を見よ)。商業部面の獨占、販賣税及び消費税の引上げは、小賣物價が卸賣物價にくらべて遙かに僅かな程度しか下らないといふ事態を生ぜしめた(10)。これがために最終消費者への販賣——これが究局に於て第一部門の生産の水準をも決定するのである——が減退せしめられた。

(10) 卸賣物價と小賣物價との状態の比較(一九一三年—二〇〇)(年平均)

第六章 現在の不景氣の特殊な性質

	合衆國	ドイツ	ポーランド
一九二九年	卸賣 小賣 一七	卸賣 小賣 一七	卸賣 小賣 一七
一九三三年	卸賣 小賣 一七	卸賣 小賣 一七	卸賣 小賣 一七
下落百分率	三三	三三	三三

(國際聯盟の統計)。

(d) 以前の諸循環に於ては、資本主義的市場は、農民のな——大部分自家需要のために労働してゐる——獨立生産者たちを資本主義的商品の流通のなかへ引き入れる過程によつて擴大されたのであつた。レーニンはこれについて次のやうに述べた。

『國內市場の形成のため、(即ち商品生産及び資本主義的發展のため) 基礎的な過程は社會的分業である。この分業は、各種の原料加工(及びこの加工に際しての各種の作業)が順次に農業から切離されてその生産物(それらは今ではもう商品である)を農業の生産物と交換するところの獨立の産業部門を形成するといふ點にある。かうしてそれ自身一個の産業(即ち商品生産者)となる農業にも、これと同一の専門化過程が起る』(11)。

(11) レーニン『ロシアに於ける資本主義的發展』、全集第三卷三一頁以下(ドイツ版)。

商品生産の擴張と共に、農民層の分化、分解、一方には農村ブルジョアジー、他方には農業プロレタリアートの形成が行はれる。そしてそれによつて、農民人口の廣汎な部分の貧困化にも拘はらず、資本主義的市場は一層擴張される。

『かうして農民の農村プロレタリアートへの轉化は主として消費手段のための市場を作り出し、農民の農村ブルジョアジーへの轉化は主として生産手段のための市場を作り出す。言ひ換へれば「農民層」の下層グループの間では労働力が商品となり、上層グループの間では生産手段が資本となるのである』(12)。

(12) 同上書、一二八頁。

現在の不景氣に於ては次のやうな變化が起つた。『農民脱化』Entbauernung——レーニンはさう呼んでゐる——の過程、即ち農業生産者の資本主義的市場流通のなかへの引き入れは、資本主義的に最高度に發展してゐる諸國——合衆國、イギリス、ドイツ——では大體に於て終つてゐる。分化過程は、なるほど現在の農業恐慌のなかで小農及び中農の大衆的破滅にまで高まつてはゐる。だがこの過程は——第三章のなかで述べたやうに——現在農業の退化と結びついてゐて、そのために資本主義的市場の擴張どころでなくむしろ縮小が起つてゐる。馬や人間の労働が機械に取つて代るので生産手段の販

第六章 現在の不景氣の特殊な性質

賣は減退し、人造肥料の消費は減退する等々。プロレタリア化された農民は何よりも先づ失業者軍を増加させるだけなので、農民の農村プロレタリアートへの轉化は消費手段のための市場などで作り出さない！ 慢性的農業恐慌は景氣亢進の主要障壁の一つである。(一九三四年の凶作は農村に於ける勤勞民衆の窮乏を飛躍的に増加さすだらう。大量の在荷の壓迫のために相對的に取るに足りない程度の價格騰貴は、大多數の地主や富農の場合でも、收穫數量の減少を償はないだらう)。

(e) 以前の諸循環に於ては、資本主義的市場は新たな領域を資本主義的生産様式のなかへ引き入れることによつて、即ち植民地の獲得及び開拓によつて外延的に擴張されたのであつた。今日では世界は分割され終つてゐる。持ち主のない領域を獲得しようにもそんな處はもう全然ない。植民地を販賣市場として内包的に利用することも、植民地及び半植民地に於けるそれ自身の消費手段工業の發展といふ障壁にぶつかるといふ發展は恐慌の間にも停止しなかつたのである。

(f) 帝國主義の時代に於ける資本主義的市場の限界を擴張するための最も有力な槓杆の一つは、資本輸出であつた。各々の資本輸出は、引渡された商品と引換へに即時に當該國から對價が要求されるとしたならば到底不可能なるべき追加的商品販賣を意味する(13)。ところが現在では資本輸出は殆んど全く止んでしまつてゐる(14)。

(13) 資本輸出が金形態で行はれるのはごく稀な場合だけであつて、一般には商品形態で行はれる。

(14) 計數は第二章を見よ。

その主な原因は次の通りである。

一、**經濟的には**、恐慌の結果次のことゝがわかつたからである。即ち、現在のやうな世界經濟的分業の廢止傾向や慢性的農業恐慌や相互的な市場締出しが存在する場合、資本輸入者たる債務諸國にとつて自國に投下された外國資本の利子または利潤を引渡すのは——債權諸國が債務諸國の商品を買ふを欲しないのだから——非常に困難である。

二、**政治的には**次の理由からである。即ち、世界は……第二幕に眞近に接近してゐる。しかも近づける世界………ための國々の部類分けはまだしつかり決つてゐない。どの國にとつても、資本輸出によつて自國の將來の敵國を強化することになる危険及び戦争になつた場合自國の資本が失はれてしまふ危険がある。

戦争が眞近に近づいてゐるといふ見透しは、『道徳的に古くなつた』固定資本の更新を妨げる。資本家は、戦争は莫大な需要と高物價とを齎らし、古くなつて廢毀を要するほどになつてゐる經營にも利潤を齎らすだらうと考へるのである。

だが世界はまた……の第二幕にも眞近に接近してゐる。プロレタリア……の危険は、一般に資本投下、特に資本輸出を妨げる。ブルジョアジーは自己の資本を動員し易い形で持つてゐたいと考へる。彼等は確實性を増すために高い利潤を犠牲にするのである。

(g) 消費手段のための市場の最も重要な制限の一つは、大衆的失業、賃銀切下げ、租税引上げ等々による労働者階級の所得の激減である。不景氣への移行は、この點では非常に僅かな變化しか來さなかつた。生産は増加した。被搾取労働者の數は増加した。だが支拂はれた賃銀總額の購買力は殆んど増加しなかつた(15)。

(15) 詳細な分析は次章を見よ。

これについては恐慌の間に起つた合理化の性質の變化が大きな役割を演じてゐる。

恐慌前には、資本がその學者や技術家や支配人や職長に課した任務はほゞ次のやうなものであつた。君たちは私のために生産物一單位當りの生産費を切下げてくれねばならない。この切下げが生産される商品の數量を増加させて初めて可能であつても、君たちはそんなことを氣にかけるには及ばない。販賣は私の仕事だ。値段が安くして良い商品ならばいつでも販路はあるものだ。

恐慌は、資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの時代には資本主義的市場の擴張には非常に狭い限界が劃されてゐるといふことを資本に教へた。恐慌は、ほかならぬこの完全に「合理化され盡した」大量販賣目當の經營(そこでは全生産が傳送帶で自動化されて行はれてゐる)に於ける生産費の方が多くの場合——生産制限の結果——比較的近代的でない經營の生産費よりも遙かにひどく騰貴したことを資本に教へた。

そこで恐慌中には、資本はその學者や技術家や支配人や職長にほゞ次のやうな任務を課した。君たちは生産物一單位當りの生産費を切下げてくれねばならない。だがこの切下げは——販賣増加の見込みはまるでないのだから——生産される商品の數量の増加を伴はないといふ條件を備へておかなければならない! もつと具體的に言へばかうだ。君たちは、現在のやうに吾々の經營の生産能力利用が低下してゐるまゝで、生産費の低減を計らねばならない。

學者や技術家や支配人や職長は資本の命令を果した。生産能力の非常に僅かな利用にも拘はらず、生産費は著るしく切下げられた。

この目的のために用ひられた最も重要な方法は次のやうなものだと思はれる。

獨占組織の内部では比較的劣悪な經營を休止させて生産を最も優秀な經營に集中すること。一個の經營の内部では、比較的舊式な劣悪な機械を休止させて最新式の機械だけを使用すること、またはそ

の反對に、傳送帶による生産を止めて販賣減退にヨリ適合してゐるヨリ原始的な方法に復歸すること。

資本の立場から見て『最も優秀な』労働者、即ち労働のテンポの加速化、労働の強度性の増進をできるだけ無抵抗に甘受する労働者の選擇。賃銀を強度に切下げると同時に行はれる労働の強度性の増進。多種多様な形態の短縮労働時間でヨリ多數の労働者を就業させること(16)によつて、資本は實際の労働時間の中に労働の強度性を最高度にまで高めることができる。この殺人的なテンポが労働力を急速に時期尙早に消耗させるところで、資本はその補充について心配するには及ばない。數百萬の失業者軍がいつでも新たな……材料を供給するからである。労働過程が個々のごく簡単な操作に分解され、労働過程が著るしく自動化されるので、補充の困難な熟練労働者の數は減少し、労働者層の大部分は容易に補充され得る不熟練労働者や見習工に轉化する。

(16) アメリカの石炭、銑鐵、鋼鐵、自動車等々の諸工業では、經營そのものは全幅時間作業してゐる時さへも、各個の労働者は一週二日乃至三日しか作業しない。經營の作業時間と「各個の」就業労働者の作業時間とは一致しない。經營は作業場所の二倍の労働者を『就業』させるが、大抵の労働者は一日おきしか作業しないのである。これは、合衆國の多數の工業諸部門ですでに繁榮局面當時からさうだつたのである。

このやうにして獨占資本は新たな形態の合理化によつて、恐慌中に労働者の作業能率を著るしく高

め、恐慌の負擔を著るしくプロレタリアート……することに成功した。

このやうな恐慌合理化の特殊性は、今日の不景氣の特殊性の重要な一要素をなしてゐる。労働者を犠牲とする生産費の切下げは、固定資本の更新への刺戟を弱め、つまり生産手段のための市場の擴張を妨げる。他方賃銀の切下げは消費手段のための市場を狹隘ならしめる。

*

總括。不景氣への移行は資本の價值増殖を高めた。資本は——スターリンが言つたやうに——労働者を……し、農民を……にし、植民地を……して自己の情勢をいくらか好轉させることに成功した。これは以前の諸不景氣の場合にもさうだつた。だが以前には資本の價值増殖の好轉は、資本の大規模な新投下、第一部門の販賣の擴張、それと結びついて更らに第二部門の販賣の擴張を呼び起し、かくして新たな景氣亢進へと導いたのであつた。しかるに現在の場合さうではない。資本の新投下は最小である。景氣亢進の『物質的基礎』が缺けてゐる。だから生産増加は數ヶ月の後にはもう再び市場の限界にぶつかる。商品は何ら充分な販賣を見出さない。完成商品の在荷はまたもや増大する(17)。そして新たな逆轉が起るのである。急速に増大しつゝある軍備がたとへ不生産的なりとはいへ追加的な販賣を作り出さなかつたならば、この逆轉はもつとひどく、工業生産はもつと少ないだらう(18)。

(17) これは合衆國に於て最もよく認められる。完成商品の在荷指數は、一九三二年十二月には九六に低下してゐたのであるが、一九三三年十二月には一一〇（纖維商品は一九二）に上昇した。

(18) 軍備増大の量的重要性は非常に複雑な計算によつて近似的に決めることができる。吾々は次のやうに評價する。一九三三年に起つた工業生産増加の一〇—四〇%（個々の國によつて區々である）は戦争準備に原因するものである。

〔五〕見透し

最近數年の間に、資本主義の……崩壊の經濟的豫備條件は飛躍的に發展せしめられた。生産諸力と生産諸關係との間の矛盾は手にとるやうに明かになつた。ブルジョアジーは自分が作り出した生産諸力を利用し盡す力がない。人口の過剰と並んで慢性的な資本過剰が、即ち、飢餓に瀕せる失業者軍と休止してゐる生産設備とが、到る處に生じてゐる。大規模な「計畫的な」各種の資本や商品の破壊は、資本主義の深刻な腐朽 *Fäulnis* を曝露してゐる。金融寡頭支配は他の一切の人民層を……して自己の地位を改善しようとして、資本の集中によつて比較的弱小な資本家や小ブルジョアジーを……し、自己の支配する國家機關を全國民を……するために利用することによつて、金融寡頭支配は生産諸力と生産諸關係との間の矛盾をますますひどく尖鋭化し、社會の消費力を相對的にますます縮減し、資本主義のアルゲマイネ・クリーゼを深刻ならしめるのである。

現在の不景氣の特殊な性質を規定してゐると同一の諸原因が、資本主義經濟の今後の進行をもまた決定してゐる。資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの作用、一時的安定の終焉及びそれに伴ふ帝國主義的並びに階級的諸對立の尖鋭化、一切の諸關係の一般的不安定の作用は、工業循環の變形を一層進行させ、もつと甚だしくするだらう。現在の不景氣は、短命な恢復と強度の逆轉とを伴ひつゝ——恐らく二三の國々を除けば——繁榮局面には移行しないで、數年の間長引くだらう。そして結局はまた新たなもつと深刻なもつと破壊的な經濟恐慌に席を譲るだらう。……

これは、世界戦争の勃發及びプロレタリア……がなほ數ヶ年も遅れると假定した場合の見透しである。だがこれは甚だありさうにないことである。現在の特殊な性質の不景氣のなかで資本の價値増殖の好轉が思はしくないことに不満なブルジョアジーは、その血路を……求めるだらう。不景氣になつても自己の状態が恐慌の時とくらべて殆んど改善されないプロレタリアートは、勤勞農民及び被抑壓植民地民族の助力を得て、その血路をブルジョアジーの支配に對する……求めるだらう。

第七章 經濟恐慌の社會的諸結果

〔一〕 支配階級内部の闘争の尖鋭化

恐慌及び不景氣は資本主義的社會秩序を強度にぐらつかせた。資本主義社會のあらゆる層の間に内部闘争が甚だしく尖鋭化した。

その經濟的基礎は、恐慌のなかで利潤總額が減少したことである。すでに上述の部分で述べた通り、……率の引上げも……される労働者數の激減を償ひ得なかつたが故に、獲得された餘剩價值の總額は恐慌の間に減少した。恐慌のなかでの長い間の價格激落は、商品の販賣が屢々損失價格で行はれたといふ結果を齎らした。即ち、労働者は……されたが、それにも拘はらず資本は全然利潤を實現しなかつたのである。かうした事情の下では、利潤乃至は損失の分配をめぐる闘争は特に鋭くならざるを得なかつた。闘争は多種多様な錯雜した方向をとつて行はれる。農業輸入諸國のブルジョアジーのあらゆる層は、食料品價格を騰貴させ、實銀切下げを困難ならしめ、生産費低下を妨げ、従つてまた世界

市場に於ける競争能力を阻害するところの高い地代の人爲的維持に反對して闘争する。地主及び農民、工業ブルジョアジー及び小市民層は共同して、貸付資本、金利生活者階級に對抗して利子切下げを指して闘争する。加工工業は原料獨占と闘争し、農民は中間商業の大獨占と闘争する、等々。闘争は、關稅政策、物價政策の形成をめぐつて、租稅の分配または轉嫁をめぐつて、國家の註文、補助金、信用等々をめぐつて、一言で言へば國家に對する支配をめぐつて行はれる。二三の國々、即ちドイツ、日本、オーストリアでは、この闘争はすでに政治的……及び……闘争の形態で行はれてゐる。『上層のクリーゼ』は明瞭に現はれてゐる。

〔二〕 都市小市民層の状態の惡化

都市小市民のあらゆる層の状態は著るしく惡化した。いはゆる『獨立的な』層——手工業者、飲食店經營者、小商人、醫師——は、何よりも先づ、彼等の顧客の基本的大衆をなしてゐるプロレタリアートの窮乏化の結果、その所得の破局的な減少を蒙むつた。協同組合、百貨店、連鎖店の競争の増大、資本主義的製パン所やミルクホールや倉庫による最終消費者への直接供給等々が、減退した賣行きのうちからますます大きな部分を奪ひ去つて行く。大多數の獨立小市民がますますひどく資本の債務隸

屬者となつて行き、貧困に陥り、破産する。そこでこれらの層の間に、『利子隷屬の打破』とか『百貨店の廢絶』とかいふやうなファツシヨ的デマゴギーが人氣を得るのである(1)。

(1) 數的には——測定し得る限りでは——手工業者数は恐慌のなかで減少した。『獨立』小商人の数は減少してゐない。これはますます多數の失業者が路上の商賣によつて惨めな生存の道を見出さうと試みるからである。

〔三〕 非獨立小市民層にとつての恐慌の社會的結果

更に破局的な様相を呈してゐるのは、非獨立小市民層、いはゆる『新中間層』の状態である。恐慌は技師、化學者、技術家を大衆的に經營から解雇した。事務の合理化は數百萬の使用人を街頭に投げ出した。軍備のための支出は急速に増大しつゝあるに反して、ブルジョアジーは文化のためには一文の貨幣も出さない。そこで教師、知識労働者は大衆的にその地位を失つた。地位を保ち得た者は強度の給料切下げを甘受しなければならなかつた。貨幣がないために教師が屢々數年に亘つて給料を受取らないといふのは支那やルーミアのやうな國々だけの話ではない。シカゴその他の富裕なアメリカの大都市でもさへもさうなのである。數萬の學校出の人々が、道路掃除人や臨時雇や給仕人となつてこの上もないひどい仕事をしながら自己の生活を続け得ることを悦んでゐるのである。

〔四〕 各種の農民層にとつての恐慌の社會的結果

全體としての農業恐慌は第三章ですでに取扱つた。これからは特に勤勞農民にとつての農業恐慌の結果を研究しよう。

價格下落の下に、過度に高く固定されてゐる地代や耐えきれなくなつた負債や高額の租税やの負擔増大の下に農業生産者全體が苦しんでゐるとは言へ、恐慌が最もひどく打撃を與へてゐるのは、農村労働者を除けば、中農及び貧農だといふことは言ふまでもない。その理由は次のやうなものである。

(a) 農業小經營の生産費は資本主義的大經營の生産費よりも高い。大經營ならばまだ利潤を擧げ得る程度の農業生産物の價格水準で、農民はすでもう損失に陥りながら生産する。

(b) 農民が地主の土地の小作人として支拂ふ地代は、常に、次のやうな意味で、即ち、小作料は獲得された餘剩價值のうち平均利潤を超える超過分を取り去るだけでなく更に全利潤及び賃銀の一部をまでも取り去るといふ意味で、『高利地代』である。

(c) 勤勞農民が地方小貯蓄銀行や農村高利貸に支拂はねばならない利子は高利子であつて、こ

れは大地主が別の方面から借り入れる彼等の抵當負債に支拂ふ利子にくらべて、著るしく高い。

(d) 鉄狀價格差は大生産者にくらべて中農及び小農に遙かにひどい打撃を與へる。なぜかといふと、中農や小農は彼等の商品を取引所の相場より遙かに低い價格で地方商人——これには屢々借金がある——に渡さねばならないし、また大獨占業者(ミルクホール、製粉業者、屠殺業者)は中農や小農に對しては價格を一方的に決めるからである。しかるに他方では、中農や小農は彼等の必要とする工業商品をやはり中間商人の手から高い價格で買つてゐる。だから鉄狀價格差は、勤勞農民にとつては、卸賣物價を土臺にして計算されてゐる官廳指數が示す以上にもつと遙かに大きいのである。農業商品のために國定の最低價格が公定されたところで、この公定價格を受取るのは地主や大農だけで、小農や中農はそれよりも安い價格で賣らざるを得ない(2)。

(2) 一九三三年にはフランスで小麥一ドゥベルツェントナーについて百二十七フランの最低價格が公定された。だが農民が實際に受取つたのは僅か八十フラン乃至九十フランに過ぎなかつた(一九三四年四月二十一日の『スタテイス』を見よ)。

(e) 勤勞農民が納めねばならない租税は、ヘクター當りまたは所得に對する割合から見て、地主や大農の租税にくらべて著るしく高い。地主や大農は、國家機關や地方自治體機關のなかで占めてゐる權力的地位を通じて、また彼等の『結びつき』を通じて、租税負擔を甚だしく勤勞農民の上に変換し得るのである。

(f) 資本主義國家が低利信用、負債整理、補助金等々の形で『農業』に與へる救済は、九九%まで地主や富農の手に歸し、勤勞農民は何等得るところがない。

かうして農業恐慌は全線に亘つて中農及び貧農に特に鋭く打撃を與へるのである！
そこで農業恐慌の結果は階級別には次のやうにこれを定式化することができる。

全資本主義に特徴的な不斷の分化過程——中農及び小農の一部の貧農やプロレタリアートの列伍への没落、そのごく少數部分の大農の列伍への向上——は、農業恐慌のなかで一層甚だしくなつて小農及び中農の大衆的破滅となるに至つた。急速なテンポで勤勞農民………される。土地はますます銀行や高利貸や投機業者の掌中に移り、これまで土地所有者だつた者が以前の自分の持ち地で………される小作人となつてゐる(3)。

(3) 合衆國に於て、全部借入れた土地だけで耕作してゐる農業者の百分率は、國勢調査の計數によれば次の通りだつた。

一九〇〇年 一九二〇年 一九二五年 一九三〇年

三五・三

三六・一

三八・九

四二・四

一九三〇年から一九三四年に至る諸年度には、かうした農業者の土地……過程はもつと急速なテンポで行はれた。現在では合衆國農業者の殆んど五〇％はすでに借入地で經營を營んでゐるだらう。(この計數のなかには、自己の所有地のほかにほ他人の土地をも借りてゐる農業者は含まれてゐない)。

農業の退化(これについては第三章で述べた)は、どこよりも先づ小農及び中農について起つてゐる。彼等の収入は、租税や借地料や利子やを拂つた後では、極端な個人的節約にも拘はらず、全家族の激しい労働にも拘はらず、單純再生産を維持するにも足りない。消耗した機械を更新することができない。斃死した家畜は補充されない。農民はますます深く救ひ難い窮乏のどん底に陥つて、底止するところを知らない。

これは『獨立した』中農及び小農の話である。賃銀労働からの副業収入なくしては生活し得ない貧農の状態は、絶望的である。殆んど完全な建築事業の休止、工業に於ける大衆的失業、比較的裕福な農民の許に『手助け人』として強制的に失業者を就職させたこと(ドイツ)——これらすべては貧農が彼等の生計維持に絶對に必要な賃銀労働者としての副業収入を見出すことを不可能ならしめる!

彼等の状態は絶望的である。飢餓は日常の現象となつてゐる。

すでにマルクスは、農業に於ては機械による労働者の驅逐は終局的な驅逐だといふことを確認してゐた。資本主義のアルゲマイネ・クリーゼ以前には、農業で遊離させられた労働力は工業で仕事を見出したのであつた。しかるに今日ではもうさうでない。工業恐慌の間に、都市で失業し失業手當を剝奪された工業労働者の農村への歸流さへもが始まつた。彼等は餓死を免れるために親戚を頼つて歸村して來るのである。貧農が賃銀労働を見出す可能性はますます少くなる。賃銀労働を見出すことが困難になればなるほど、貧窮農村民の自分の計算で土地を耕作しようといふ熱望——それによつてさもなくば遊んでゐる彼等の労働力を利用し餓死を免れるために——はますます強くなる。恐慌のなかで、一方では従來土地所有者だつた數百萬の農民が彼等の土地を……されてゐるのに、他方では高利地代を拂つてさへも僅小な土地を借地しようと試みる數百萬の人間がゐる。これがために地代の價格關係の變化への順應はますます阻止されるのである。

色々な國々での勤勞農民の窮乏化を示す二三の具體的な實例を擧げよう。吾々はことごとくブルジョア的資料のみを引用する。

合衆國、アーカンソー州——

『彼等の貧弱な收穫の最後の一片も今では消費し盡された。騾馬は森のなかへ索いて行かれそこで斃死するに任されてゐる。子供たちは着物が無いので學校へ行くことができない。赤十字が最後の頼みとなつてゐる』(4)。

(4) 『シカゴ・トリビュン』(一九三一年二月二十八日の『リテラリー・ダイジェスト』誌上の引用)。

合衆國、オクラホマ州——

『彼等がどうしても拂ひ得ない負債及び抵當期限の到來は、獨立農業者の數を急速に減少させてゐる。彼等は小作農になつてゐる。オクラホマの廣大な地域が保險會社の所有に歸してゐて、農業者は今ではその賃銀労働者となつてゐる』(5)。

(5) 『タイムズ』一九三〇年十一月十七日。

カナダ、サスカチエワン州——

『南部サスカチエワン州では……一月中旬には農業者は第一號小麥(最上品)一ブッシェルにつき三十五セント、燕麥では十五セントしか受取らなかつた。彼等のうち少數の者だけが賣るべきものを多量に持つてゐるに過ぎない。……穀物の賣上げが打穀費を支拂ふにも足りなかつた者もゐる。……かうした條件が存在してゐる地方では、貧しい農業者階級は、その食物を自家で焼いた粗悪な

パンに糖蜜か少量の馬鈴薯を交互に添へて食ふ程度に切詰めてしまつた。野鼠その他の地中に住んでゐる動物の炙肉やロシア菊のスープが餓死を免れる唯一の手段だつた場合もある』(6)。

(6) 『タイムズ』一九三一年二月十九日。

イタリ——

『ポレンタ(玉蜀黍の粉で拵へた傳統的な貧民料理)が再び昔のやうな光榮ある地位に高められねばならない。パンはごく僅かだけ、肉は殆んど全く農民の口に上さるべきでない。私はこれ以外に現在の困難から脱出する道を見出し得ない』(7)。

(7) 一九三一年六月十一日の『コリエレ・パドヴァノ』に掲載されたファシスト教授ピツォレロの言(一九三一年八月二十九日の『エコノミスト』誌上の引用)。

『幸ひにもイタリ國民はまだ一日に數回食事をする習慣を持つてゐない。それに國民の生活水準が低いから、缺乏や苦痛を感じることも少い』(8)。

(8) 一九三〇年十二月十八日のムツソリーニの上院での演説。

ハンガリー——

二年前、ハンガリーの一繪入新聞紙上に一頭の馬の肖像が載つてゐた。この馬は村の街道で發見さ

れたのだが、これには馬の旅券と一通の手紙とをくるんだ檻籠が巻きつけてあつた。その手紙には次のやうに書いてあつた。

「私はこの馬と一しよに秋の労働を終へた者です。私は冬の間にこの馬を食はせて行く飼料を持ちません。誰もこの馬を買はうと言ふ人がないので賣することもできません。この馬を撲殺することは情に於て忍びません。私は馬に自由を與へます。恐らくこの馬を食はせてくれる人もどこかにあるでせう。」

ハンガリーの住民二千を數へるある大きなドイツ人村の状態について、一九三三年十一月十九日の『ペスター・ロイド』紙上に掲載されたL・レオポルドの論説のなかに、次のやうな記事がある。

「村全體に新聞はたつた一枚しか來ない。一年間の鉛筆の消費は學校をも含めて百二十本である。床屋が次のやうに話してゐる。「村にはもう貨幣がてんでない。農民は鏝錢一文持つてゐない。だから大祭日でもなければ顔剃りに來ない。……この人々は貨幣を持たない。村全體でやつと二三ペンギョーもあるまい。人々はだんく貨幣で計算する習慣を失つてきた。それ以來村の小賣商でさへももう現金を持たなくなつて、小麦もライ麥も買ふことができない。貨幣價格を云々するものはもう全くなう。」」

日本——

「世界大戦による繁榮が終りを告げて以來ずつと續いてゐる農業恐慌が、現在のやうに多大の注意を惹いたことは曾つてなかつた。農業恐慌はその結果として、土地を有する農民數の不斷の減少、小作人と地主との間の争議の増加、向上心に富む青年子女の農村からの離村、農家家計の引續く缺損、支拂不能な負債の一層の山積を惹き起した。……農民は過去に於て次々に行はれた救済活動に幻滅を感じさせられた。これらの救済活動は結局のところ農民を犠牲として行はれたものであつて、彼等の苦惱の諸條件を永久化する以外には何の効果もなかつたのである」(9)。

(9) 『トランスバシフィック』一九三三年十二月七日所載のS・鴛尾の論文。

かうした引用はいくらでも續けることができる。恐慌の打撃の下に進められる被搾取農民の貧困化と窮乏化の姿は到る處同一である。不満は到る處に瀰漫してゐて、無數の農民……なつて現はれてゐる。これについては後に述べる。

一九三四年の凶作は地主の一部の歓迎するところとなつてゐるが、この凶作がいつも決つて食料品を買ひ足さねばならない貧農や小農の窮乏を破局的にすることは、何ら説明を要しない。自分の收穫では今年、自家の需要を充すに足りない中農の状態も一層悪化する。凶作による價格騰貴は、ごく少

數の地主や富農の上層だけを利するに過ぎず、農民のうちの被搾取層には一層甚だしい窮乏を齎らすのである。

〔五〕 プロレタリアートの窮乏化

プロレタリアートの絶對的及び相對的窮乏化は、………大會と………大會との間に尖銳化したテンポで起つてゐる。プロレタリアート………の増大にも拘はらず、大規模な頑強な、屢々流血をも見たストライキ——特に一九三三—三四年に於ける——にも拘はらず、資本の攻撃は全體としては有効であつた。資本は——國によつて不均等であり、方法を異にしてゐるが——恐慌の負擔を著しくプロレタリアートの………することに成功した。

労働者の状態………は、すべての國で次のやうな主要方向に沿つて行はれた。

- (a) 失業者(及び短時間労働者)の數の増加。
- (b) 就業労働者の實質賃銀の切下げ。
- (c) 労働の強度性の増進。
- (d) 社會的扶助の削減。

こゝで次の事實を特に力を込めて強調して置かねばならない。吾々が存在する唯一のものとして以下に於て労働者階級の狀態を解明するために用ひる公式の數字は色々な點でごまかしてあるといふことが即ちこれである。ブルジョアジーは労働者階級の狀態をヨリ良く見せようと努力する。多くの場合これらのごまかしは官廳數字そのものによつて證明することができる。大抵の場合、ごまかしを證明するには、こゝで吾々に許されてゐる以上の紙面を必要とする。だがブルジョア統計を土臺にしてさへ、労働者階級の狀態の悪化は全く明瞭である。

(a) 恐慌のなかでの大衆的失業と労働能率の増進

信頼に値ひする失業統計は全世界どこにも存在してゐない。農業労働者及び半プロレタリアの失業はどこでも含まれてゐない。吾々は官廳統計を再録し二三の例についてそのごまかしを證明し得るに過ぎない。

完全失業工業労働者の百分率

一九二九年	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
上	上	上	上	上	上
三三・二	三三・二	三四・三	四三・八	四七・七(a)	一七・五(b)

ドイツ(労働組合員)………

オーストリア(手当受給者)……………	二二・八	一六・二	二〇・二	二七・二	三二・一	二九・四
ベルギー(同上)……………	一・三	三・六	一〇・九	一九・〇	一七・〇	一九・〇
カナダ(同上)……………	五・七	一一・一	一六・八	三三・〇	三三・三	一九・七
デンマーク(同上)……………	一五・五	二三・七	一七・九	三三・七	二八・八	二四・七
合衆國(労働組合員)……………	二二・〇	二二・〇	二六・〇	三三・〇	三三・〇	二二・〇
ノルウェー(同上)……………	一五・四	一六・六	二二・三	三〇・八	三三・四	三三・三
オランダ(被保険者)……………	七・五	九・七	一八・七	二九・九	三三・四	三〇・七
イギリス(長期失業者)……………	八・二	一一・八	一六・七	一七・六	一六・四	一四・八
イギリス(一時的失業者) をも含めて……………	二・八	一六・八	二二・一	二五・五	二二・二	一七・四

(a) ドイツに於ける自由な労働組合の最後の數字、五月。
(b) 『ドイツ労働戦線』の統計。

これらの數字は失業の大きさの完全な様相を全く示してゐない。非常に廣汎に普及してゐる短時間労働や農村労働者及び貧農の失業等々は含まれてゐない。それにも拘はらず、これらの數字は、公式に發表された失業者數の百分率が一九三二年をも含めてそれまであらゆる國で増加し続けたといふこと、及び失業者數の百分率は從來の諸恐慌のどれよりも遙かに高いといふことを示してゐる。

だが特に重要なことは次の事實である。一九三三年の不景氣への移行及び工業生産の増加は、全く不釣合に僅かな失業者數百分率の減少しか伴はなかつた。

この特異な事實の説明は次の點にある。吾々がすでに恐慌前に……………大會當時に確認した傾向(10)、即ち最高度に發展した資本主義諸國に於けるマルクスの意味での産業資本——農業、工業、建築業、商品運輸——によつて就業させられてゐる労働者の減少傾向(11)は、恐慌合理化によつて本質的に強められたのである。言ひ換へれば、労働の生産性及び強度性の増進の結果として資本主義に於て絶えず行はれてゐる労働者の遊離過程は、資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの時代にはもはや生産の擴張によつては償はれないのである。生産の擴張は——すでに上述の部分で詳論したやうに——ますます短期間のうちにますますひどく資本主義的市場の限界にぶつかると。この資本主義的市場は、資本主義のアルゲマイネ・クリーゼの一層の發展と共に、生産可能性と販賣可能性との間の矛盾の慢性的な尖鋭化と共に、ますます狭隘となつて行くのである。エンゲルスが半世紀前に書いた次の文章の正しさは、今日特に明瞭に現はれてゐる。

『今日すべての大工業部面で生産を増加し得る速度は日毎に高められつゝあるが、これは増加した